



滿蒙經濟事情

第十八號

東京經濟社出版

庫文閣內			
函	五四九		和書
架	冊	號	類



3  
7  
4

332  
56649  
60

### 滿蒙經濟事情第十八號

#### 目次

一、滿洲に於ける棉花	一
一、赤峰西部地方一般狀況調査(續)	六九
一、磐石縣縣城事情	一九
一、第二松花江に於ける戎克及扶餘市場穀物集散近況	四五
一、支那農商法令表解(林業)	五三
一、山西省方面に於ける甘草概況	六一
一、長春附近に於ける農事經營の實驗	七一
一、林西の近況(一)	八七
一、同(二)附土城子近信	一〇一
一、南滿洲に於ける邦人經營鐵山一覽	一〇七
一、白音太來通信	一一三

目次

一、本書は當部滿蒙に關する産業調査上蒐集する資料を考査し周知を便し認むるものを逐次印刷するものとす。  
一、本書は滿蒙事情精通者に頒つ爲めに非らず未だ該地方を詳かにせざる母國人に汎く經濟事情を紹介し堅實なる起業の指針たらしむるにあり。

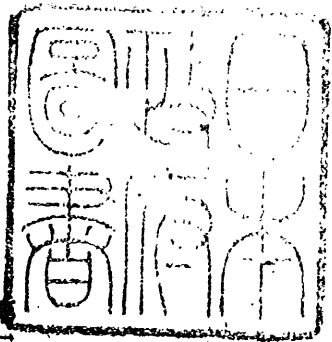
一、順序は特に産業交通等の區分を設けず速知を要する事項より記載し且つ他日合本に便せん爲め事項の異なる毎に紙を改む。

一、本書の記事は成るべく普及を計るため新聞雜誌其の他の刊行物に轉載せらるゝを望む。

一、本書の材料は民政部員の實地踏査に係るものを主とし他官衙、學校、會社等の調査書類を參酌す而して編纂に就ては囑託旭藤市郎之れに當る。

大正五年十月一日

關東都督府民政部



# 滿洲に於ける棉花

棉實及棉實油

和五〇六四九號

關託 白石 滿 産

## 目次

### 緒言

### 第一節 棉花の生産

一、棉花栽培地

二、棉花栽培面積及收穫量

### 第二節 主要生産地に於ける棉花栽培事情

一、棉花栽培の消長概況

二、土質

三、品種

四、品質

五、採種及選種

六、輪作

七、整地

八、播種

滿洲に於ける棉花

滿洲に於ける棉花

九、施肥

十、管理

十一、收穫

十二、調整

十三、試種

一、熊岳城に於ける棉花試種成績

二、公主嶺に於ける棉花試種成績

三、北支那に於ける棉花試種成績

### 第三節 棉花集散狀況

一、輸出

二、輸入

### 第四節 棉花の市價

### 第五節 棉栽培と他の主要農作物栽培との收支計算比較

一、遼陽附近

二、錦州附近

三、日本島取縣

四、朝鮮本浦

### 第六節 棉花の取引慣習並輸送荷造方法

一、取引慣習

二、輸送及荷造方法

### 第七節 滿洲棉花に對する將來の見込

一、遼陽地方

二、錦州地方

三、其他の地方

### 附記

一、陽裡棉花

二、支那棉花栽培獎勵

三、棉實

四、棉實油

### 緒言

現に滿洲に需用せらるる綿は支那棉、外國産及滿洲地方産の三種とす然れども滿洲に於ける棉花の産額は僅少なるを以て需用の大部分は支那棉及外國産に依りて充されつゝあり。滿洲棉花の現産地は鐵嶺より康平に亙る一線以南即ち蓋平、海城、遼陽、瀋陽、鐵嶺、本溪、法庫、康平、黑山、北鎮、義、錦、錦西、朝陽の各縣にして其以北には殆ど之を産せず而して此等の産棉地方中遼陽及錦州附近を最大産地とし其他は殆んど自家用として栽培するに過ぎざるを以て市場に搬出すること極めて稀なり加之支那人の栽培方法は徒に舊法に泥み何等改良を加ふるなく種子も亦多年在來種のみを用ひ品質劣悪纖維短太なるを以て

滿洲に於ける棉花

普通蒲團綿として使用するの外紡績用としては不適當なり然れども近時支那に於ける棉花改良問題は獨り外國専門家に於て種々實驗研究せられ居るのみならず支那朝野の識者間に於ても盛んに改良を唱導せられ北京農商部は其農事試驗場に於て諸般の試培を行ひ特に米國より斯道の専門家を招聘して極力研究の歩を進め一方民間識者に於ても周到の研究を重ね最近更に程藕初(米國農學博士)黃首民(米國農學士)聶雲臺等の有志の發起により中華植棉改良社なるものを組織し左の如き趣意書を配布して一般を警告しつゝあるの狀態なり

中華植棉改良社設立趣意書

我國は人口多きこと全球各國に冠たれども棉花の産出稀少にして産棉諸國の背後に在り世界棉産國を凡そ四とし北米を首位に推し印度之に次ぎ埃及又之に次ぎ支那は最下に座す最近の調査に據れば米國産棉額は全世界の六割五分を占め我國産棉額は僅かに百分の五を占むるのみにして我と米國とを比較せば僅かに其十三分の一に過ぎざるなり是れ何故なるか天惠論を以てすれば我と米とは共に最大の棉作適地を擁す米に在りては適棉の地帯を有するが我國揚子江流域は大に棉作に宜しく恰も米國産棉地帯と鬚鬚たりされば棉産に就て言へば我と米とは當に相伯仲し居るにも拘らず生産額は何ぞ相去る是の如

く遠きや且つ常に産棉數少なきのみならず棉質甚しく劣り其能力は二十番手以下の太絲紡績をなし得るに止まり二十二手、四十二手の細絲を紡がんと欲すれば必ず印度棉、米棉、埃及棉の供給を仰がざるべからず此絶大なる膏腴地を有し此絶好の氣候を有し更に代價低廉の工人を有しながら自國原棉の供給狀態斯の如くなる其實業して誰にか在る殊に歐洲戰爭の終結も斯して遠からざる可く然る時は彼は彼に失へる所のものを我に取償せんとし戦後我が大陸は必ずや諸工業國の發展活動の目的地となるは明かにして今にして十分の用意を講ずるに非ざれば悔ゆるも及ぶなく機會は得難くして去り易し悉力提倡は我が農工商學各界の識者皆茲に責あり我が業を棉産に託するの諸君子は最も無限の責を擔ふ可きものにして中華植棉改良社を設立せるの本意即ち茲に在り

中華植棉改良社簡章

一、命名 本社は内國棉産の同志を聯絡振興し知識を交換し棉業改良の普及を求むるを以て主旨となすが故に中華植棉改良社と命名す

一、宗旨 本社は政治に涉らず専ら棉産の研究を以て範圍となす冀に天然の地利を以てし施に人力の改良を以てす庶し將來東亞の棉産は商戰の健將たるべく用ゐて實業を興

し利権を挽回す分社を設けず岐路に趨るを許さず。

一、入社 凡て各界の有志にして棉産を提倡するの士は均しく入社を歓迎し以て廣く聯絡して進行を策す。

一、經費 社員は入社費及び年費を徴收せず其進んで補助をなさんとする者は之を聽く現在一切の費用は郁屏翰、聶雲臺、吳善慶、穆藕初の四君之を擔任す。

一、義務 社員は均しく本社の事業を發展せしむるの義務を有す即ち(甲)各出來得る限りの努力を致し或は獨力にて植物棉場を經營し或は合力にて植棉場を經營し(乙)各人近きに就き植棉改良を提倡し以て普及を圖ること。

一、權利 社員は同時に應に享くべき諸種の權利を有す即ち(甲)本社の購買せる良種子を低廉の代價を支拂ひて其配分を受け得其種法大要は種子に添付して送る(乙)改良新棉は收穫後本社の紹介により十分の價格を以て賣却し以て農家の缺損を免れしむ(丙)本社に設けたる植綿試驗場中より出す所の報告及一切の印刷物は總て之を散給し以て研究に便す之等は費用を要せず(丁)偶々疑難の點あれば通信質問をなすことを得。

一、職員 郁屏翰君を舉げて社長となし穆藕初君を書記に尤惜陰君を會計となす。

一、棉場 本社棉場を浦東楊思橋鎮に設く。

一、本社所在地 本社は上海楊樹浦華德路高麗橋東德里八〇六號内に設く。

一、修正 本簡章は未だ十分盡さざるものある時は隨時之を修正す。

發起人 聶雲臺、郁屏翰、吳善慶、黃首民、尤惜陰、穆藕初

されば當滿洲に於ても漸次棉作者の覺醒を促し植棉事業の改良發展を見るの氣運を醸生するに至るべし現に紡績界に於て使用せられつゝある最短棉花は〇・七吋内外にして更に混合棉には産地に依りては〇・五吋の極めて短かきものすら使用されつゝあり朝鮮産に就ても近來外國種殊に米國産の優良なるものを輸入普及せしめたる爲め著しき好成績を擧ぐるに至りたるを見れば當滿洲にも優良種の輸入を爲し更に栽培方法の改善に努力せば多少風土氣候の關係を有するとも相當成績を擧ぐるに至らんが以下項を分ちて其の見聞の大要を示さん。

### 第一節 棉花の生産

由來滿洲に於ける棉花は主要農作物栽培の傍ら農家の自用に供する爲め小面積に栽培せら

滿洲に於ける棉花

あるもの多く錦州遼陽附近は其の地方の需要に供する外市場に輸出し稍や商品としての位置を存するあるも概して生産数量は大ならず殊に交通の發達に伴ひ諸外國より比較的低廉なる綿絲及綿布の輸入せらるゝに至り遼陽以南の如きは漸次衰減し僅に餘喘を保ちつゝあるの有様なり唯歐洲戰亂の勃發以來棉價の昂騰を來したる結果多少植棉の増加を見たるが如しと雖如斯は一時の現象に過ぎず之が爲め滿洲棉花の將來を豫測する能はざるべし。

一、棉花栽培地

地方	栽培範圍
熊岳城附近	十數年前は熊岳城の東南山麓二、三十支里の地に栽培したるも漸次衰退し目下は殆んど無し
大石橋附近	大石橋の東南十二支里乃至三十支里内の左記各村、虎臥屯、三家子、梅羅舖、關馬山、三家舖、麻水志、李麻屯、張家屯
海城附近	東南方に點々栽培を見るも市場に出でず數量も亦少なし
遼陽附近	遼陽の東南一帶の地に於て太子河の沿岸及山麓地に種植す遠城を距る五十支里乃至百四十支里の左記各村、大安平、小屯子、上下平洲、南北孫家寨、石橋子、湯河子、山頭子、張家河、馬路溝、三道河、鳴鳴寺、大興屯、黃土崗、量爾屯、屈家坊、子、山頭子、張家河、馬路溝、三道河、鳴鳴寺、大興屯、黃土崗、量爾屯、屈家坊、上下、連連河、白雲寨、上下麻屯、東新堡、文家溝子、北關寺、老鎮鎮、四花溝、牛泉鎮、甲山、七鎮子、張家屯、小鎮子、大西溝、疙疸寺、南北孫家寨、
錦州附近	當地附近は遼東に於ける主要生産地とす 石山站、上下石廠、凌河沿岸

二、棉花栽培面積及收穫數量

地方	栽培面積	收穫量	摘
錦州附近	虹螺峴、暖地塘、撫民所、江家屯、餘家屯	五〇〇〇〇	一、數量は統計の正しきものなく多くは地方農民又は取扱商店に就き調査したるものな綜合し精確さと認めたるものな記載せり
義州附近	義州、稍戶營子、札木林子、閭陽驛	五〇〇〇〇	
朝陽附近	羊山、六家子、房身	七〇〇〇〇	二、一田地は約我六反
其他	虎石臺、鐵嶺、中固、法庫門、康家屯、小黑山、本溪湖	三〇〇〇〇	三、一斤は約我百五十匁

地方	栽培面積	收穫量	摘
熊岳城附近	三〇〇	五〇〇〇〇	一、數量は統計の正しきものなく多くは地方農民又は取扱商店に就き調査したるものな綜合し精確さと認めたるものな記載せり
大石橋附近	二〇〇	五〇〇〇〇	
海城附近	三五	七〇〇〇〇	二、一田地は約我六反
遼陽附近	四三三〇	一三〇〇〇〇〇	三、一斤は約我百五十匁
錦州附近	一〇〇〇	三〇〇〇〇〇	
錦州附近	二〇〇〇	六〇〇〇〇〇	
義州附近	一、一六〇	三五〇〇〇〇	
朝陽附近	二〇〇〇	四〇〇〇〇〇	
其他	一〇〇〇	二〇〇〇〇〇	

滿洲に於ける棉花

計

一一七五五 三二二〇〇〇

第二節 主要生産地に於ける棉花栽培事情

一、棉花栽培の消長概況

イ、熊岳城地方 同地方東南一帯の地は古來農家の副業に僅少の栽培ありたるも外國輸入棉花の壓迫と勞銀の騰貴等の爲め收支相償はざるに至り年々衰頽の状況にあり。

同地古老の言によれば棉花栽培の地質と落花生栽培の地質とは殆んど同一のものなるが故に比較的手數多き棉花の栽培よりも手數を要せざる落花生の栽培を好むの傾向は遂に後者の進蝕する處となりたりと。

ロ、遼陽地方 久しき以前に在りては産棉甚だ少く需用を他に仰きつゝありしも近年漸次發展し品質も亦他に比して優秀なるが故に其名漸く高く遂に滿洲に於ける唯一の棉産地となれり。

ハ、錦州地方 此地方に於ては從來相當の發達をなし加之棉は砂質の輕き地に能く生育すると他の作物に比し鹽分に對する抵抗力強きことにより錦州、錦西、北鎮等の地方は

砂土利用の好作物として歡迎せられ今より十數年前は最も隆盛を極めたりしが其後貿易の盛なるに従ひ稍や一般に衰微の兆あり但し歐洲戰亂以後再び棉花の勃興にあるに至れりと聞く。

二、土質

イ、遼陽地方 砂礫石土、黄土等にして黒土は不適當なり。

ロ、錦州地方 砂土又は砂質壤土

三、品種

イ、遼陽地方 在來種、莖丈二尺四五寸分枝比較的によく莖は小なるも一莖に十二、三乃至二十二、三を附著す花色に白、紫の二様あるも白色最も大部を占む病虫害及早魃雨濕等の抵抗力強し。

ロ、錦州地方 在來種莖丈二尺三、四寸乃至七八、寸分枝遼陽産に比し稍や少く莖は圓長にして二寸乃至三寸一莖十二、三乃至二十餘を結ぶ花色は義州、朝陽、興城方面は紫色多くして錦州、錦西附近は白色多し。

四、品質

滿洲に於ける棉花





錦州棉、支那棉、遼陽棉の三者を比較するに錦州棉は其の色最も白くして支那棉、遼陽棉の遠く及ばざる所なり然れども其の弾力の二者に及ばざるを缺點とす弾力の強きは遼陽棉を第一とす遼陽棉は色合錦州棉に及ばざるも支那棉の上であり上等の品に於ては錦州棉に匹敵するものありと言ふ左に参考として各國産棉花の品質比較概評を記す。

(日本紡績聯合會其他各紡績會社の調査に係るもの)

A. 米國棉

色澤 白色にして光澤に富む然れども産地に依りては稍褐色を帯べるものあり劣等なる米棉は灰白色にして光澤少なきものもあり。

纖維 細長にして柔軟且彈性に富む(長さ一吋内外(2.5—3.1)徑0.0075吋)本邦にては主として中絲の紡出に用ゐらる。

夾雜物 少なく品位は埃及棉に次で佳良なり。

B. 印度棉

色澤 白色又は褐色を帯べるものあり又赤みを帯べるものあり光澤は一般に佳良なり纖維 長きは米棉に比すべく短きは日本棉、支那棉に等しく多種多様なり(長さ1—1.5)剛

軟も種々あれども一般に多少粗剛にして且多少強靱なり。

夾雜物、多く品位中等なり二十番手以下太番絲に用ゐらる品質米棉に劣る。

C. 支那棉

色澤 白色清淨にして光澤あり稍日本棉に似たり。

纖維 一般に短太にして粗剛なり(長さ1—1.5)

夾雜物 は少なきも水分多きもの多し(斤量を多くする爲特に水氣を加ふる故)中には水氣の爲變色せるものあり主として太番絲として用ゐらる品位略印度棉に匹敵す。

D. 埃及棉

色澤 白色又は褐色、光澤は最も佳良にして恰も絹絲の如き光澤あり

纖維 極めて細長(長さ1.5—1.7吋徑0.00073—0.00077)柔軟にて彈性に富む夾雜物、少なく輸入棉花中品質第一なり本邦にては六十番手以上の細絲を紡出するに

用ゐらる現今世界に於ける棉花中シーアイランド種に次げる良纖維なり。

E. 朝鮮棉

色澤 白色にして光澤佳良なり。

滿洲に於ける棉花

纖維 一般に細長にして柔軟なり(エーミー)然れども米棉等に比すれば稍太く且粗剛なり。

夾雜物 少なし。

F. 日本棉

色澤 白色光澤あり。

纖維 短太粗剛。

夾雜物 少なし。

五、採種及撰種

イ、遼陽地方 種子は自家生産のものにして採種上特別の選擇法なし。

ロ、錦州地方 同前。

六、輪作

イ、遼陽地方 毎年連續栽培す。

ロ、錦州地方 同前。

七、整地

イ、遼陽地方 犁を以て數回翻起するのみにて精細なる整地法を行はず或る處に於ては胡麻と共に栽培す。

ロ、錦州地方 同前。

八、播種

イ、遼陽地方

A. 播種期 穀雨(舊曆三月十一日)前後とす。

B. 播種法 元肥を埋めたる畦間に淺く作條を設け一人は足にて土塊を碎きつゝ前進し一人は其の足跟の窪地に下種し淺く土を覆ふ種子は豫め清水に浸して能く揉み沈

澱したるものを採り灰(棉稈灰を最良とす)を塗付したるもの。

C. 播種量 每畝三、四十斤。

ロ、錦州地方。

A. 播種期 舊四月上旬。

B. 播種法 遼陽地方に於けると略ぼ相同じ處により千鳥形に撒播す。

C. 播種量 每畝二、三十斤。

滿洲に於ける棉花



九、施肥

イ、遼陽地方 糞堆肥(牛馬糞)にして他の肥料を用ゐず。

ロ、錦州地方 同前

十、管理

イ、遼陽地方

A. 間引 舊四月上旬第一回の選苗をなし再後二、三回之を行ひ每簇中に於ても最強大なる一莖を留む。

B. 中耕 數回除草と共に去る。

C. 摘心 成科二尺内外に及び贅芽の摘除と共に之を行ふ。

D. 病虫害 發芽二、三寸當時天候に依り蜜蟲(油蟲)の簇生して害を成すことあるも既に四、五寸に達せば被害の程度輕く是等に對する驅除なし。

ロ、錦州地方 遼陽に同じ。

十一、收穫

イ、遼陽地方

- A. 收穫期 舊七月下旬其成熟したるものを取る之を白花と稱し最も上等のものとし八月中旬第二回の採取をなす白花に次ぐの品にして微紅色を帯ぶ八月下旬より九月中旬迄に棉莖と共に刈り取り最終の取り入れを成す此棉を紅花と稱し最下等品とす
- B. 收穫法 蒴の熟したるを俟ち婦女又は小兒を使役す是等は採取せる棉桃を己が衣套(カクシ)に容れ滿つれば畦傍にある筐篋に移し再び前の動作を取る婦女、小兒の賃金は毎斤三、四厘とす。
- C. 乾燥法 高粱稈を以て編みたる簾を屋上若は日射善き場所に置き二、三日間乾燥せしむ此の間數回攪拌して乾燥を均一ならしむ。
- D. 一畝に對する生棉收穫量

年次	數量	繰綿歩合	摘	要
大正四年	二十三、四斤	約四割	摘	摘採すべき土人數人の首を綜合せるものなり 大正六年は近年になき豐作なりしと
大正五年	三十斤内外			
大正六年	三十五、六斤			

ロ、錦州地方

- A. 收穫期 最も盛なるは八月中旬とす。
- B. 收穫法 遼陽に同じ採收者賃金毎斤三、四厘。
- C. 乾燥法 遼陽に同じ。
- D. 一畝に對する生棉收穫量。

年次	收穫量	繰綿歩合	摘	要
大正四年	二十四、五斤	四割弱	摘	<small>           積信すべき土人數人の言を綜合せるものなり            大正六年は播種當時の降雨と採收時に於ける降雪とにより非常の凶作なりし         </small>
大正五年	三十二、三斤			
大正六年	十二、三斤			

十二、調整

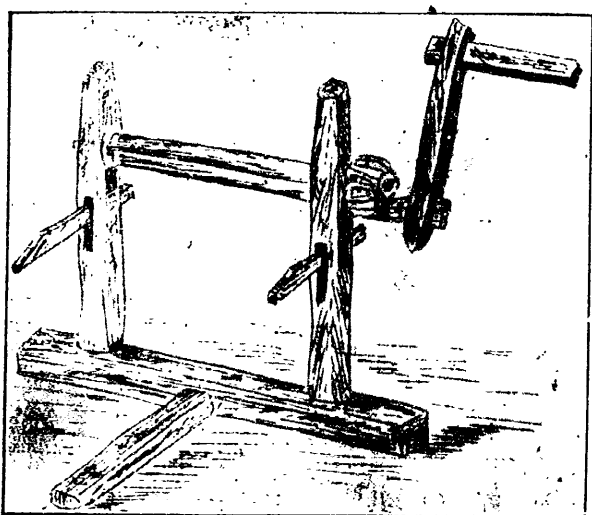
イ、遼陽地方

- A. 繰綿法 従來舊式棉繰器(第一圖)を使用せしも四五年前新式棉繰器(第二圖)の輸入ありてより多くは之を使用す輸入當時に在つては試験的に一村若は一部落合資の

下に一臺を購入して使用の結果有利なることを認め目下各戸一臺若は二臺を買ひ薄資者に向つては貸貸をなす者もあり之を發賣元たる營口達見商會に就き調査したるに同地方に輸出したるもの既に三百餘臺に上り今後の賣行きも亦有稟なりと。

熱棉花約三十斤を程度とす遼陽には棉花房十四、五軒ありて大なるものは弓匠十餘人小なるは二三人にて彈出す四五年前より新式彈棉機(第四圖)輸入せられたるも賃金の點に於て彼に及ばざるが爲め支那人の使用

舊式棉繰機(第一圖)

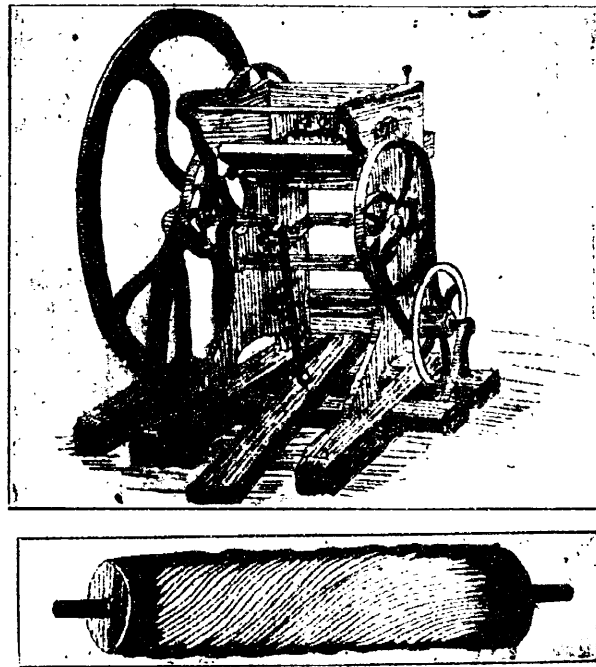


- B. 棉打法 綿打は我國舊來のもの(附圖第三)大差なく弓匠一人にて彈出する

滿洲に於ける棉花

滿洲に於ける棉花

新式棉繰機(第二圖)



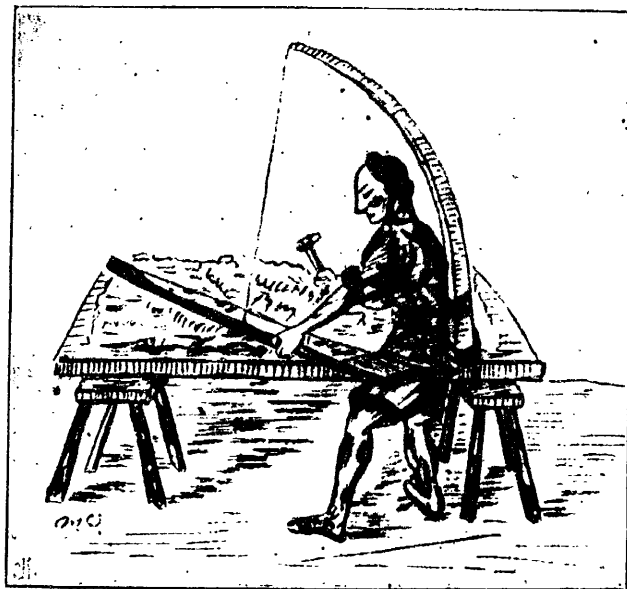
は一、二年連続使用したる後は之を放棄したるに近來打直しの有利なる認め之を依頼するもの多し

二〇  
するもの少く僅に邦商  
二三の手により使用さ  
るるに過ぎざるべし  
原産地に於ても生棉花  
を弾出する事あるも唯  
に自家用に供するのみ  
にして販賣品にあらず  
其彈出法も亦市中のも  
のに比し拙劣なり  
邦商にして古綿打直し  
を成すものあり從來支  
那人は布團綿、衣綿に

C、販賣棉花は直ちに賣買せらるるものにあらず各産地に於て生棉花となし毎十斤

を一梱とし十  
梱即ち百斤を  
一包となし荷  
造りして初め  
て市場に上す  
を常とす其市  
場に入るや總  
て棉花房(綿  
打屋)に販賣  
し棉花房は綿  
打ち器にて生  
棉花を熟棉花

舊式彈棉機(第三圖)



於ても販賣するものあれども多くは雜貨店にて販賣するを普通とす

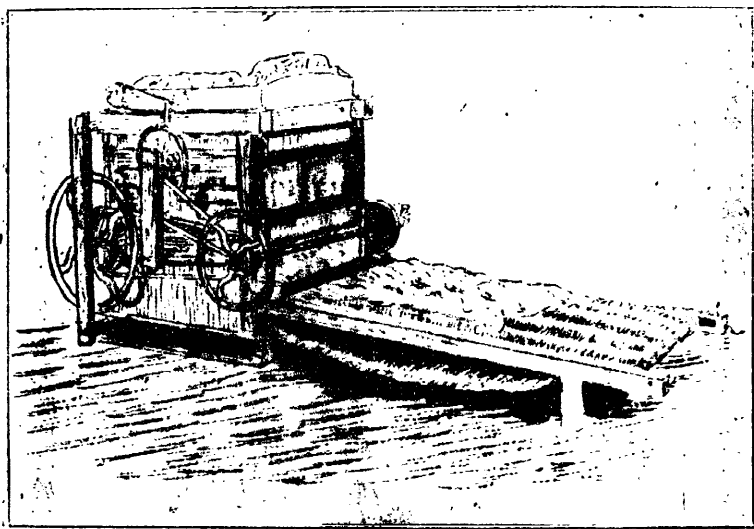
となし上等白  
花は多く條花  
(綿絲を製す  
る爲めに細長  
く巻き付けた  
り)として販  
賣し二三等品  
は熟棉花した  
るまゝ蒲團綿  
衣服綿として  
販賣す其販賣  
店は棉花房に

二一

滿洲に於ける棉花

遼陽市場に於ける棉花取引商は  
大略左記の如し  
而して其の取扱  
高は大なるは十  
四五萬斤小なる  
は二三萬斤とす  
西街 福春興、  
永 永巨興、元泰  
東街 仁記棧、  
天增福、元泰  
福、利順德、  
利順全、大順

新式彈棉機(第四圖)



成、新昌成  
北街 天泰西棧、  
永興源、永成恒  
福慶公、天興益  
華泰昌  
南街 春源茂、福  
慶昇、順義達、  
德成潤、大成慶  
利升德、天增永  
公井恒  
邦人の經營するも  
のは天利東、山口  
公司、松隆洋行、  
東洋棉花公廠等

す。

ロ、錦州地方

A. 繰綿法 舊式繰綿器専ら使用され新式は百餘臺の輸入に過ぎざるも同機の利便を認め今後は需用増加の見込みなりと。

B. 綿打法 遼陽に同じ但し邦人の經營するものなし。

C. 販賣 錦州市場に上るものは産地にて打綿とせられたるものにして粉棉のもの少し當地の集散高は平均一箇年二十萬斤にして支那商は思惑買を爲し多數の在荷を手許に有する事なく纏りたる買附は概ね直接産地にて之を行ふ錦西、義州の棉産地に在つては收穫當時錦州の棉花房より店員を出張せしめ買附けをなしたる上打綿として輸出す。

年の豊凶により開店に多寡あり例年は二、三十戸内外なるも本年は凶作の爲め僅かに四、五戸の開店を見たるのみ。  
錦州に於ける棉花取扱店の大なるものを擧ぐれば

滿洲に於ける棉花

取扱店	大正四年	大正五年	大正六年
益發店	四〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
益興店	二九,〇〇〇	五五,〇〇〇	一六,〇〇〇
萬發店	一九,〇〇〇	三九,〇〇〇	二九,〇〇〇

十三、試植

一、熊岳城に於ける棉花試植成績(滿鐵産業試驗場) 耕種の梗概

- 一、整地春耕二回。
  - 一、肥料なし。
  - 一、播種 五月四日畦幅二尺の條點播になし播種量反當二貫目。
  - 一、間引 六月六日に行へり。
  - 一、除草 中耕六月十三日、七月九日除草を兼ね中耕し七月九日培土をなせり。
- 適否試験

一、目的 本試験の目的とする處は草棉が當地方の氣候風土に適するや否やを知らんとするにあり。

二、供試品種及種子取寄先

品種名	種子取寄先	栽培年次
支那在來黑種	平蓋	一年

三、圃場 砂質、壤土前作物は桑栽培地積三十坪

四、生育狀況

品種	支那在來黑種	品名	始種	摘來	黒種	状況
芽	五月十六日	五月十八日	不整にして不頁			

品種	夏至大暑	二百十日	秋分	收穫時
草丈	〇.四五 <sup>R</sup>	一.九九 <sup>R</sup>	三.八六	四.二〇
枝數	六.八	一四.〇	一四.二	一四.二

七月上旬に蚜蟲發生し多少虫害を受けしも驅除につとめたる結果大なる被害なく生育不良なりと稱する様にはあらず。

五、試験成績

品種	反當收穫	摘	要
黑種	七貫目	種子を除去せざるもの	

二、公主嶺に於ける棉花試植成績(滿鐵産業試験場)

品種	大豆	大豆
前作物	大豆	大豆
耕作時期	四月二十七日	五月十四日
下種期に於ける土壌の状態	中位にあり	朝温適度にして最良なりき
畦巾	一尺五寸	二尺
播種法	條播	一尺の距離に千鳥形に點播各二三粒宛
肥料の種類及施肥料	過燐酸石灰 三貫 硫酸 一貫五百目	前年に同じ

管理	生育の状況	播種期	開花期	成熟期
病虫害發生及被害の程度	無	四月三十日	六月四日にして稍長なるも不整なり	八月一日に始まり八月八日揃へり花色は黄色又は赤
管	六月十七日中耕除草 七月十六日培土 六月二十九日除草	六月十二日中耕除草 六月三十日間引及中耕除草 七月十七日培土	六月三十日運々として不振七月十日梢生育を回復したり七月十五日生育良好となり九月十日風害により不長となる十月二十五日刈取を終り	

各期に於ける作況	夏		大		秋	
	丈	葉數	丈	枝數	丈	枝數
二寸四分			二尺八寸	五	二尺九寸	八
					十三尺八寸	十

三、北支那に於ける棉花試植成績(直隸省保定第一植場)

一、種類 本所に於て植付けたる棉花の種類四あり。

- 涿州種 淺黑色にして少しく毛を帯ぶ。
- 南通州種 色黒く粒小にして極めて光潤あり。

滿洲に於ける棉花



3. 漳德府種 黃褐色にして毛多し。

4. 米國種 此種は支那に於て栽培すること已に三年に及びたるを以て米國初來の原種と差異あり。

一、土質 本所試験所の地は種植園内の低地にして粘質多し又鹽分を含みて原來棉花の植付に適せざるも人工と肥料とにより意を加へて冒險的に試種をなせり。

一、治地 植付地は之を三段に分ち毎段に四種の棉種を蒔付たり第一段は前年に西瓜を植ゑたる地にして秋間縦横に耕すこと一回本年復耕すること一回把勢を行ふこと一回第二段は前年棉を植付けたる地にして一畝に先づ馬糞八擔を加へ縦横に耕すること各一回更に糞を地内に翻へし本年復耕すること一回把勢二回を行ふ第三段は前年穀類を種付けたる地にして前年及本年耕すること各一回宛なりとす。

一、糞肥 第一段は毎地一畝に自製肥料一千斤及人糞百斤を給す第二段は前年給したる馬糞八擔の外に今年後自製肥料一擔を加へ四月中更に麻餅六十斤草肥五十斤棉子粉十五斤生泥(泥土)二百斤を補給す第三段は堆積肥料五百斤を給し均しく今春二月中旬地内に散布す。

一、作畦 本年二月(陰曆)中旬圃を作り第一段は毎圃一尺二寸を隔て第二段は二尺二寸を隔て第三段は八寸を隔て又別に圃を作らざる地十餘畝を設く。

一、選種 清水二斗に食鹽三升を加へ之に棉實一斗を入れ能く攪拌したる後浮出たるものを去り沈下したるものを取りて鹽分を除去する爲め清水にて洗ふこと五回再び微温湯に浸すこと二晝夜にして取り出し濕りたる盆内に入れ濕布を以て之を蔽ひ一、二日後萌芽發せんとするのときを俟て木灰(棉桿の灰を最佳とす)を振りかけ速に之を蒔付く。

一、播種 播種の法に縷種及點種の二法あり本所地質太た劣れるを以て惟畦背に點種を用ゐ其餘は均しく縷種を用ゐたり縷種には毎畝種子二升點種には二升半の割合にて蒔付けたり。

一、時令 本年の穀雨節は三月十二日にして同月十日米國種を蒔き十五日南通州及漳德種を蒔き十六日に涿州棉を蒔き付けたり播種後二日目に石轆車を以て壟を均し七日目にしつて芽を出すものあり十三日後一齊に出揃ふ。

一、選科 四月五日第一回の選科(苗を選むこと)を行ひ每簇強壯なるもの三、四科を留む十八日第二回の選科を行ひ每簇乃ち強壯なるもの二科を止む二十九日第三次の選科を行

ひ兩端苗の相對する處は大芽の如く喰違ひとなし重ならぬ様にす。

一、耕鋤 四月五日、十八日、二十九日、五月四日、十七日、六月一日、十五日の六回に分ち地を鋤く第二段は五回目に土を以て根を壅ひ第三段は鋤くこと二回に止む。

一、打尖 五月二十日後苗の高さ一尺餘となる二十六日中心の枝摘みを始め二十九日に至りて終る七月十四、五の兩日傍枝の頭尖を摘み去る。

一、摘又 民間植うる處の棉は苗の植方密にして肥料少なき故僅かに一、二回の摘又（芽を剪定すること）に止むるも本所に於ては第二段摘又七回、第一段五回を行ひ雨水盛なる時は約三日毎に摘又一回を行ふ第三段は摘又を行ふこと一回なりき。

一、去葉 民間に於ては去葉を行ふものなし本所に於ては第一、第二の兩段枝葉叢密にして光線を遮蔽し桃苞の全熟せざる恐れありしを以て九月初め葉の十分の七、八を摘去す（去葉の際農民之を見て笑ひしも十月初に至り去葉したるものは桃全く開きたるも爲さざるものは桃の開くもの僅かに一半に過ぎざりしを見るに及んで農民始めて愕然として大に悟る所あり又異言なし）

一、風雨 四月三十一日雨あり二十七、八兩日風あり苗の損害百分の二に及ぶ五月四日

雨、七日雨、六月三日雨、十二日風雨降霰あり百分の一を減す二十六、七日、九月十四日各降雨あり。

一、驅蟲 本所の棉樹は未だ蟲害に罹らず間地蟲の損害ありたれども鋤くこと二回にして消滅す後棉地中時に二、三蟻螂に似たる蟲を見る依て底間亂草を田畔に置き之を焚きたるに蟲皆飛て火中に入る此後竟に其痕跡を絶つ。

一、摘花 八月十五日後に於て新に花を開きたるものは結桃容易ならず假令桃を結ぶとするも極めて劣少なるを以て早く之を摘去し善良なる桃の發育力を助長するに加かず。

一、拾棉 六月七日始めて花を開き十八日桃を結び七月五日桃破れ同十八日に至り第一回棉花摘採を行ひ二十五日第二回を行ふ爾後五日を隔る毎に拾棉一回宛を行ふ九月二十五日第三段十月三日第一段八日第二段の摘採了る。

一、收穫 第一段は涿州、漳德、南通の三種每畝各實棉九十七斤米棉同百十六斤の收穫あり第二段は漳德、涿州棉各每畝百五十九斤南通州棉百六十四斤半米棉百七十五斤の收穫あり第三段は涿州、漳德、南通州棉各五十六斤米棉五十三斤に過ぎず桃の開裂したるもの僅かに十分の五、六なり

一、比較 第一段は苗の植方稍疏にして肥料中等毎科の結桃数は十餘個より四十餘箇に及ぶ。(四十箇に及ぶものは米棉なり)

第二段は植方疏にして肥料多し毎科結桃二十餘箇より七十餘箇(七十餘箇に至りしは米棉なり)に至る第三段は植方密にして肥料少なし毎科結桃六、七箇より十一、二箇に至る而して第二段結ぶ處の桃は第一段のものより形大にして第三段のものに倍大せり米國棉の桃は五箇の瓣を有し科の高さ三尺一、二寸枝の分出數二十二、三本に及ぶ其餘の三種は皆四瓣にして科の高さ二尺四寸枝は十四、五本なり米棉は實大にして毛筋長くして細し涿州棉は實大毛筋細長にして薄し南通棉は實小毛筋長くして厚く漳德棉は實大にして毛筋短かく且つ厚し涿州棉は實棉三斤より棉花十二兩(一兩は十匁)漳德棉同三斤より棉花一斤米國棉は同三斤より棉花一斤を産出せり。

如上是同地に於ける棉花試作の實績なるが由是觀之は北支那一帶の農夫の棉花耕作方法は本所試植に係る第三段即ち何等改良を施さざる最舊式なる方法に該當するものと如し故に今棉産地一般に改良を行ふ時は少くとも現今の産額を二倍乃至三倍に増加するは敢て困難ならざるが如し。

四、朝鮮木浦試驗場に於ける支那棉品種比較

目的 支那棉の收量及品質の優劣を知らんとするにあり。  
 試驗區別 試驗は十五區に分ち各區の作付歩數を十歩とす。

番 號	試 驗 區 別	種 子 原 産 地	輸 入 年 度
一	上海	上海	明治四十年
二	上海	上海	同上
三	上海市	上海	同上
四	太倉	太倉	同上
五	太倉	太倉	同上
六	通州	通州	同上
七	東鹿	東鹿	同上
八	正定	正定	同上
九	武陽	武陽	同上
〇	漢陽	漢陽	同上
一	孝河	孝河	同上
二	河	河	同上

滿洲に於ける棉花







の優劣を判じ難し。

纖維調査及一蒔實棉重量

番號	試驗區別	纖維の長さ	纖維の幅	一蒔實棉重量
一	上海種(舊輸入)	33.5	0.015	1.6
二	通州種(舊輸入)	33.2	0.015	1.6
三	上海市種	33.0	0.015	1.6
四	太倉白種	32.8	0.015	1.6
五	太倉黑種	32.7	0.015	1.6
六	通州種	32.6	0.015	1.6
七	東鹿種	32.5	0.015	1.6
八	正定種	32.4	0.015	1.6
九	武漢種	32.3	0.015	1.6
一〇	漢陽種	32.2	0.015	1.6
一一	孝感種	32.1	0.015	1.6
一二	蔡河種	32.0	0.015	1.6
一三	蔡河種	31.9	0.015	1.6

番號	試驗區別	纖維の長さ	纖維の幅	一蒔實棉重量
一四	沙市種	31.8	0.015	1.6
一五	新提種	31.7	0.015	1.6
平均	均種	31.6	0.015	1.6

纖維の最も長きは武漢種にして漢陽種及太倉黑種之に次ぎ最も短きは沙市種なり、纖維の幅は孝感種を最大とし正定種及裡河種之に次ぎ最も小なるは漢陽種なり而して支那棉は纖維概ね短大にして粗剛なるを以て在來棉纖維に比し遜色ありとす。

一蒔の重量最も大なるは正定種にして沙市種、太倉白種、孝感種及新提種順次之に次ぎ最も小なるは上海種なりとす。

上棉歩合及繰綿歩合

番號	試驗區別	選量		上棉歩合	繰綿歩合
		上	棉		
一	上海種(舊輸入)	157.4	147.0	93.4	331.0
二	通州種(舊輸入)	191.9	180.0	93.8	329.4
三	上海市種	164.0	156.0	95.1	327.8
四	太倉白種	210.3	191.5	91.0	327.0

滿洲に於ける棉花

五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	平
太倉	通鹿	東鹿	正定	武清	漢陽	孝感	裡河	蔡甸	沙市	新堤	均
一八九七六	一六五三八	六三三二九	九七六九九	一〇三三三	三九五五〇	三三三〇九	一六三二九	二二二二五	一五六七五	一九六〇三	一五〇九四
一七八二三	一五一八八	五〇〇六	八〇六三三	八九〇六	二二五六三	二二八八	一五〇九四	一一七五	一四五八八	一八三七五	一三八三四
一一・三三	一三五〇	一三・三三	一七〇六	一四・六	一三・八七	一〇・二	一一・三五	一〇・五〇	一〇・八七	一一・八	一一・二
九三九	九一八	七九二	八二五	八六三	九〇一	九三三	九三三	九二・四	九二・二	九三・八	九〇七
三七八	三七四	三八四〇	三九五〇	三三三	三三三	三七八五	三七八五	三七八〇	三六〇〇	三六〇〇	三六二八

四〇

上棉及繰綿歩合は共に頗る佳良にして又繰綿歩合は正定種最も多く通州種(舊輸入)東鹿種裡河種等に次ぎ最も少きは武清種なりき而して本年各種の平均三六%一八を在來棉各種の平均二四%九一に比するに一一%二七多し是れに由て之を觀るに支那種は朝鮮在來種に比し上棉歩合、繰綿歩合共に著しく優れりとす。

### 第二節 棉花集散狀況

- 一、輸出 滿洲に於ける棉花の需要は省内の生産を以て充實すること能はざるは曩に述べたる如し故に省内に生産せられたる棉花は省内に於ける地方に仕向けらるゝに過ぎずして決して省外に輸出することなし。
- イ、遼陽附近 輸出先は鳳凰、安東、岫巖、海城、鐵嶺、長春等にして鳳凰乃至海城は多く馬車便に依り鐵嶺、長春方面は概ね汽車便に依る何れも蒲團綿用にして輸出年額約三、四十萬斤とす。
- ロ、錦州地方 出廻高約七割は奉天以北主に哈爾濱、長春、吉林地方に行くものにして残り三割は錦州附近に於て消費せらる。
- 赤峰、林西地方より棉花錦州市場に出荷し熟棉花を戻荷として輸出することあり。
- 二、輸入 滿洲に輸入する支那棉及外國棉は大約左の如し。
- イ、外國棉花滿洲輸入數量及價額

滿洲に於ける棉花

滿洲に於ける棉花

四二

輸入關名	大正三年		大正四年		大正五年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
愛 州	四二四	八二六七	二一四	三,七四〇	九	一八〇		
滿 洲	一五三	二,〇二九	一九九	二,七二七	一七八〇	一,七七〇	二二六	
哈 爾 濱	四二	五三七	二二	二,四七二	二六四	四七二		
安 東	一九九	四,九七六	二	七九	二六四	四七二		
大 連	四	五三七	二	二四七	二六四	四七二		
牛 莊	六九	一,七七八	二八	五七	九六九	二二三		
延 吉	二二六五	二,七五五	二,六〇〇	五,五七八	六,六四三	二,九六四		
計								

支那產棉花滿洲輸入數量及價額

輸入關名	大正三年		大正四年		大正五年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
愛 州	六九二	三,二四四	三五四	九,一〇四	二九九	五,九八〇
三 姓 嶺						

輸入關名	大正三年		大正四年		大正五年		大正六年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
滿 洲	二二六	二,七二〇	二	四〇	八六三六	二〇,二四八		
安 東	五,一三三	二四,九六七	六,七六七	一三,〇八三	八,六三六	二〇,二四八		
大 連	二四	四〇四	七九	一,五二二	二,七八〇	六,二五四		
牛 莊	二八三〇	四七,二四五	三,六〇三	六,六八九七	三,六〇三	六,二五四		
計	三,四三〇	六三,二四〇	四,七五六〇	七,五五二七	四,八一九五	九,九六五		

此の外關裡棉にして陸路黑龍江地方へ輸入せらるるもの年額約十五六萬斤あり。

第四節 棉花の市價 (百斤に付)

地方別	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年
大 橋			五二	六二
遼 陽			三九	五七
錦 州		四〇	三五	六二
錦 州			三五	六二
山 海			三五	六二
奉 天			三五	六二
計			三五	六二

滿洲に於ける棉花

四三



上記の相場は統計の正しきものなきを以て可成信憑すべき左記商店若は個人に就き調査せるものを綜合修正したるもの。

- 一、大石橋 市場の商店
- 二、遼陽 支那商店張慶田及日商山口公司
- 三、錦西 知縣衙門及支那商合記春和長等
- 四、錦州 三井物産盛進商行各出張店及支那商滿德店
- 五、山海關 三井物産出張所
- 六、奉天 奉天商業會議所

第五節 棉栽培と他の主要農作物栽培との收支

計算比較

一、遼陽附近に於ける棉栽培と主要農作物栽培との收支計算比較  
イ、上等地十畝に對し

之入收	部 之 出 支										棉花	高粱	大豆	大麥	小麥	陸稻	粟
	種地	肥子	牛鋸	割湯	間工	打尖	檢棉花	壓工	地租	飼料							
棉花	2500																
高粱		1100															
大豆			1100														
大麥				1100													
小麥					1100												
陸稻						1100											
粟							1100										
之入收	2500	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100

滿洲に於ける棉花



滿洲に於ける棉花

差引利益	收入部		支出部										
	棉	石	種	肥	牛	割	間	打	檢	歷	地	飼	食
四二〇	一〇〇〇	一〇〇〇	五七〇	五五〇	〇六〇	一八〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
六六〇	三〇〇	五〇〇	二二〇	〇五〇	〇六〇	一八〇							
二二五	二七〇	二七〇	二二〇	〇五五	〇六〇	一八〇							
二九〇	二四〇	二四〇	二一〇	〇五〇	〇六〇	一八〇							
四七〇	三〇〇	三〇〇	二二〇	〇五〇	〇六〇	一八〇							
四七〇	三〇〇	三〇〇	二二〇	〇五〇	〇六〇	一八〇							
八一八	三〇〇	九〇〇	三三〇	〇五〇	〇六〇	一八〇							

四八

二、錦州附近に於ける棉花栽培と高粱栽培との收支計算比較

差引利益	收入部		支出部			
	棉	石	地	種	肥	租
十元四角	五十四元	五十四元	十六元一角	一元三角	四元三角	二十一元一角
						八角
						四十三元六角
						五元
						三十三元九角
						五元
						三十八元九角
						二元三角

如上の收支計算表は土人の言を其の儘記載せるものにして棉花栽培は他に比し非常に有利なるものゝ如し然るに其の作付面積は意外に狭小にして前記計算の有利なるに對比し奇異の滿洲に於ける棉花

四九

滿洲に於ける棉花

五〇

感なきを得ず是れ畢竟棉栽培は必ずしも毎年前表の如き收穫あるにあらすして僅に二年目乃至四年目位に斯る收穫あるものに過ぎず従て長年期間を通算するときは左程の利益を得難きに依るものならん現に日本及朝鮮の例に見るも甚だしき利益なきことは之を推知することを得べし左に参考として日本及朝鮮に於ける主なる棉産地の收支計算を掲ぐ。

三、鳥取縣に於ける收支計算比較

收入之部

種類	数量	金額	備考
生棉	生棉 四〇五	四〇五	生棉一貫金八十錢 棉幹十貫金十六錢 桑葉一貫金七錢 同夏の分金十錢 甘藷一貫金六錢
棉幹	棉幹 三三五	三三五	
甘藷	甘藷 二四〇	二四〇	春桑 四〇〇 夏桑 一〇〇
桑	桑 三六〇	三六〇	
備考			

支出之部

種類	金額	備考
生棉	〇四四〇	棉種子三貫一錢十五錢 甘藷十五貫五百分 一貫金十錢 桑苗代十五圓の一割を計上す
甘藷	一五五〇	
桑	一五〇〇	
備考		

勞銀内譯

種類	金額	備考
肥料	二二六七五	棉大豆糟四十貫十貫に付金二圓二十錢 木灰一斗に付金十五錢 甘藷海草百二十貫十貫に付金三十錢 大豆箱十貫 桑葉三百貫十貫に付金三十錢 大豆箱春夏を通じて五十貫
勞計	二六五五五	
總計	二〇九〇	

滿洲に於ける棉花

五一

種類	運人夫數		一日賃銀		總賃銀		備考
	男	女	男	女	男計	女計	
播種	〇八	〇	〇四〇	〇	〇三二	〇	〇一六
整地	〇八	〇	〇四〇	〇	〇三二	〇	
施肥	一六	〇	〇四〇	〇	〇六四	〇	〇六四
間引、中耕、除草	一〇	〇	〇四〇	〇	〇四〇	〇	
灌溉	一四〇	〇	〇四〇	〇	五六〇	〇	二六四
收穫	一〇	〇	〇四〇	〇	三六〇	〇	
調製及荷造	一〇	〇	〇四〇	〇	〇四〇	〇	〇四〇
被害豫防	一八八	〇	〇四〇	〇	七五二	〇	
合計	二八八	二二〇	二〇九〇	〇	二五八八	二二四〇	

滿洲に於ける棉花

收支計算

差引損益	支出總計	收入總計	備考
2	二六・五五	三六・五〇	<p>上掲の如く其收支相似なる作物なれば農家は交々耕作して勢力の分配を圖り彼此の利益を中和する上に於て必ず相互に耕作することの利益あることを認む</p>
2	二・九〇	二四・〇〇	
2	二・一八〇	三六・〇〇	
2	二・一八〇	三六・〇〇	
2	二・一八〇	三六・〇〇	
2	二・一八〇	三六・〇〇	

四、朝鮮木浦に於ける收支計算比較

項目	陸地棉	在來棉	水稻	大麥	大豆	粟	摘要
種肥	〇・三三	〇・四五	〇・三〇	〇・三〇	〇・一六	〇・〇九	
整地	〇・八四	〇・八四	一・六四	二・二〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
播種	〇・八〇	〇・八〇	一・五〇	〇・八〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
管水	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・二五	〇・四〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
收穫及乾燥	一・五〇	一・五〇	一・八〇	〇・四〇	一・〇〇	一・五〇	
地租	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
其他	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
合計	二・一三	二・一四	四・二四	三・一〇	一・一六	一・五九	

滿洲に於ける棉花

部	陸地棉	在來棉	水稻	大麥	大豆	粟	摘要
陸地棉	八・六〇	〇・七五	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
在來棉	〇・〇〇	五・二〇	〇・四五	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	
水稻	〇・〇〇	〇・〇〇	八・〇〇	〇・七五	〇・六〇	〇・六〇	
大麥	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	五・六〇	〇・四五	〇・四五	
大豆	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	三・五〇	〇・四五	
粟	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	〇・〇〇	三・六四	
合計	九・三〇	五・六五	八・七〇	六・六五	三・八四	三・〇六	

五二二

五二

差引損益

一七三三
二二四〇
一三三〇
一〇七五
〇二七二
〇五九九

第六節 棉花の取引慣習並輸送荷造方法

一、取引慣習 滿洲に於ける棉取引は遼陽及錦州を第一とす其の他は僅に自家用の殘餘を物々交換的に市場に於て賣買するに過ぎざるを以て特殊の慣習なるものを認めず。棉の賣買は仲介者又仲買の手を経るを普通とす邦人某は此仲介人を置かず直接取引を爲せしが其の結果良好ならざりしと云ふ又支那商は大豆の青田買(當年の收穫物を成熟前に於て買取預約するもの)と同様の方法に依り播種前後に於て當年收穫すべき棉の代金として若干金員を前貸し其の返済は必ず棉花を以てせしむる者もあり。

仲買人口錢(手數料) 百斤に付 三元

出產税 從價 百分の一・五

銷場税 從價 百分の二・〇

棉花集散地の開市日は左記の如し。

大石橋 一日、十日、十七日

遼陽 每日午前四時半開市

錦州

錦西 三、六、九日

虹螺岬 二、五、八日

二、輸送及荷造方法 遼陽附近の生産地よりは生棉花毎十斤を一捆とし十捆即ち百斤を一包として市場に搬出す市場より北方各地に輸送する場合は蓆子を以て梱包す其の包入斤量二百斤と稱するも約百八十斤位とす。

錦州附近の棉花荷造は百瓜(一瓜は八十匁にして十六兩を一斤とす即ち重量五十斤)を一括して之を蓆子製の籠に入れ二籠を一箇とし其の上を麻繩にて絡めるのみ而も其の包装に對し何等壓搾器械を用ゐざるを以て容積甚だ大なり従て十噸貨車の一臺に僅か九十包位を積み得るのみなり。

輸送の方法は一定せざれども棉の集散地又は生産地よりの輸送大略左の如し。

市場	輸送の方法	
	生産地より	輸出先へ
遼陽	荷馬車を使用す	綏化、鳳凰城、柞木城、奉天等の近距離の輸送は荷馬車にして長春、吉林、哈爾濱等は汽車による

滿洲に於ける棉花

錦州同

附近の地は荷馬車による  
蒙古地は荷馬車と駱駝等による  
奉天、吉林、長春、哈爾濱等は汽車による

遼陽より哈爾濱迄の輸送賃金は百斤に付二圓四、五十錢(諸掛共)錦州奉天間は五十一錢とす

### 第七節 滿洲棉花に對する將來の見込

一、遼陽地方 滿洲棉花の産地として錦州地方と並稱せられ栽培地積も稍や廣大なり殊に同地方は棉花栽培地として總ての條件を具備し農民も亦其の利益を認めたるの結果尙も栽培に適するの地は競うて之を開拓栽培するの傾向あり然れども棉花は他作物と異なり随意隨所に之を栽培すること能はざるの特性あれば其の地積も亦局限せらるる故に同地方に於て耕地の擴張は現在より多くを望む可らざるも優良品種の栽培を奨励普及せしめ更に栽培管理の方法を改良せば目下收穫量の約五割以上の增收を見ることが敢て難事にあらず。

二、錦州地方 錦州を中心とする遼西一帯の地は古來有名なる棉産地にして錦西、義州方面は最も盛なるの地なりしが輸入綿製品の壓迫により漸次衰退に傾きつゝありしも近年

綿價の昂騰と他作物の不作連年に互り農民は再び棉花の栽培を以て有利とし稍や規模を大にして之が栽培をなさんとするの状態なり殊に同地方は遼陽地方に比し充分に擴大すべき餘地を存するが故に當局者に於て民間企業家の奨励に努め優良種子の配付栽培管理方法の改良等を實行せしめ一面紡績業を勃興して其の需用を増大ならしめんか期年ならずして現下の倍額に上らしむること容易なりと認む。

三、其他の地方 小農民の手により他農作物の傍ら小規模に栽培し家内工業の原料として直接消費せられつゝある地方に在りては尙ほ栽培地として潤澤なる餘地を存す故に當局者に於て之を奨励し農民をして栽培に傾注せしむるときは多大の増加を來さん今是等地方の耕地面積の約百分の一を棉花栽培地と假定するときは左表の結果を奏す。

縣名	耕地面積	棉花栽培地	一天地收穫量	收穫量
蓋平縣	七八四〇〇 <small>天</small>	七八〇	100	一五六〇〇
海城縣	一七三七〇	一七三〇	100	一七六〇〇
瀋陽縣	七五一〇〇	七五〇	100	一八〇〇〇
法庫縣	一一三二〇〇	一一三〇	100	二〇四〇〇

滿洲に於ける棉花

滿洲に於ける棉花

本 縣	嶺 縣	平 縣	康 縣	彰 武 縣	計
三六〇〇〇	二七、〇〇〇	八八、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一、三四七、〇〇〇	一、七三三、〇〇〇
三三〇	一、七〇〇	八八〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七三三、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一、七三三、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一、七三三、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一、七三三、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一、七三三、〇〇〇

五八

奉天農業試験所員の説によれば開原以南は棉花栽培に適するも種子をして可成早熟性のものを選ばざれば降霜の被害を受くと而して以北は別表公主嶺農事試験所成績表に示すが如く絶対に不可なりと。

附記

一、關裡棉花

(當地棉花は滿洲と密接の關係あれば特に附記す)

灤州地方は由來棉花の産地として知らる灤州の西南四十支里の馬城鎮は舊來同棉花を以て所謂馬城印を製織し邊外塔子溝、八溝は勿論長春哈爾濱方面に多數輸出し其の名高かりしも光緒十二年頃灤河の氾濫により棉花栽培地は非常の損害を蒙り良田變じて砂地と化し棉花栽培不可能の慘狀を呈し之に代ふるに落花生を以てするに至り今日に及ぶ最も現在と雖も各地棉花を産せざるに非ざるも其の數量少許にして地方の需用だも充たすこと難はす。

す。

現今同方面棉産地として盛況を呈しつゝあるは灤州の西北二百支里の豐潤縣西南百二十支里の小集鎮の内地なりとす是等地方産棉花は大部分唐山に輸送され同地より近くは昌黎、山海關、天津より遠くは長春、哈爾濱方面に輸出せらるるものとす而して是等棉花取扱商は從來馬城印の關係上馬城鎮商人春秋二季直接産地に至り買附をするものと如し。(唐山、小集鎮、同六十五支里)

二、支那棉花栽培獎勵

(本記事はノースチャイナ、ケリニユリス及びペキ)

(ソヘワッドに記載する所を參考として轉載せり)

棉花産出の現況 支那に於ける棉製品の需要は逐年増加し來り英國、日本及其他の諸外國より輸入せらるゝ金額は約四億圓に達し今後益々増加せんとするの傾向あり。  
支那の棉花栽培は一時殆んど放棄せられたる姿にて其の産額も亦不明なれども其の栽培に就ては古き歴史を有し栽培の區域も比較的廣大なり然れども其の栽培法は頗る舊式にして種子の改良、選擇、肥料及栽培に關する研究の如きは全く等閑に附せられ何等の統一あるなし従て國內産出の状況を知ること能はざるも近時棉製品の需要激増せる爲め一般に稍や覺醒の時期に達せるが如し而して内地産の棉花は多く香港市場に集中し夫れより更に内地の諸市場及日本に輸出せられ製品となりて再輸入せらるゝあり現今印度、米國等より輸入

滿洲に於ける棉花



せらるゝ棉花も其の量次第に増加し年々約十一萬俵の輸入を見るに至れるが其の大部分は印度産なり。

紡績業の勃興 支那に於ける紡績業は原料棉花の品質良好ならざるのみならず資金も亦潤澤ならず殊に職工及監督者等の技術上の熟練せざる等により概して不振の傾向ありしが近時漸く發達の曙光を見るに至れり最近支那紡績業の發展は頗る顯著なるものありて新に五工場の新設を見又舊工場にして一時閉鎖せるものも事業を再始するもの等多きを加へたるを以て此等の工場が執業の曉には少くも百五十萬の紡錘を使用し得るに至るべく従て棉花の需要も激増するに至るべし。

棉花栽培不振の原因 支那の棉花栽培の不振に就ては種々の原因あれども其の主なるものを擧ぐれば

- 一、支那の棉花栽培區域は北は蒙古の境域より滿洲、山東及中部支那等に跨りて栽培せらるれど栽培地は各所に點在せるを以て何等の統一なし故に其の産額割合に僅少にして國內の需要にも充たすに足らざること。
- 二、支那産棉花は纖維短かく品質不良にして米國、印度、埃及等に比すれば劣ること數等を擧ぐれば

なるを以て輸入品との競争に堪へざること。

三、紡績工業の甚だ幼稚なるを以て自國の工場に於て輸入原料を完全に製造すること能はず又工場は從來設備不完全にして經濟上引き合はざるもの多きこと等なり。故に支那は棉花の栽培に適する地方多きに係はらず栽培の大に與らざるは如上の理由によるものなりとす。

政府の奨励 政府當局者及民間企業界に於て唱導せらるゝ處は第一に種子を改良する爲め米國、印度、埃及等の種子にして支那の地味に適するものを選択し棉花の栽培に經驗を有せざる支那農夫に栽培及施肥の方法等を教授せば相當の效果を見るは難からず。

英國は棉製品の輸出に就ては支那を重要なる市場とせり過般英國會議に於て一議員が支那の棉花栽培狀況に就て質問せるに對し外務次官は駐支英國公使の報告に基き答辯せる處に依るに支那の棉花栽培は近時大に改良の見るべき者あるに至れり就中北支那に於て殊に然るが如し而して其の主なる原因は印度及米國産棉花の價格騰貴が國內産出量の増加を促進せしむる動機となれると同時に政府當局者の奨励とが與つて力ありとす。

政府の棉花栽培を奨励するは積年の惡弊を去除する爲め阿片の原料たる罌粟の栽培を絶滅

せしめんとするに外ならず又地方農會にありても此等の必要上よりの棉花の栽培を奨励し種子の改良其の栽培及施肥の方法等の教授に盡力し政府も特に一九一三年四月棉花、砂糖、牧羊の各事業に對し補助金を交附せし一事は確に支那棉花栽培に好刺戟を與ふ漸次効果を奏するに至れりと。

### 三、棉實

棉の果實は蒴狀にして其の形狀は産地に依り相違す成熟するに至れば開蒴し内なる綿纖維叢中には多數の種子あり種子を包める綿纖維は棉繰機に依りて除去せらる。

綿纖維と種子との割合(重量)は産地及年に依りて相違あれども大約綿纖維三分一棉實三分の二とす。

棉實は歪印狀にして暗黒色を呈し其の質脆し種皮の外部には白、黄又灰白色なる長短不正なる綿毛を有す。

棉實は滿洲に於ける搾油種子中最も低廉なるが這は恐らく含油量少なきと其の用途狭少ながしが爲めならん然るに近年外國及日本等に於て之が需用盛んなるに至り農家も従前の如く是を輕視せず從て其の價額も高騰せりと。

棉實の生産額は棉と正比例を成すが故に棉産額の數量を知るを得ば其の量も略ぼ計算することを得昨大正六年の生産額は約二百萬斤と推定するも大過ならん而して棉實の儘消費せらるるもの約五分の一其の他殆んど黒油の原料として消費せらる。

棉實の仕向地は遼陽地方に在りては大阪、錦州地方は天津及芝罘にして其の數量甚だ僅少なり然れども外國の需用盛なるに従ひ漸次輸出増加の傾向あり。

容器は麻袋(一袋百三十五斤入)を普通とす原産地に於ける買付は百斤二圓四十五錢(大正六年十二月相場)位にして昨年比し約四割高騰せり。

### 四、棉實油

棉實油は其の色暗黒なるを以て土人は之を黒油と稱せり棉産地の大部落には極めて小規模の搾油所ありて農家の閑散時期副業として作業す而して原料は自家生産のものより外棉實百斤に對し黒油約六、七斤と交換し決して現金の受授を爲さざるの慣例なり。

搾油方法は極めて舊式にして簡單なる操作を爲す今其の概要を示さん。

搾油方法 棉實を日光に曝し之を乾燥して棉毛及介在物を除去したる後礮子(花崗石にて作れるもの)にて粉碎(馬、驢をして挽かしむ)し然る後之を葉の環形とせるものの中に置き

壓するものなるが其の壓搾の法たるや甚だ簡單なるものにして約二呎半角にして長さ八呎乃至十呎ある二本の木材を十八吋乃至二呎の間隔に併行せしめ其の兩端を臺木に打ち付けて直角形の箱を作り其の底部は格子となす即ち挽碎して蒸したる棉實を入れたる葉型を同一サイズの木製型に入れて壓搾臺の中央に置き其の明きたる所は更に側部の楔子を打ち込めば中央のもの弛む仕掛けにて斯く交互に打込みて壓搾すれば粕は葉型の如く漸次硬度を加へ油は之に従て底部の網目形とせる部分より下に設けある容器中に流入するものなり斯の如く全部木製器を以て搾油するものなるを以て螺旋式機又は水力器を以てするものゝ如く完全に行はれず幾分油の殘留するを免かれず。

搾油量は棉實百斤より棉實油約九斤を搾出す。

用途 滿洲に於ける棉實油は農家の點燈用及貧家の食用に供す（食用として使用せられざるに非ざるも食後微頭痛を訴へ時に汚吐を催することありと之或は臭味の關係より來る一種の神經作用か）又車軸用皮革用とするも多くは之を精製して桂花油と稱し婦人の梳髮用に供す近時精製油を豆油に混和して輸出するものありて物議を醸したることありと本邦に於ては搾取せられたるまゝの粗製油は着色多く樹脂化する性あり味も亦不快なる故通常此

儘にては使用せられず精製したるものは其の用途種々あり就中食用油として多量に使用せらる本油は嘗て毒性あるものと考へられしことある爲め其の臆説は今尙ほ一般の念頭より消失せざるの觀あり故に棉實油と標記して販賣せらるゝことは甚だしく通常適宜の商品名を附す單獨に販賣せらるゝよりも阿列布油、胡麻油、落花生油等を混じて此等の油名を以て食卓油、ザラド油等として販賣せらる此他麵粉用油及魚漬用油に適す。

米國にては人造豚脂の製造に使用す同國産棉實油の約三分の一は此目的に供せらる又人造牛酪（マーガリン）の製造にも多量に使用せらる。

棉實油の工業的用途は燈用、減摩油、石鹼料用、人造護謨製造用等なり。

燈用の棉實油は硫酸にて精製せるものを可とすアルカリ精製油は良品ならざれば灰分を含有し燈心を塞止することあり。

減摩用としては多少乾性ある故良好ならざるも屢々他油に混じて使用す石鹼原料としては各種の石鹼に使用せらる棉實油は稀薄液にして鹼化すれども鹼化を完行するには相當困難なり曹達石鹼は黄色にして硬し鹼化不充分なるものは屢々不快變敗臭を發し着色甚しきことあり。

棉實油粕 帶綠暗黄色の固塊にして滿洲にては飼料として大部を使用し又或は肥料となす土人の語る處によれば同粕は養牛の飼料に最も適し價格廉にして養牛の肥滿すること他粕の及ばざる處なりと本邦にては専ら肥料として使用せらる外國にては肥料及飼料に供す。ポット氏分析の棉實油粕は左の如し。

水	粗蛋白質	粗脂肪	無窒素抽出物	粗纖維	灰分	分析結果				
						最高	最低	平均	最平均	
一二・七四	四四・一九	二〇・八二	二六・七三	一三・五〇	七・四〇	六・二五	三五・六八	六・五九	一一・九〇	九・六〇
八・五二	二二・二七	二二・二八	九・二三	一・八八	一・七二	四三・二六	二二・四五	二二・三二	二〇・五〇	五・七〇

米國に於ては飼料として多料に使用せらるラウボーン氏の分析によらば

分析結果					
最高	最低	平均	最平均	最高	最低
一八・五二	五・二九	八・五二	二二・二七	二二・二八	四三・二六
五二・八八	二二・二七	四三・二六	二〇・六六	二二・二八	二二・四五
三・八六	九・二三	二二・三二	一・一五	一・八八	二二・三一
一〇・六二	一・七二	七・〇二			

水	粗蛋白質	粗脂肪	無窒素抽出物	粗纖維	灰分	分析結果			
						最高	最低	平均	最平均
一八・五二	五・二九	八・五二	二二・二七	二二・二八	四三・二六				
五二・八八	二二・二七	四三・二六	二〇・六六	二二・二八	二二・四五				
三・八六	九・二三	二二・三二	一・一五	一・八八	二二・三一				
一〇・六二	一・七二	七・〇二							

販路 遼陽地方に於ては棉實油は附近を重なる得意先とするも昨年来より大阪に輸出せるもの約一萬斤(?)北方吉林、長春、哈爾濱方面へ約二、三萬斤(?)にして多くは石油空罐(容量三十二斤)を容器として搬出するも稀に篋を用ふることあり錦州地方は一箇年の輸出高約七萬斤餘にして哈爾濱二、天津三、芝罘三及當地附近約二の割合なり。

# 赤峰西部地方一般狀況調查 (續)

大正七年二月上旬調

囑託 三 原作 一

## 目次

### 第十一、熱河

- 一、位置及沿革
- 二、管內主要官公衙所在地 附熱河蒙古各縣所在地及知事姓名其他
- 三、市街狀況
- 四、主要官公衙
- 五、交通
- 六、商業
- 七、外國商店代理店
- 八、工業
- 九、土產品
- 十、金融及貨幣
- 十一、度量衡

### 第十二、莊頭營子(灤河水運概況)

### 第十三、熱河至旺業店

赤峰西部地方一般狀況調查

- イ、通過村落
- ロ、一般状況
- ハ、獅子溝
- ニ、黄土坎
- ホ、旺業店
- ヘ、交通
- ト、牧畜

第十四、旺業店經安丹溝糧甫府至赤峰

- イ、通過村落
- ロ、一般状況
- ハ、安母溝
- ニ、太平地
- ホ、糧甫府
- ヘ、猴頭溝
- ト、交通
- チ、牧畜

第十一、熱河

一、位置及沿革 熱河は北京の東北四百八十支里、古北口の東北百八十支里にありて雍正元年熱河廳を設置せられ其後乾隆四十三年に至りて承德府と改稱し全直隸蒙古を統轄し來りたるが民國二年所轄州縣の獨立と共に承德縣に改めらる、承德縣は北百三十支里兩舖坑にて隆化縣に東百五十支里曹鹿口にて平泉縣に西十二支里廣仁嶺にて灤平縣に南二百餘支里にて遷安、遵化に境し全管内を六區十四甲(三百十三牌)に分ち戶數七萬一千餘、人口二十餘萬其内旗民十分二を占む耕地六千五百餘頃を有すと稱するも上土地は其四分一内外過ぎずして山地甚多し。

二、管内主要官公衙所在地(後節主要官衙參照)

△毅軍第三路及第四路所在地 毅軍は姜都統の率ふる軍隊にして現在三十三營あり、内

當地附近に駐在するものは

熱河第三路第十一營(步)統領	姜	姓
同 第十六營(步)同	李	姓
同 第十五營(馬)同	楊	姓
莊頭營子第三路第十二營(步)同	陳	姓

第四路第十七營(步)統領 周 姓  
同 第十九營(步)同 陳 姓

△巡警分駐所所在地

總所分駐所(縣知事の直轄に属するもの)

第一 莊頭營子 第二 獅子溝 第三 三道河子

四郷巡警分駐所(警佐尹怡恩の管轄に属するもの)

- 第一區 一間房 區長 李姓 西南百二十支里
- 第一分駐所 新杖子 所長 張姓 西南百十支里
- 第二區 上板城 區長 恒姓 正南五十支里
- 第一分駐所 磚瓦窰子 所長 白姓 正南二十五支里
- 第二分駐所 千栢河 所長 官姓 西南七十支里
- 第三區 下板城 區長 李姓 正南百支里
- 第一分駐所 柳河口 所長 周姓 正南百支里
- 第二分駐所 瀑河口 所長 官姓 東南百二十支里

第三同 郭杖子 同 范姓 同 百十支里

第四同 黃花川 同 于姓 西南九十支里

第四區 六溝 區長 劉姓 東北九十支里

第一分駐所 老爺廟 所長 蘇姓 正東五十支里

第二同 三溝 同 李姓 東北八十支里

第三同 岔溝 同 趙姓 東北百二十支里

第五區 頭溝 區長 張姓 正北七十五支里

第一分駐所 興隆山 所長 紀姓 東北百十支里

第二同 崗子 同 尹姓 正北百三十支里

第三同 楊樹林 同 雷姓 同 百四十支里

第四同 三十家子 同 李姓 東北百二十支里

第五同 高寺臺 同 吳姓 正北五十支里

備考 每區に巡警十名乃至二十名毎分駐所に六名乃至九名あり熱河市街は後附参照

△熱河徵收局所在地

赤峰西部地方一般状況調査

總局 熱河

分局 灤平

△商務會所在地

熱河 二間房

附

熱河蒙古各縣所在地及知事姓名

一等縣

承德

盧宗呂

赤峰

李文昇

距熱河

四百八十支里

朝陽

孫廷弼

同

六百支里

二等縣

豐寧

方大年

同

百八十支里

平泉

朱重慶

同

百八十支里

凌源

邱方選

同

三百六十支里

綏東

高洪飛

同

一千十五支里

開魯

張秉彝

同

一千百六十支里

三等縣

隆化

羅則遜

同

百二十支里

灤平

王樞

同

四十支里

圍場

唐炳麟

同

三百六十支里

建平

楊承采

同

五百四十支里

經棚

謝敏

同

八百六十支里

阜新

李樹聲

同

九百四十支里

林西

李傳勳

同

八百八十支里

備考 最近知事の大更迭あるを耳にせるを以て左に備考のため任用縣知事(有資格者の姓名を略ぐれば)

張時傑、周啓曾、孫汝鎔、繆 鎰、歐楊桓、趙樹潤、陳啓昌、楊玉璿、王 雍、任良金、戚廷煊、蔣尙榛、路金城、張瀛濤、宣洪烈、張 植、陳敷詩、張炳南、馮子建、馮獻廷、王大夏、吳慶霖、丁湛福、黃仕拜、劉 穡、葉 素

警察分所所在地 縣治所在地に警察所ある外左の各地に警察分所あり。

烏丹城、大明城、大開鎮、海留圖、大 廟、九道灣、郭家屯、四家子、榜牛營子、湯河口、張三營



熱河財政廳所屬徵收局所在地及局長姓名( )内は號なり。

- 承德 繆 鑰(幹博) 赤峰 張時傑(士宏) 王泉 任良金(季眉)
- 建平 吳慶霖(葛臣) 豐寧 陳數詩(漢生) 圍場 歐楊桓(仲坪)
- 凌源 盧宗岳(預生) 林西 馮子建(勳廷) 朝陽 張瀛濤(蓬仙)
- 阜新 杜秉倫(風池) 綏東 宋之廉(芷泉)

備考 熱河蒙古十五縣の内に関管は綏東に、遼平は承德に、隆化は圍場、承德、豐寧に屬する外經關は多倫縣に附屬するものとす

三、市街狀況 市街は赤峰朝陽方面より北京に通する要路に衝るも四圍山岳を以て蔽はれ熱河は市の東南端より南端に向て流れ西南十八支里莊頭營子にて滦河に會す此地は商業地に非るも熱河都統の駐在地として行政上の中心をなすと共に離宮の所在地として重要な地位を占む離宮は十七支里四方ありて市街の東北及獅子溝の西南を蔽ひ市街は其西南にありて行宮嶺の南は南營子の部落は遠く熱河を隔て、魏々たる山巔に達するも主なる街衢は東南より西南に通する約十支里の一條街にして草市街、皮秋街、石橋街、火神街、紅橋街の五區に分つ、現在戸數四千二百三十、人口一萬八千七百十にして商戸四百を算するも内大なるものは百餘戸に過ぎず。

#### 四、主要官公衙

都統署、軍械局共に離宮内にあり。  
道尹衙門、道尹を戚朝卿と稱し民政を掌る。  
財政廳、廳長を劉鳳鏞(權之山東人)と稱し兼て鑛務監督たり。  
警察廳(兼熱河全區警務所) 廳長を馮姓(天津人)と稱す。  
縣衙門(兼警察事務所及驗契事務所) 知事を盧宗呂(武昌人)と稱す。  
監獄所 所長を國仁泰と稱す。  
清理熱河官產所(兼莊地登記保證所) 所長を胡家銜(承德人)と稱し、豐寧、灤平、平泉の各縣に分所あり。

#### 各區警察事務所

- |    |    |   |   |    |    |   |   |
|----|----|---|---|----|----|---|---|
| 東區 | 所長 | 蘇 | 姓 | 西區 | 所長 | 李 | 姓 |
| 中區 | 同  | 張 | 姓 |    |    |   |   |

と稱し每區に一分駐所ありて三區巡警合計二百十餘名あり。  
熱河菸酒公賣總局 局長を梁文淵と稱し一箇年五十萬元の徵稅なりと。

熱河徵收局 局長を繆漢白(江蘇人)と稱し一箇年分局を合し九萬餘元の徵稅あるも本局のみは三萬八千元に達し内穀類一萬二千元、雜貨二萬元、牲畜六千元内外の割合なりと。各種學校 中學校一、高等學校二、幼等學校十餘、女學校四、女子高等學校一、女子教員講習所一ありて中學校生徒は熱河、平泉、凌源より來るもの多しと。

其他商務總會農會 苗圃、圖書館、兵營、菸酒稅捐所、電信局、郵便局、衛成病院、老爺廟、財神廟、福音堂(米國人)等あり。

五、交通 當地より各地への距離左の如し(支里)

隆化	二二〇	圍場	三二〇	赤峰	四八〇(經公爺府)
灤平	四〇	古北口	一八〇	北京	四八〇
豐寧	一八〇	多倫	五六〇	平泉	一八〇
凌源	三六〇	朝陽	六〇〇	天津	六八〇
灤州	五〇〇(水陸)	錫子山	二八〇		

水路は當地の西南十八支里莊頭營子より灤河の水運により下流灤州、樂亭二、上流灤平に通ず(莊頭營子の項参照)

通信機關に郵便局、電信局及電話あり。

郵便は二等郵便局にして局長を陳錫慶(天津人)と稱し一箇月取扱概數は

來信	千四百	平信(端書及新開を含む)	書	留	小包
往信	二千				

其他爲替を取扱ひ一箇年三四千元に達するも小口のもの最も多く天津北京に至るには毎元に付六分の爲替料を要す新聞は商戸の之を閱讀するもの少なし。

電信局局長を劉士芬(浙江人)と稱し一箇月一千二百件内外の來往ありて赤峰、北京に達するもの多し。

電話は都統公署に機械を備ふるも官設とも稱すべく加入者三十五あり。

六、商業 當地は行政上の中心たるに止り商業般盛ならずと雖奧地圍場の新開地を控ふる灤河水運の便あることにより夏季及秋冬農産物出廻期に於ては市場時ならぬ盛況を呈す當地に大小の商戸四百あり内主なるものを示せば

紅橋街

福成隆	糧店	長茂當	當鋪	蔚泰長	錢鋪
永豐源	布行	裕合德	錢鋪	永泰興	布行
吉盛永	布行	鼎豐號	雜貨	聚義長	錢鋪
天順興	糧店	永和成	糧店	永義公	鐵店
聚盛興	糧店	永興隆	雜貨	同聲遠	磨房
德義興	布行	增生裕	布行	桂蘭齋	菓行
聚豐齋	菓行	永聚德	磨房	福盛長	磨房
德裕厚	磨房	仁壽堂	藥房	養新店	店行
東來號	京貨	復盛永	細布	裕興公	皮行
保源棧	店行	通順油店	油行	復源永	磨房
德滙通	糧行				
石橋街					
興業銀行		錦生潤	錢行	協成泰	布行
聚源昌	雜貨	永聚隆	鐵店	富盛和	布行

永聚興	布行	德慶長	糧行	東興泉	布行
廣陞店	店行	天義棧	糧行	德盛和	細布
永生長	京貨	永茂局	估衣	同春堂	藥房
咸宜樓	飯館	富興樓	首飾	全福興	京貨

火神廟街

福聚隆	糧行	義成當	當舖	魁聚興	布行
魁泉盛	雜貨	懋和永	磨房	德厚長	錢行
聚村厚	布行	德慶祥	布行	同仁堂	藥行
大順永	雜貨	公和永	磨房	忻春易	糧行
德泰泉	雜貨	永聚昌	雜貨	萬全木版	木行
正春齋	鞋行	永泰德	磨房	益盛號	皮行

草市街

魁盛隆	雜貨	同義成	磨房	天義隆	糧行
廣義永	布行				



二仙居街

豫泰當	東福永	同裕當	福聚泉	道益永
豫泰局	東福成	德泰泉	德慶成	東福長
東裕興	德興隆	興泰隆	廣興源	德聚隆
德裕興	豫泰成	通聚永	德生樓	

備考 以上は商務會員たる百六十八月の内額より四等に至る商店名を掲げたるものにして一箇月左の會費を徴す。

頭等	十五角	一等	十角	二等	八角
三等	六角	四等	四角	五等	二角
六等	一角				

當地に輸入せらるる各種雜貨は悉く夏季濼河により仕入れられ陸路により輸入せらるると少なしと稱す今之が輸入徑路を見るに

濼州及樂亭 雜貨 北京、天津、洋雜貨、北京雜貨、磁器布疋等  
山 東 土布 實磁、新集、布疋

之が運賃を示せば

由北京至當地各種雜貨

每百斤

一兩三錢乃至一兩一錢

由實磁又は新集至林南倉

小件(百斤)

大洋錢 二角

由林南倉至當地

同

熱河錢 五角内外

由山東至遵化

每件(百三十斤)

大洋錢 平均五元

由遵化至當地

同

熱河錢 五角文

由饒陽至牛欄山

同

大洋錢 二元

由牛欄山至當地

同

一元五六角

而して當地に輸入せらるる布疋類は實磁、新集産のもの最も多數を占む。

備考 濼州及樂亭よりの運賃は莊頭營子の項参照。

當地雜貨取引は各地と異なり懸取引甚少なく現金買買は其の十分の八九を占むるが如し若し雜貨輸入に際し問屋を介する時は賣主より三分五厘の手數料を徴する外買主の他處のものなる時は爲替の關係等により買主よりも二分の口錢を徴するを普通とす。

七、外國商店代理店 左に當地に於ける福記公司及同和長の状況を聞くに

福記公司、執事を馬姓(玉田人)と稱し美孚油及英美煙草の代賣所にして毎年美孚油七八千

箱(重六十四五斤)の輸入あり内錐子山方面に再輸出せるもの二千箱内外に達す現在價格每箱現大洋六元一角にして何れも秦皇島より輸入す。

主なる煙草の輸入高及價格は

孔	雀	三百箱	每箱現大洋	百八十五元
單	刀	二百五十箱	同	二百四十七元
雙	刀	一百箱	同	九十八元

同和長、執事を楊姓(口裡人)と稱し亞細亞石油及東亞煙草の代賣所にして石油は天津より溧河を經舟運により一箇年六千七百餘箱を輸入す内再輸出地名及運賃を示せば

錐子山	五百箱	運賃每箱(六十七八斤)交通票	五	角
黃姑屯	一百箱	同	三	角
溧平	一百箱	同	一	角五分

當地に於ける價格は每箱現大洋五元五角にして天津より當地に至る運賃は每箱四角三分内外なりと。

主なる煙草の輸入高及價格は

雲	龍	三十餘箱	每箱(百盒)	百四十元
アイリス	十餘箱	同(三十盒)		五十四元

其他僧帽牌の蠟燭一箇年輸入高百箱(每箱二十五包)内外に達し其内錐子山に至るもの十餘箱あり每箱五元なり。

八、工業 當地は原と燒酒の醸造を禁せるを以て本市街に燒鍋なく燒鍋は何れも當地の東方各部落より輸入しつゝあり縣内燒鍋所在地は

頭	溝	三	六	溝	一	三	溝	一
四	溝	一	上	板	城	一		

なり。

其他工業として特記すべきものなく唯油房、磨房の二三あるのみ。油房は公和永油房、通順油房あり公和永は平作に於て一百石内外の原料を使用するも本年は四五十石を所要せしのみにして原料蘇子は糧甫府方面より輸入し製油は本街に販賣し每百斤二十五元内外なり磨房は多く雜貨商の兼業に係り小麦は何れも錐子山方面より輸入す德行、德盛公、福興厚、雙慶永、復興永、裕興公、福慶永の六あり。

炮舖、永興、永盛、萬泉、春發、復興、同發、四合興、秦姓の八あり、之等は當地に産する硝石を以て火薬を製造しつゝあり。

此外、毡子舖三、毯子舖一、大車舖二、小車舖一、銀匠爐二〇、鐵匠爐一二、木匠舖三〇あり。

備考 當地の特産物として外國人の愛重するものに楸木細工(俗に熱河細工)あり之が製造所は四五箇所ありて附近四五十支里の北方より産する楸木を以て机其他器具を製せしものにして其技術の巧妙にして價格の廉なるを以て世に知らる。

九、土産品 當地に土産品として擧げ得べきものなしと雖園場附近より來集する穀類及隆化、豐寧、承德管内より産する藥材の年額亦尠ならず。

穀類は園場及隆化より多く來り秋冬五等來集期に於ては毎日來市車輛數八九十に達し平年當地に集散するもの十萬石内外あり其内承德縣管内より産するものは僅に三分一に過ぎずして粟、高粱最も多數を占め六萬石に上る之等穀類は灤州、遷安、永平等より貨客來集し當地糧店に宿泊して之を買取り歸るを常とす。(莊頭營子の項参照)  
當地主なる糧店は

德源厚	廣盛永	義順合	永和成	福成隆	德聚長	屋號	張子王劉李于	掌櫃姓	本地口本本本	在籍地
聚盛興	福聚隆	福合興	天順興	德順通	德滙通	屋號	時劉王閣陳	掌櫃姓	口口本本口	在籍地
理	理	地	地	地	理		理		理	地

穀類の賣買に際し問屋を介する時は賣主より二分の口錢を徴し若し他地の買主なる時は更に二分を要するも口理より來りたる貨客は一般に席皮圍錢として一期(二箇年を三期に分つ)一吊二百文を徴するのみにして通常手数料を要せず。

現在穀類相場は(二月上旬)

- 粟 四吊一百文
- 高粱 二吊六百文
- 元豆 三吊八百文
- 合豆 三吊四百文
- 大米 八吊五文
- 吉豆 四吊三百文

赤峰西部地方一般状況調査

芸豆 三吊五百文  
元米 四吊五百文

小豆 三吊七百文

藥材も亦園場及陸化方面より當地に來り天津方面に輸出するもの多く一箇年十萬餘斤に達し黃芩最も多く防風之に次ぐ當地に於ける藥房は

仁壽堂	同仁堂	屋號	掌櫃姓	在籍地
張	夏	隆化	同春堂	同春堂
隆化	同春堂	同春堂	呂	同春堂
同春堂	同春堂	同春堂	同春堂	同春堂
同春堂	同春堂	同春堂	同春堂	同春堂

其他小藥房七八戸あり。

十、金融及通貨 當地に於ける金融機關としては交通銀行、興業銀行及錢舖、當舖あり。交通銀行總理を李恩翰(墨林天津人)と稱し朝陽及赤峰に分號あり一箇年取扱額は爲替十五六萬元、貸附一二萬元に上り北京に至る爲替料金は一千元に付七八元を普通とし貸附利子は一箇月七八角とす。

興業銀行、總理を張翼廷(承德人)と稱し昨年公益錢局(官民合同)と官銀號(官辦)と合併せ

しものにして左の各地に分號を有す。

赤峰、平泉、林西、錐子山

取扱業務は貸附及爲替にして現在貸附高三十餘萬元に達し(商戸二十餘萬元民戸十萬元内、外)民戸は抵當品及商戸の保證を要するも商戸は之を要せず期間は三箇月、六箇月及十二箇月とし利子は二分三厘乃至一分一厘なり貸出貨幣の種類は現洋少なく毛票其過半を占む爲替は各分號所在地に取組み一箇年十萬元内外に上り其内十分八は票子(交通銀行兌換券又は毛票を稱す)にして爲替料金は一定せざるも二百元以内一元、一千元以上二千元以下七元内外なりと。

錢舖及當舖 當地に於ける主なる錢舖及當舖は

錢舖	義興長	屋號	掌櫃姓	在籍地
同裕當	裕合德	同裕當	何王支	山口西
同裕當	裕合德	同裕當	何王支	山口西
同裕當	裕合德	同裕當	何王支	山口西
同裕當	裕合德	同裕當	何王支	山口西

大 中 當 李 玉田 義 成 當 高 寶 砥

備考 其他市外に頭港、三港に各一あり。

當備の期間は二十四箇月、三十箇月にして利子は各地と異ならず以上の如く爲替は多く銀行、錢舖及郵便爲替に依るも之等の爲替料は一般に高價なるを以て商戸は鑛局又は逆爲替を取組むもの多く鑛局は北京を根據とせる隆泰及元成の二ありて毎年正、三、四、五、七、九、十、十二月の八回來る外小鑛と稱するものあり。

市内流通貨幣は百萬元に達するも硬貨甚少興業銀行及商戸の發行に係る帖子(毛票)最も多數を占め興業銀行に就き聞くに現在商戸發行帖子八十萬角、興業銀行二十萬角あり而して帖子發行の商戸は二十餘に達し之が發行額及發行戸數は總て商務會の決定によるものなり。

當地は原と流通貨幣は制錢のみなりしも口裡方面との交通頻繁なるに従ひ小錢(鑿錢)の流入するもの多く光緒三十二年に至り李杰都統は市場流通貨幣を銅貨に改定せるを以て商民は之が使用を厭ひ帖子(一種の約束手形)を發行するに至り現狀を呈するに及べりと。左に貨幣相場を示せば(一月十八日)

現大洋	一元	四吊九百五十八文	毛票	一元	三吊	文	
大洋票	一元	三吊	文	一角	銅貨	十二箇字	
每吊		銅貨	四十三枚	銅貨	一仙	制錢	八箇

備考 商戸發行帖子(毛票)の種類は牛角、一角、二角、五角、八角、十角、二十角なり。

十一、度量衡

當地	一升	我	一升	當地	一斤	我	百三十九斤
裁尺	一尺	同	一尺二寸	布尺	一尺	同	一尺六寸七分

第十二、莊頭營子(灤河水運概況)莊頭營子は熱河市街を距る西南十八支里、熱河と大灤河との合流點にあり民戸僅に二十餘、雜貨舖、粉房各一家あるのみ然れども當地の北一支里には毅軍第三路第十二營並第四路第十七營第十九營の三兵營ある外熱河總所第一分駐所(兼徵收船捐)あり。

灤河は源を獨石口外巴顏圖古爾山に發し多倫廳内に入り其より豐寧、灤平、承德、遷安、永平の各縣を灌流して灤州に至り下流數條に分れて渤海に注ぐこの間小灤河、興州河、伊索河、蟻螞圖河、熱河、白河、老牛河、柳河、車河、黃花河、清河、豹河及青龍河の各河



流を合して西部熱河蒙古及京東に於ける最大河川をなし且又樂亭、灤州、遼安方面と上流熱河、灤平、郭家屯間の水運の便あるを以て經濟上重要な地位を占む灤河の水運は上流郭家屯、灤平、黃姑屯に至ると雖舟楫の最も頻繁なるは熱河(莊頭營子)口裡間とす然れども冬期は氷結するを以て舟航の便あるは僅に清明節(四月頃)より小雪節(十月)に至る約七箇月内外の期間に止る。

今莊頭營子(碼頭は當地の南一支里王八蓋にあり)にて舟楫の状況を聞くに

灤州熱河間を往復する民船は普通長四丈二尺乃至四丈幅員六尺(後圖参照)に止り水深淺く且處々に灘(激流の箇處)あるを以て大船の通航に困難を感じ従て積載量の如き僅に三千五六百斤内外に過ぎず而して此間の民船数は確知し難きも大約一千四百隻内外ありて船主は撤河橋、破城(興城鎮とも稱し羅家屯以南は僅に三四十隻あるのみ)附近のもの多く通航區域は主として當地以南に止り上流灤平地方に至るものは其内一箇年一二百隻あるに過ぎず。

普通灤州よりの上航日数は七八日を費すも下航は三四日にして達し一往復に半箇月を要するを常とす而して積載貨物は多く天津及び山東雜貨を輸入し穀類(粟最多)を輸出するも上

航の際は貨物の關係上十分の八内外は空船にして唯穀物の輸送を目的とするもの多し。熱河より毎年口裡に輸出する穀類は七八萬石に達し毎年買出人は(七八十人)陰曆十月頃より熱河に來り糧店內に宿泊し年末までに買附を終れり明春一、二月頃再び來りて解氷を待ち之を輸送す左に各地よりの買出人概數を示せば。

遼安	二十餘家	羅家屯	五、六家
建昌營	四、五家	灤州	十餘家
永平	二、三家	昌黎	二家
破城	六、七家	撤河橋	六、七家
新集	一家		

備考 昌黎より來るものは主として油糧を仕入れ遼寧營より來るものは燒酒原料にして撤河橋より遼化方面の作柄により來る。

運賃は通航の難易により著しき差異を生じ昨年(如き初回は粟大斗(熱河斗二斗半)一吊二百文(京錢にして一吊文は銅貨十六)なりしも第三回は七百文に下り秋季は一吊五百文を稱へたり然れども四吊文に達すること亦稀ならずと而して途中に於ける損害は船主之が責任せざるを常とす。

輸入雜貨は主として溧州樂亭よりするもの多く溧州より來るものは每件(百三十斤にして二千斤内外を積載す)京錢七、八吊文なり而して莊頭營子、熱河間の運賃は雜貨每件五百文穀類每石五百八十文乃至六百十文(熱河錢)なるも穀類の輸送は陰曆五月十三日より八月一日に至る間に限り此期間以外は荷馬車は多く他處に徴發せられ船主は自ら貨物の運搬に従ふを以て別に小河子錢(苦力錢)として若干の運賃を要す。

當地より溧州に至る間の船捐徴收所所在地は

莊頭營子、上板城、下板城、青河口(以上承德縣)  
 瀋家口、撤河橋、下口、炎門、瓜村(以上遷安縣)  
 溧州

而して下航の場合に於て徴收せらるべき捐局及捐錢は

莊頭營子 一角 青河口 銅貨六十七箇  
 瀋家口 銅貨十六箇 溧州 同二十箇

にして此外雜費を加へて通航に大洋一元五角内外を徴せらる之等船捐は水路警備に當る巡警費に充てらるものなり而して承德縣は當地より瀋家口の北五支里に至る二百八十支里

間を管轄し巡回船三隻巡警二十四名を有すと(本年は更に一隻増加の豫定)  
 莊頭營子一箇年徴稅額は大洋票八百元に達し上板城、下板城は一百元内外に過ぎず。

備考 青河口にて徴せらるる捐は承德縣徴收局に屬し之が經費に充當せられず。

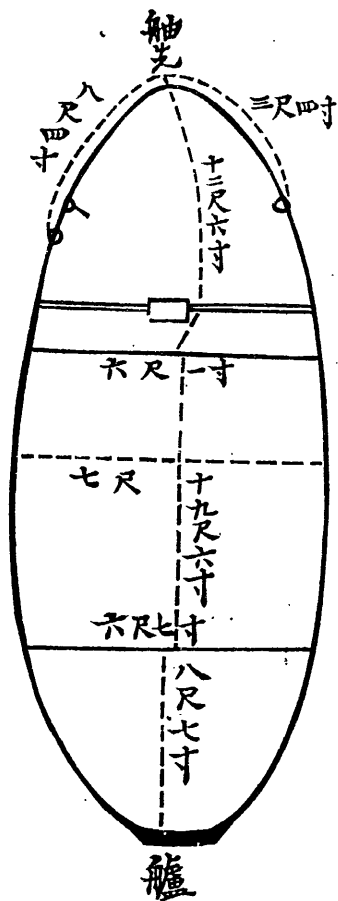
左に當地より溧州に至る通過村落及距離を示せば

地名	水幅(深曲尺)	距離	備考
熱河	一〇〇	一	渡船場は盛に對岸と交通す町の東南におり
茅溝	一〇〇	二	溧河の左岸に合す
上板城	一〇〇	五	
下板城	一〇〇	七	
大城	一〇〇	八	
鐵鼓山	一〇〇	一五	老河左岸より來る
柳河口	一〇〇	一六	
忙牛	一〇〇	一七	人家五〇右岸にあり村の端には長一千メ
大窪	一〇〇	二〇	トの邊四箇連續し上水困難
王八石	一〇〇	二四	十數戸兩岸より石灰を出す右岸より出す
清河口	一〇〇	二五	るは良質
		三三	三十月左岸巨大なる白色の石七八箇重る
		三三	船付真し上流に困難なる一港あり
		三六	東三十支里剛嶺に多量の石灰を出す

赤峰西部地方一般状況調査

瀧口	瀧口	走馬橋	撒口橋	長河橋	西口橋	高寺橋	羅家壘	百家壘	黄家壘	塞家壘	合家壘	羽家壘	深州
四〇	四〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	三〇〇
四〇	四〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	三〇〇
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	三五〇
四一	四一	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四七〇
二四〇	二四〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	五七〇
瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す	瀧河左岸より合すこの十支里上流に瀧あり 喜峰口に至る三十支里にして渡船には毎 船十名を運ぶ萬里の長城兩岸に雙立す

瀧河民船の略圖



新造船五百石文  
州にて多く製造す

全長四丈一尺八寸、深二尺一寸敷板の上より

一丈九尺六寸の間は積載し得る處

船頭三人舳に左右に一人宛種を持ちて一整に漕ぐ體にて一人長一丈位の不定の舵をとる

備考 右は一昨年八月熊本派遣生の通過せる際の調査にして爲参考添ひ。

第十三、熱河至旺業店

イ、通過村落

赤峰西部地方一般状況調査

熱河一〇一北獅子溝(二〇)巡警二〇一三二道河子七〇一三二道河子(二〇)一五一大  
 三道河子(五〇)巡警二〇一三二道河子(三〇)大店四一八東黄土坎子(二〇)小店二一三二道河子(二〇)  
 大店三、小店四、小舖二、鐵匠爐二一三官人堂(五〇)大店四、小店二一五高寺臺(二〇)大店三、小店一、  
 巡警二〇、小舖一、查房二一三官房(二〇)大店三二一前中關(二〇)小店五一六茅溝龍鳳洞(六)小  
 店二一三小郝家店(七)一五黄土梁子(二〇)大店二一三臭水坑(二〇)小店二一五鄭家砬子  
 (五〇)一三一崗子(四〇)大店二、小店四、小舖一、巡警二〇一八鷹食營子(三〇)一〇一兩家(二〇)  
 大店二〇、小店六、鐵匠爐一、小舖三二一楊樹林(二〇)小店五、小舖四、巡警二〇、巡防馬隊六六一六  
 三十家子(二〇)大店一、小店六二一兩舖炕(二〇)小店二一六七家(百餘戶)大店一、小店五、鐵匠爐  
 一、鐵匠爐二、小舖六、巡警四、姜營後哨五〇名一〇一二道阿子(二〇)小店三二二熱水湯又は過河  
 口(二〇)小店三二五鄭家溝(二〇)一三一三廟(二〇)大店一、小店七、小藥房一、巡警六、姜營一五名一  
 一廟(二〇)小店二、小舖二一三茅溝門(七)一八羊草溝(二〇)大店一、小店二一〇一茅荆旗底  
 (二〇)大店二、小店九、巡防二〇一〇一填前(二)一八駱駝山子(大店二、小店三)一五三道溝(五)小  
 店二一〇一六道溝(四)一五新店(七)小店一、巡警八名、雜貨舖二一五旺業店

〃、一般狀況 熱河の東北離宮前を経て熱河に沿ひ北に向て進めば十支里にして北獅子溝

あり福壽寺、菩薩寺等の宏莊なる喇嘛寺溝裡及山腹に散在す是より三支里二道河子にて  
 渡河し小三道河子の砂金溝(嶺山調査第二参照)を右に見て大二道河子にて渡河し小道は  
 梁を越すも大道は常に河道を北進す碾子溝より黄土坎に至る八支里は道路比較的良好な  
 るも黄土坎を經句子に至る渡河點は開水期前とて最も困難を極めたり句子より官人堂の  
 部落を過ぎ渡河二度高寺臺に達す當地に第五區第五分駐所あり高寺臺は隆化及平泉に至  
 る分岐點に位す今之が通過路を示せば

至隆化 高寺臺一三一中關一三〇一蠅虎營子(この間梁あり)一三〇一十八里臺一三〇一黃  
 姑屯

至平泉 高寺臺一三二雙廟一三〇一頭溝一三五興隆山一三〇一黑山梁一七一溝山咀一  
 八一三溝一八一六溝(熱河平泉街道に合す)

備考 頭溝には燒鍋三(永泰興、興盛遠、泰來恒)、常舖二(天順當)あり三溝には燒鍋二(聚源長)常舖一(聚源當)  
 あり。

頭溝に至るには想臺子山及東山間の頭溝川を東北進するものにして此附近の一小鎮店た  
 り是より營房、前中關(この間を熱河、隆化縣界とす)を經れば熱河は三河岔(支流)をなし

茅溝川(公爺府赤峰街道)銀窩川(糧甫府街老府街道)及石洞川(黃姑屯、錐子屯街道)に分  
 る而して隆化縣は銀窩川以西を稱するものにして赤峰街道は茅溝川を東北進す茅溝龍鳳  
 洞、黃土梁子間にて渡河し河東を進めば水田あり黃土梁子より崗子(第五區第二分駐所  
 巡警十名)を經兩家に至る(兩家前にて渡河す)三十支里間は道路比較的良好にして山上  
 處々に松樹あり兩家は人家百餘土墻を廻らし是より二支里に糧甫府に至る大道あり之が  
 通過村落を示せば

- 兩家—六—潛家溝—八—荒地溝—二〇—荒地—八—官營子—三—荒地後溝(あり)—六—
- 馬家砦子—六—石虎子溝門—八—毛口子—六—二道灣子—三—娘々廟—八—藍家灣子—
- 一〇—頭道梁子(この間梁一あり)—八—草帽子梁(この間梁一あり)—三—藍旗卡拉—二〇—安丹
- 溝—四〇—糧甫府

備考 糧甫府よりの大車は多くこの道路に依る。

兩家より十二支里にして楊樹林子に至る、當地に熱河第五區第三分駐所巡警十名(所長  
 管姓)及中路巡防馬隊六名駐在す、この附近は耕地甚少く植付作物は高粱、粟、豆類、  
 蕎麥、玉蜀黍を主とし就中高粱、粟は其の七分を占む地價每畝上地四十吊(熱河錢)中地三

十吊、下地二十吊、下下地八吊内外にして本年は四分作を見たりと是より六支里三十家  
 子(燒鍋一あり)にて渡河し二舖坑を經渡河して七家に達す二舖坑の北二支里南乾溝子あ  
 り之を承德平泉縣界とす七家は兩家と共に茅溝川に於ける大部落にして原と當地に燒鍋  
 永泉達あり(二年前閉鎖)平泉西區第十分駐所巡警四名(所長葛姓)毅軍第十一營後哨五十  
 名(哨官李萬盛天津人)駐在すこの附近一般に瓦葺家屋多く山上波羅樹(野蠶)繁茂す七家  
 を出て渡河して河東を進めば二道河子附近に水田あり、兩側の山岳漸く迫り來りて石道  
 をなす、二道河子より二支里に温泉あり同治七年四月郷民の改築に係り現在男堂二、女  
 堂一ありて浴客甚多し、當地より平泉に至る大道は崗子及臭水坑を經頭溝(この間十七  
 支里)に出するも小道は左の村落を通過すと。

- 熱水湯(過河口とも稱す)—四五—登上—二〇—龍王廟子—二五—八里營子—二〇—雙廟梁—
- 〇—撲山梁—八—車輪橋—三四—三道河子—一八—八溝

熱水湯より河道を上れば約二支里にして東茅溝に至る大道及鄭家溝より西溝に通ずる分  
 岐路あり大廟には平泉西區第九分駐所及毅軍第十一營の一部駐在し是より小廟を經茅溝  
 門に至り圍場に至る道路と分れ河道を上れば茅荆坨に達すこの間十八支里は石塊壘々



して車行最も困難を極む、此附近の地租は喀喇沁友旗に屬し死租にして毎畝熱河錢一百文を納むと填底には人家二〇、東路巡防馬隊十名(排長杜姓)駐在す、茅荆坝は熱河、赤峰街道に於ける唯一の高嶺にして上道は約八支里あり且急坂をなすを以て冬季は氷雪のため屬々交通杜絶すべきことあり道路の概略は



填を越せば西路夏河川にして緩勾配をなし駱駝山子に至る當地より安丹溝を經糧甫府に至る道路あり是より三道溝、六道溝の小部落を過ぎ新店に至る、新店は西區第十六分駐所巡警八名(所長周姓)駐在し大雜貨舖あり是より五支里旺業店に至る中間に平泉街道あり本街道は赤峰(赤峰事情參照)及糧甫府錐子山方面に通ずる重要なものにして左の村落を通過す。

旺業店—一〇—打網子溝—一五—新開填—一五—廟前營子—一五—三道河子—一五—大營子三五—核樂舖—二〇—二道營子—二五—五十家子—二五—茶棚—二五—黃土梁子—一五—烏虎馬梁—二五—臥龍崗—三〇—平泉

而し馱子路(小道)は大營子より左の部落を通過す。

大營子—二五—八溝道梁—一五—蒼子—二〇—老杖子—一五—小北溝—一〇—家梁—二〇—馬廠—二五—七家—一五—平泉

ハ、獅子溝 獅子溝は熱河の北十支里にあり附近喇嘛の居住するもの多きを以て一小部落をなす人戸百餘商戸四當舖一大店一の外總所第二分駐所巡警八名(所長韓姓)駐在す、商戸左の如し。

當舖	永茂當	劉姓	本地人
商戸	永茂棧	史姓	山西人
	福遠隆	唐姓	本地人
		義興合	李姓
		聚興合	張姓
			玉田

ニ、黃土坎 當地附近の植付作物は高粱粟最も多く雜穀は僅に三分一内外に過ぎず土地は上、中、下、下下の四等に分ち得べく地價は毎畝現大洋五元、四元、三元、二元なりと。

今承德縣に於ける地租規定を見るに民國四年以來土地價格を毎頃現大洋八百元、六百元五百元、四百元及三百元の五等に分ち地租は毎年地價の百分一を納めしめつゝあり而して當地は所謂上土地なるものなきを以て毎年左の錢糧を納むと。

上地	現大洋 六元	中地	五元
下地	四元	下下地	三元

此外土地の上下を分たず。

警察費 每畝に付 一升五合

郷長費 每頃に付 熱河錢八吊文

を要すと。

備考 昨春秋以來店內(宿屋)に宿泊する大車一輛に付車底錢として六百文を仕拂はしめ其内一百文は地方警察費として徴收しつゝあり。

ホ、旺業店 當地は熱河、赤峰街道中公爺府に次ぐ小鎮店にして且平泉圍場方面との交通路に衝るを以て商況稍殷盛を極む、民戸大約二〇商戸一〇あり三、八の日に市を開く上市するものは附近の農産物多し、主なる商戸は

- ×泰和興 康姓 口裡 金盛興 趙姓 本地
- 天增號 趙姓 赤峰 公益永 高姓 口裡
- 義興棧 劉姓 口裡 泰恒棧 楊姓 平泉
- 福厚昌 趙姓 口裡 瑞慶祥 王姓 熱河
- ×隆發祥 董姓 口裡 東信號 張姓 口裡

備考 ×印は帖子を發行するものとす。

其他大店一、小店五、小蔴舖二、鐵匠爐二、銀匠爐一、木匠舖一あり。

各種雜貨は赤峰より仰ぐもの多く主として燒酒、白麵、紅白糖紙類を輸入し穀類を輸出す、雜貨運賃は (每百斤)

- 赤峰 一吊二百文至一吊六百文
- 平泉 五吊文至二吊七八百文

當地附近の植付作物は

- 粟 二分 苡麥 三分 甜苦蕎 四分 其他線麻、馬鈴薯、豆類

平作に於ては每畝三斗乃至一斗の收穫あり、地價は每畝

赤峰四郡地方一般状況調査

上地 八兩 中地 五兩 下地 二兩内外  
にして穀類は赤峰に至るもの多く熱河に輸出するは少し。  
左に現在の穀類相場を示せば

甜 蕎	五吊五百文	苦 蕎	五吊
粟	十吊	豆	八吊
合 豆	七吊五百文	菽 麥	六吊五百文

備考 當地の度衡に赤峰と同じきものは赤峰に比し二石に付一斗二升大なり。

當地に東路巡防隊(統領李貞元)駐在す、左に之が各駐在地を示せば

- 中 營(歩) 平泉(八里罕、寬城) 前 營(歩) 勝牛營子
- 後 營(歩) 腰路溝 左 營(馬) 凌源(大城子、杜家高舖)
- 右 營(馬) 公爺府
- 公爺府の分駐所は
  - 中哨 公爺府 右哨(半哨) 下瓦房 右哨(半哨) 旺業店
  - 左哨(半哨) 五家 左哨(半哨) 大城子

當地より赤峰に至る通過路は

旺業店—五—窪子—三—金家店(小商店三、小舖一、天主堂郵寄代辦所、巡警六名)—二—美林溝門  
 (二〇)—二—黄土梁子(七小商店)—四—五家(五小舖一、小商店二)—三—兩家(二〇小舖二、大店一、小  
 店四)—五—王爺地(二)—六—上瓦房—三—大西溝門(以下經濟事情第十號參照)

備考 上瓦房は人口五〇兩戸一〇(主なるものは廣泰厚、寶慶祥、慶順成、同發成)店二五の外西區第二十巡警分  
 駐所あり)

交通 熱河より高寺臺に至る五十支里間は所謂圍場街道の一部をなすを以て穀物の輸  
送車に會すること多かりしも茅溝川に至りては耕地甚だ少なきを以て穀物輸送車に會す  
ること亦寥寥數ふるに足らず今途中會せるものを示せば

二道河子	粟	大車	三	由圍場附近至熱河
小三道河子	粟	大車	三	由黃姑屯至熱河
大三道河子	粟	大車	一〇	由錐子山至熱河
同	玉蜀黍及粟	大車	八	由銀窩川及隆化至熱河
黃土坎	小麥	小車	一五	由糧甫府至熱河





旬子	粟	大車	四	由填後至熱河
高寺臺	粟及雜穀	大車	一三	由黃姑屯及銀窩川至熱河
高寺臺	粟	大車	七	由茅溝川至熱河
二道河子	粟	大車	五	由填後至熱河

ト、牧畜 此間牧畜盛ならず唯養豚の見るべきものあるが如く熱河市街に乾豚肉を輸送する駄子に再三會せり途中散見せしものは

黄土坎	羊	三〇	旬子	羊	二〇
前中關	牛	一八	茅溝龍鳳洞	羊	一〇〇
小郝家店	牛	九	臭水坑	牛	五〇
鷹食營子	牛	五〇	兩家	牛	六〇
二舖抗	牛	二〇	二道河子	羊	八〇
熱水湯	牛	五〇	三道河子	牛	二〇
大廟	牛	一八	小廟	羊	九〇
填底	羊	五〇	填前	牛	一〇

駱駝山子 牛 二〇

三道溝 牛 一〇

第十四 匠業店經安丹溝糧甫府至赤峰

イ、通過村落

美林溝大營子(五〇小店四、商戶一、水匠舖三)一〇一本局子(二〇大店二、小店二、商戶二)一〇一羊草溝門(五小店二)一五一教包梁(四)一三三棵樹(二〇小店二)一四一孤山五(一四)一長林子(三〇)一四一安丹溝一三一双敖包(八)一八一片子溝門(三〇)一四一太平地(三)一朝陽灣子(五〇)一三一白旗營子大西溝(二)一三二下夥房(七)一三三驛馬梁子(二〇)一三二石人溝(三〇)小店二一八一糧甫府(二〇)可立溝門(九)一朝家地(四〇大店三、小店四、小舖一、小葯舖一、鐵匠爐一、鐵匠爐二)一八一黃家窩舖(二〇)小店三)一三三實全和(二〇)大店二)一三三小卡拉(二〇)大店二)一七一李家店(二〇)小店二)一三三康家營子(二〇)小店二)一三三五家(二〇)小店三)一八一黑溝門(六〇)小店二)一三三協成永(二〇)一三三卡拉街(三〇)小店一、小舖一、鐵匠爐一)一五南臺子(三〇)大店二、小店三、小舖二)一五娘々皇溝門(二〇)一五鐵頭溝門(五〇)大店二)一三三卡岔溝門(五〇)小店二)一三三上二道窪(二〇)小店二)一三三猴頭溝(八)一太平莊(七)大店二)一三三曹家店(二〇)大店二)一八一畫匠溝門(三〇)大店二、小店二、小舖一、小葯舖二)一八一桃來吐前山(三〇)一三三桃木吐(五〇)小店二)一三三茶柳梁底



(三〇)一六一海力蘇溝(三〇)一八八—八家(五〇)一六一—下窪子一六一—赤峰  
 一、一般状況 旺業店の西門を出て北に進めば美林溝大營子にて圍場平泉街道に會す附近  
 耕地多く穀類の産亦尠ならず、是より美林溝を上り木局子の部落を経て羊草溝に至る  
 この間道路良好なり羊草溝は西翁牛特老府より一百家子又は大營子(黒里河)に至る驛馬  
 站(皇帝圍場に出獵の際の公文書遞送地點)にして地租は上地及中地は毎畝粗糧一斗下地  
 包は三畝二升一畝を納むるのみと、羊草溝より西一支里にして道路は二つ分る、西する  
 ものは藍旗卡拉を經錐子山方面に至る馱子路にして大道は之より北に進み敖包梁を越す  
 敖包梁に至る十五支里は石道をなし人家稀なれば村民は巡警二名を雇備して常に之が警  
 備をなさしめつゝあり敖包梁を過ぎ三棵樹にて圍場熱河街道(銀窩川街道)に合し長林子  
 孤山子を經安丹溝に至る、この附近耕地多く且藥材牛羊の産を以て知らる。  
 安丹溝は平泉圍場の縣界に位し町の北端山神廟は之が分界とす是より道路良好にして太  
 平地を經朝陽灣子にて小道は同名の梁を越すも大道は是より十五支里岔道子を經頭道梁  
 二道梁を過ぎて糧甫府に至る、梁は急坂ならず、梁を越し大西溝を上り再び驛馬架子梁  
 を經れば圍場平野にして四圍山岳を以て包まる。糧甫府より赤峰に至るには西路裏河の

支流に沿ひ東進す可立溝門に至る二十支里は道路良好にして人家は何れも河北にあり可  
 立溝門にて渡河し朝家地の部落を經れば燒鍋地あり原と燒鍋二ありしも現在は晉昇泰の  
 一家のみ存す、安丹溝より赤峰に至る道路は當地にて合す燒鍋より黃家窩舖及實全和の  
 稅局(昨年までは朝家地にありたり)を過ぐれば小卡拉に至る間に小廟(乾溝)ありて之を  
 圍場赤峰縣界とす小卡拉よりは新店を經小牛頭溝門、公爺府に至る小道あり是より七支  
 里に亙る蒼頭填梁あるも梁は勾配急ならざれば車行の通過容易なり之を西路裏河及錫伯  
 河の分水嶺とす、梁を越し李家店五家を經卡拉街に達す五家の北五支里大溝に巡警分駐  
 所ありて巡警八名駐在す、大溝は老府に至る小道(大なる峠あり)に衝く五十支里にして  
 達すと、五家卡拉街間は道路の凹凸甚しく河身を通ずるが如し卡拉街にて渡河し南臺子  
 を經三十五支里猴頭溝に至る、この間渡河一度するも道路良好し猴頭溝は糧甫府赤峰の中  
 間に位し附近柳條子溝の炭坑あり是より赤峰に至る九十支里は常に河側を通ずるを以て  
 道路良好なるも桃來吐より小道(七十支里)は東方茶棚梁を越し海力蘇溝を經八家にて赤  
 峰平野に達し十二支里にして赤峰市街に入る。左に大道の通過村落を示せば

桃來吐—八一三岔口(二〇大店、小店)一三一西大道(三〇大店、小店)一〇一—古都河(八〇

大店二、小店二—三、北井(二)—八—西牛卜羅—八—干溝子—八—赤峰  
 八、安丹溝 安丹溝は糧甫府及老府方面より熱河に通ずる街道に人家二〇圍場縣徵收支十  
 (局長夏姓)及平泉西區第十八分駐所(巡警五名所長朱姓)郵寄代辦所(乾泰號代辦四日)  
 一度)屠捐局あり番地に於ける主なる商戸は

- |     |    |    |     |    |    |
|-----|----|----|-----|----|----|
| 德合永 | 陳姓 | 口裡 | 恒生德 | 楊姓 | 口裡 |
| 魁聚德 | 劉姓 | 同  | 福德厚 | 劉姓 | 同  |
| 福增恒 | 楊姓 | 同  | 永遠厚 | 劉姓 | 同  |
| 德興普 | 王姓 | 同  | 復興和 | 閔姓 | 同  |
| 永增厚 | 劉姓 | 同  | 晉成德 | 肅姓 | 同  |
| 福昇德 | 張姓 | 同  | 德盛永 | 宋姓 | 同  |
| 玉德永 | 齊姓 | 同  | 德益號 | 劉姓 | 同  |
| 益和成 | 王姓 | 同  | 義合永 | 劉姓 | 同  |
| 乾泰號 | 玉姓 | 同  |     |    |    |
- 其他鐵匠爐二、鐵匠爐二、大店二、小店三あり。

雜貨は多く赤峰より仕入れ穀類の返荷を利用するが如し。

毎月一、六、三、八に開市あり上市するものは穀類牲畜多く徵收局に付聞くに一箇年徵  
 稅額七百元あり内穀類百餘元牲畜二百元皮毛百元其他雜貨の割合なりと。

附近の特産物として牲畜藥材あり牲畜は毎年口裡方面より來るものは當地附近及銀高溝  
 尖廟方面にて其大部分を仰ぎ藥材は萬隆茂、同義號等天津方面より收買人來り黃芩赤芍  
 等を輸出し毎年圍場方面にて百萬斤(本年は其半)内外を買附くと。

當地より熱河に至る道路は

- 安丹溝—三〇—草帽子梁—五—頭道梁—四〇—藍家灣子—四〇—後溝—四〇—張家營子—  
 二〇—川心店—二五—高寺臺—五〇—熱河

因にこの附近に於ける平泉西區巡警分駐所を示せば

- 第十五 廟前營子 第十六 新店 第十七 金家店 第十八 安丹溝  
 第十九 大西溝 第二十 上瓦房

二、太平地 太平地は安丹溝の北十五支里に位し人口五十餘戸雜貨二、燒鍋一、小葯房三、  
 鐵匠爐二、銀匠爐小店二ありて二七の日に市を開く。

徳合長 王姓 樂亭  
 永祥恒 李姓 口裡  
 義成永 陳姓 山西

當地に郵寄代辦所あり徑路は糧甫府より喀喇沁王府、公爺府、金家店、安丹溝を經四日に一回遞送す。

其他當地に團場縣巡警分駐所あり。

附近植付作物の粟三分、甜苦蕎四分、苡麥一分、其他胡麻、線麻、小麥、糜黍、馬鈴薯二分の割合なり平作に於ては三斗乃至半の收穫あり地價は上地六兩中地二、三兩下地半兩内外にして地租は每頃五兩、四兩、三兩を納むこの外雜費其一半を要すと。

ホ、糧甫府 詳細は經濟事情第十號參照

當地に陸軍第一團第二營(營長蔣錫五)あり。

因に第一團の駐在地を示せば

第一營(步) 錐子山  
 第二營(步) 一連 糧甫府

一連 朝陽灣子 三道川  
 一連 銀窩溝 草帽子梁  
 第三營(馬) 一連 新拔  
 一連 二道河子 牛頭溝  
 一連 錐子山

當地より藍旗卡拉に至る通過村落は

糧甫府—八—上步隊—四—高家店—二五—小玉路—八—小梁—七—北團溝—二—藍旗卡拉

ハ、猴頭溝 猴頭溝は赤峰園場の中に位し入戸四十あり主なり商戸は

燒鍋 和慶泉  
 雜貨舖 廣億永 德源恒 和慶祥

其他小舖三、銀匠爐二、磨房一あり。

當地に赤峰第二區警察所、郵寄代辦所あり。

毎月四、九の日に市を開く。

當地の北十餘支里(永合營子經由)に柳條子溝及西北二十餘支里に老煤窩溝ありて附近の需要を充たす外赤峰市街に輸出す。

此附近作物は粟最も多く地租は翁牛特府に屬する豊寧縣廂黃旗なる旗租(白旗)亦其半を占む。

ト、交通 途中合せる車駄數は

美林溝大營子	白麩	馱子	六	由糧甫府至平泉
敖包梁	雜穀	大車	一	由藍旗卡拉至旺業店
三棵樹	小麥	馱子	三	由糧甫府至平泉
孤山	小麥	大車	一	由下廣億成至熱河
小卡拉	小麥	駱駝	一七	由赤峰至北京
同	粟	大車	二	由糧甫府至赤峰
畫匠營子	小麥	小車	二	由猴頭溝至赤峰
チ、牧畜 沿途放牧せられたる畜類數は				
美林溝大營子	牛	二〇		

木局子	牛	一〇	馬	七	牛	八
羊草溝門	羊	一〇〇	牛	一〇		
敖包梁	羊	一〇〇	牛	一〇		
三棵樹	羊	六〇	牛	二〇	羊	四〇
孤山	羊	五〇				
下夥房	牛	七				
石人溝	羊	四〇〇	牛	一〇	牛	三〇
可立溝門	牛	二〇	牛	三〇		
黑溝門	羊	一〇〇				
娘々阜溝	牛	三三				
鐵頭溝門	牛	一七	馬	一〇	驢	七
海力蘇溝	羊	四〇				

# 磐石縣縣城事情

(大正六年十月調查)

囑託 古 曳 好

## 目次

- 緒言
- 第一章 沿革及戶口
- 第二章 位置及交通路
- 第三章 市街概況及官公所
- 第四章 商業、貨物集散情況及運賃
- 第五章 工業
- 第六章 農業
- 第七章 礦業
- 第八章 金融及通貨
- 第九章 度量衡
- 第十章 物價
- 第十一章 税金
- 附說

磐石縣縣城事情

緒言

今磐石縣縣城の事情を述べむとするに先ち一言磐石縣管内の土地及び戸口に就て述べむ。

- 一、土地 廣袤及び耕地面積左の如し。
- 廣袤 一八、六〇〇方支里
- 耕地 一一八、七二〇畝

七支里我が約一里に當り一畝は我六十六畝に當る。

二、人口 民國五年當地警察所の調査に依れば戸口數左の如し。

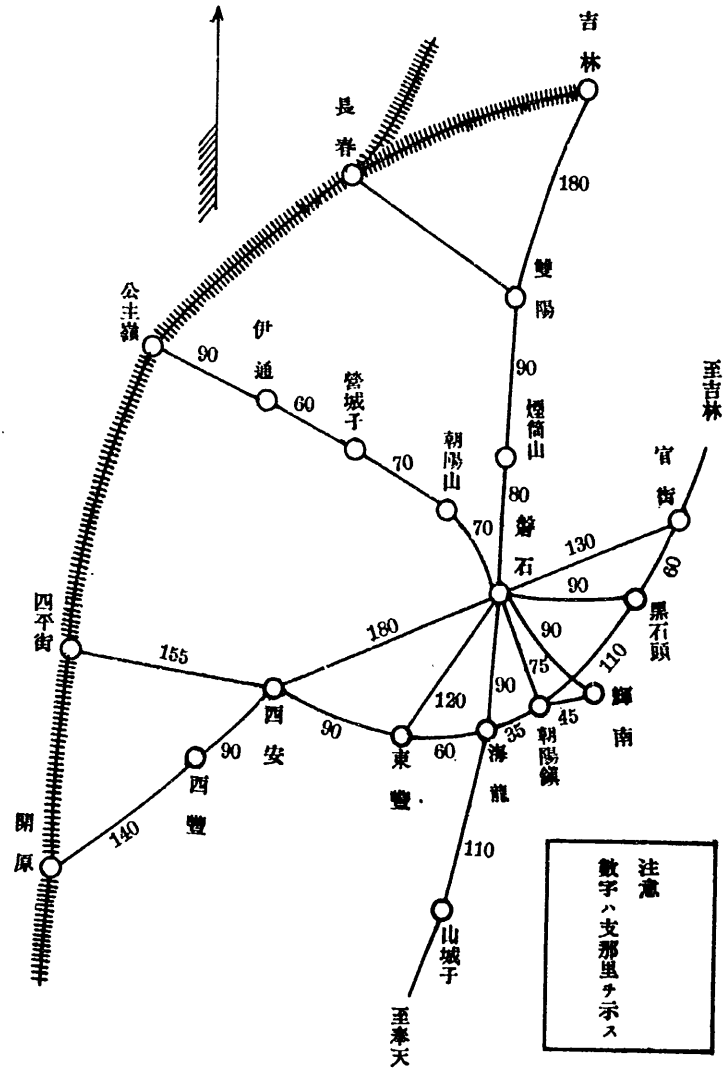
戸數	人		計	口
	男	女		
二六六五二	九一三八一	七二九八七	一六四三六八	

第一章 沿革及び戸口

此地方は肅慎靺鞨の昔より遼金元明に至る代々女真人種の占據する所と爲り支那文化の化

磐石縣沿革事情

圖路通交



由是觀之最近七八年間に戶數に於て約三倍人口に於て約二倍の増加を爲せり然れども今日  
は既に發展の極點に近かづき將來如此速度の發展は望むべからざらむ。  
日本人は目下十家男女七居住す料理店二家の外は凡て賣藥商兼質商とす。

戸數		人口	
一四二七	男	五八六〇	計
	女	三九六五	口
			九八二五

明治四十二年頃の調査に依れば縣城の戶數約五百人口五千と稱せられたるが其後長足の進歩をなし大正五年當地警察所の調査に依れば左の如し。(縣下の戶口合計に就ては前掲の如し)

外の地となる明代に黑龍蒙古地方より扈倫種族來住し輝發部(輝發國)を建つ今本縣と奉天省輝南縣縣界に在る輝發古城は即ち輝發部の舊都なり輝發は清の太祖の滅す所と爲り清初本縣南境は奉天圍場(御獵場)に屬し封禁せられたるが光緒の初年頃より流氓竄入し私墾するもの多かりしかば光緒八年(明治十五年)土地の拂下を開始し磨磐山巡檢を置き地方の保安に任せしめしが同十三年巡檢を裁撤し伊通州の分州を設けたり此頃より漸く市街を形成したるが同二十八年伊通州より獨立し縣に昇したり。



## 第二章 位置及び交通路

縣城は略は縣の中央部に位し吉林省城の西南三百五十支里、長春又は公主嶺の東南二百九十支里とす。

最も重要な交通路は長春街道及び公主嶺街道とす長春街道は縣下の煙筒山及び雙陽縣縣城を経て西北行し公主嶺街道は縣下の朝陽山、伊通縣下の營城子及び伊通縣縣城を経て西北行す此兩街道は何れも二百九十支里にして最も鐵道沿線に近かく雜穀及び雜貨の主なる出入路とす。

右に次くものを吉林街道とす其他朝陽鎮、海龍縣縣城、輝南縣縣城、黑石頭、樺甸縣縣城、四平街及び開原等に通ずる道路あり其里數は冒頭交通路圖に記入し置きたれば茲には再び之を擧げず。

## 第三章 市街概況及び官公所

市街は磨盤山の東南麓にあり東北は山を負ひ西南は僅かに開湖地あれども四顧概ね山岳と

市は高二丈八尺周圍約二十町に互る城壁を有し東西北の三面に各々一門南面には大小の二門あり城内には縣署を始め重なる官公所及び商家あり小南門外は長約六町あり商家亦櫛比す。

之を要するに街衢稍々整全城壁亦完備せるも僻陬の一小市なれば甚しく般賑繁華ならず。重なる官衙左の如し。

一、縣署 縣下の行政及び司法を掌り總務科、行政科及び統計科を置き又保衛團事務所を設く。

二、財務所 知事監督の下に喇捐の徵收並に地方行政經費の支拂に任ず(喇捐に就ては後に税捐の章下に於て之を述ぶ)

三、警察所 知事に隸屬し縣下の警察事務を掌る警察所の下に六區(六局)を置き各區に數分所を置く巡警總數歩馬合計五百十名あり警察所及び各區各分所に配置す區(局)の所在地左の如し。

第一區 本城

第二區 煙筒山

第三區 呼蘭集廠

第四區 黑石頭

第五區 朝陽山

第六區 水橋集廠

四、税捐徵收局 後に税捐の章下に於て述ぶる税金の徵收に任ず。

五、官運局 鹽專賣局類似のものなり。

六、郵政局

七、電報局 電報局に於ては電話も取扱ふ。

公所には商工分局、農務會及び教育會あり商工分局は後に税捐の章下に於て述ぶる營業附加捐を徵收す。

學校には高等小學校、國民小學校及び女子小學校あり。

軍隊は吉林混成第三旅轄重營(大隊)本部及び同第四連(中隊)駐屯す此軍隊は平時は匪賊の防範に任ず。

以上の外重なる建築物には天主堂及び耶穌教教會堂(施療院を附設す)あり共に宏壯なり。

### 第四章 商業、貨物集散情況及び運賃

一、商業種類及び商業範圍 此地の主要なる商業と稱すべきものは唯布疋雜貨商の一種と

す奥地到る處に見るが如き専門の糧棧(穀物間屋)なく糧棧は燒鍋又は雜貨舖の兼業とす其所以は本縣西北部地方の穀物は農家直接長春又は公主嶺に搬出し東南地方のものは樺甸、黑石頭又は朝陽鎮に集まる從て當市に集散する穀物は附近二三十支里乃至四五十支里地方のものに限る之に反し布疋雜貨は本縣の大部分は其供給を當市に仰げばなり。

二、貨物集散高、輸出入先及び運賃

(1)輸出 上述の如く穀物は附近二三十支里乃至四五十支里の地方より集まれば後に農業者の章下に於て述ぶる本縣出產高の半額は當市に集まり而して其集額の約八割は輸出せらるゝと見れば大差なからむ此計算に依れば平年輸出高左の如し。

大豆	六萬四千石	高粱	四萬石
玉蜀黍	三萬六千石	粟	三萬六千石
小麥	一萬二千石	藍靛	十二萬斤

輸出先は主として長春及び公主嶺にして輸出高は兩地相半す。運賃は兩地共冬季大豆一石三元内外とす。

(2)輸入 布疋雜貨一箇年の輸出額大凡左の如し。

大尺布	南支品 八百件 日本品 四百件	粗布	日本品 四百件
綾木綿	日本品 二百件	細綾木綿	日本品 二百五十件
金巾	日本品 五十件 英國品 極少	綿絲	日本品 百五十件
石油	英國品 千五百箱 日本品 極少	砂糖	英國品 百五十包 日本品 百包
燐寸	日本品 三百箱	洋燭	英國品 三百箱
紛連紙	日本品 三百包	卷煙草	英國品 未詳 日本品 未詳

(一件は百二十斤とす)

右の外我國の陶磁器、化粧品、文房具、洋燈及び海產物等の輸入を見る又支那品は綢緞棉花、皮毛、鹽、茶、藥材、陶品、紙、鹽乾魚及び果實等を主要なる輸入品とす。

輸入先は營口、奉天、長春及び公主嶺等とす。運賃は長春又は公主嶺より冬季一件一元内外とす夏季は道路の良否により非常なる差異あり。

三、重なる商家 後に税捐の章下に於て述ぶるが如く商工分會に於て營業附加捐課税の關係上商家の等級を分つ現今小は〇、一級より大は十九級まで納捐商家約二百五十家あり

其内重なるものを掲ぐれば左の如し。

商號	營業種目	等級	一箇年賣上高
萬源	燒鍋	一九〇	三八〇
恆興	同	一八〇	三六〇
萬合	雜貨	一八四	三七〇
萬順	同	一七六	三五〇
祐厚	同	一一五	三三〇
同興	同	一〇五	二二〇
同順	同	一〇〇	二〇〇
慶源	同	九〇	一八〇
慶盛	同	八〇	一六〇
德和	同	八〇	一六〇
德昌	同	七九	一五八
復生	同	七九	一五八
福同	同	七九	一五八

以上の商家は概ね穀物問屋を兼營す上掲の外一級以上のもの左の如し。

雜貨舖 九家 酒舖 二家 藥舖 三家  
 菓子舖 二家 木行 二家

四、商業慣習 仕入は主として現金勘定とし當地商人相互間に在りては端午節、中秋節及び年末等節季勘定を主とし農家に對しては現金、節季又は收穫時季勘定等種々行はる。  
 五、商業機關 商工分商會あり商工業者の決議機關とす。  
 六、集市 大南門外に根市場あり毎朝市を立つ。

第五章 工業

工業としては別に見るべきものなし上掲燒鍋の外油房四家あれども當地用として二十斤の小丸を製造するのみにして輸出を見ず其製造高も亦寥寥たり燒鍋及び油房以外のものを列擧すれば左の如し。

磨坊 三十二家 木行 十家 鐵行 十二家  
 銀行(銀業) 九家 錫行 二家 染坊 七家  
 紙坊 二家 碾坊 九家 粉坊 三家

磐石縣縣城事情

漆坊 六家 炮坊 二家 靴舖 十一家  
 麻繩舖 七家 餅子舖 十五家 醋坊 二家  
 豆腐坊 若干 織布坊 若干 燻皮坊 若干  
 磚瓦窑 二處  
 元と毯坊、膠坊、香坊及び石灰窑ありたれども既に廢業したるものあり又現今休業中のものあり。

### 第六章 農業

本調査は縣城の事情に止めたれども農業を述べむとすれば自然全縣下に互らざるべからず  
 一、耕地面積及び地積 耕地面積は冒頭に掲げたるが如く一八、七二〇畝とす本縣は既に開墾し盡し未開墾地なるもの殘存せず一畝は墾(畦)一條(幅木尺の二尺)の長さ七千二百弓(二弓は木尺五尺)即ち木尺の七萬二千平方尺とす木尺と我曲尺とは大差なく一畝は我六反六畝餘となる。  
 二、地價及び租(小作料)左の如し。

地價	上地	中地	下地
租	一千五百吊内外	一千吊内外	五百吊内外
地價	二石五斗	二石	一石五斗

三、作物種類、作付反別及び收穫量 穀物は大豆を大宗とす其他高粱、玉蜀黍、粟及び小麦等を以て主要なるものとす山貨は煙草及び麻は年々減少すれども歐洲戰爭勃發以來錠油の輸入杜絶したるを以て藍錠の栽培は俄かに増加し大正六年の收穫高は約三十萬斤なりしと言ふ今作物種類、作付反別及び平年收穫量を掲ぐれば左の如し。

種類	反別	每畝收穫高	全縣下收穫高
大豆	四〇千畝	四石	一六萬石
高粱	二五	四	一〇
玉蜀黍	一五	六	九
粟	一五	六	九
小麦	一五	二	三
煙草		六百斤	一



絲 藍 其  
麻 錠 他

八

一〇  
五

一三三

(一石は我二石九斗二升さす)

右表に依りて之を見れば地味は稍々佳良とす。

### 第七章 鑛業

本縣は鑛山に富む今縣城附近の鑛業を擧ぐれば左の如し。

地名	縣城よりの距離	鑛石	使用苦力數	出產高	備考
石咀子	北東 三五	銅	三〇〇人	每月產銅一萬五千斤	官辦
帽山	南 三〇	金	三〇		
長水崗	東 五〇	鉛	四〇		
碾子溝	北 五〇	鐵	一		休業中
小城子	北 六〇	石炭	一		休業中

### 第八章 金融及び通貨

當地の商工業等資本金百萬吊を有する富通潤と稱する株式會社を組織し私帖を發行し又兩換及び穀物間屋を營む。

質屋三家あり利子は月五分にして十箇月を以て満期と爲す。

當市には銀行の設けなく爲替は多く出會に依る郵政局にても爲替を取扱へども頗る高率なれば止むを得ざる場合の外依頼するものなし。

通貨は主として吉林官帖及び前記富通潤の私帖とす其他小額の小洋票及び銅貨あり銀貨は殆んど其流通を見ず此等通貨の當市流通高大凡そ左の如し。

官吊 七十萬吊 私吊 三十萬吊 小洋票 五千元

又調査當時に於ける各種貨幣の交換相場左の如し。

小洋	一元	十二吊六百文	銀	一兩	二十一吊	
大洋	一元	小洋	一元二角	小洋	一角	銅貨十一枚

### 第九章 度量衡

一、枳 一斗は三十二合即ち我一斗九升二合に當る枳には商務會の檢印を押捺す。  
 二、秤 一斤は戥子(金銀藥種等貴重品を量るの秤にして各地同一なり)の百五十匁にして我百四十四匁に當る。  
 三、尺

(1) 木尺 家屋土地等を量かる尺にして一尺は我曲尺一尺〇四分弱に當る。

(2) 裁尺 絹布類又は粗布、綾木綿及び金巾等舶來綿布類を量かる尺にして一尺は木尺の

一尺一寸即ち我曲尺一尺一寸四分に當る。

(3) 布尺 大尺布を量かる尺にして一尺は一尺六寸六分強即ち我曲尺一尺七寸三分弱に當る。

### 第十章 物價

#### 一、重要穀類及び山貨類

品名	單位	相場
大豆	一斗	一七〇
高粱	同	九〇
粟	同	八五
玉蜀黍	同	八五
品名	單位	相場
小麥	一斗	二二〇
草	同	二〇〇
葉煙	同	二〇〇
線	同	二〇〇
藍	同	二〇〇
品名	單位	相場
自至	斤	二〇〇
自至	斤	二〇〇
自至	斤	二〇〇
自至	斤	二〇〇

#### 二、布尺雜貨類

品名	單位	相場
大布	一匹	三〇
粗布	同	二九
綾	同	二八
石綿	同	二七
油	同	二六
寸紙	同	二五
連紙	同	二四
品名	單位	相場
細木	一匹	九〇
綾	同	八五
金	同	八〇
綿	同	七五
砂	同	七〇
洋燭	同	六五
品名	單位	相場
雙魚	一箱	九〇
大軍	同	八五
藍	同	八〇
日古	同	七五
日本	同	七〇
品名	單位	相場
雙魚	一箱	九〇
大軍	同	八五
藍	同	八〇
日古	同	七五
日本	同	七〇



### 第十一章 税金

吉林省も亦奉天省と同じく租税制度最も紛糾錯節し同一税捐にして地方に依り其名目を異にするものあり或は此縣に於て徵收し彼縣に於て徵收せざるものあり税目、捐目合計百餘種に及ぶと言ふ最も本縣に於ては種目比較的尠し。

大體より言へば税は國税にして捐は地方税なれども今便宜上税捐を其徵收する官公所に依りて分ち縣署に於て徵收するもの財務處に於て徵收するもの商務會に於て徵收するもの及び税捐徵收局に於て徵收するものに大別して順次説明せむ。

#### 第一 縣署に於て徵收する税金

縣署に於て徵收する税金は惟大租の一種あるのみ大租とは土地に課する税金にして地租の意なり其税率左の如し。(二响一年)

民 田 大洋五角

學 田 大洋六角

學田とは新拂下地にして當初其税率を縣教育費に充たし其税率は低廉なりしが改正の結果

却て民田より高率となれり全縣一箇年の徵收額民學田合計大洋七萬元内外とす。

#### 第二 財務處に於て徵收する税金

財務處に於て徵收するものも亦贈捐の一種のみとす贈捐とは大租(地租)に附課して徵收する縣税にして其税率は一响一箇年小洋五角とす一箇年の徵收額約小洋六萬四千元にして警察及び教育費に充つ。

#### 第三 商工分會に於て徵收する税金

商工分會に於て徵收するものも亦營業附加捐の一種のみ營業附加捐とは縣城の商工家に課する税金にして農家に課する贈捐に當るものなり其税率は賣上高の百分の一を徵收するを原則とすれども便宜上豫じめ商家の等級を分ち置き其等級に依り毎月課税徵收す現今最低〇・一級より最高十九級まであり一箇年徵收額合計約六萬五千吊にして此税金も亦贈捐と同じく警察及び教育費に充てらる。

#### 第四 税捐徵收局に於て徵收する税金

税捐徵收局に於て徵收する税金は概言すれば國税にして總て省城に廻送す一箇年の徵收額は七萬元乃至八萬元とす其税目及び税率は左の如し。



一、當帖稅 當帖稅は質屋に課する税金にして毎年徵收額左の如し。

甲、繁盛區域

上 則

三百元

中 則

二百五十元

下 則

二百元

乙、偏僻區域

上 則

二百五十元

中 則

二百元

下 則

百五十元

當地には質屋三家あれども總て乙種下則の稅率を課す。

二、契稅 契稅は分ちて買契稅及び典契稅の二となす買契稅は不動産賣買の際買主より徵收する税金にして其稅率は賣買價格百分の六とし典契稅は不動産抵當の際抵當權者より徵收する税金にして其稅率は典價百分の三とす。

三、銷場稅 銷場稅は外省の貨物にして本省に入りて販賣せらるゝもの又は本省出產の貨物にして本省に於て販賣せらるゝものに課する税金にして其稅率は總て從價百分の二とす稅捐局は便宜上一箇月毎に賣上高に就き課稅す。

四、牲畜稅 牲畜稅は牛、馬、騾、驢、豚賣買の際買主より徵收する税金にして其稅率は總て買價百分の三とす。

五、酒稅 酒稅は燒酒其他の雜酒に課する税金にして其稅率は燒酒百斤に付銀一兩四錢とす雜酒稅は從價百分の十とす。

六、燒鍋稅 燒鍋稅は燒鍋に課する税金にして其稅率は一斑を有するものに在りては毎年銀四百兩、二斑を有するものありては銀六百兩にして以上一斑を加ふる毎に銀二百兩づつ増徴す。

七、缸捐 缸捐とは當地にて製造する水缸類に課する税金にして其稅率は從價百分の五とす。

八、木稅 木稅は材木に課する税金にして其稅率は從價百分の十とす。

九、菸稅 菸稅は葉煙草、刻煙草、紙卷煙草及び葉卷煙草等各種の煙草に課する税金にして其稅率は總て從價百分の十とす。

十、屠殺稅 屠殺稅は牛、豚、羊屠殺の際課する税金にして其稅率は牛は一頭に付大洋一元、豚は三角、羊は二角とす。

十一、豆麥稅及び斗稅 豆麥稅及び斗稅は本省出產又は外省より輸入したる大豆、小麥其他の雜穀に課する税金なり然れども生産地に於て自作自用のものには課稅せず故に本稅

は畢竟生産地に於て販賣するもの(賣主に課す)及び生産地より他に輸出するもの(輸出者に課す)並に外省より輸入したるもの(輸入者に課す)に課す其税率は左の如し。

等別	穀名	税率(毎年)
上	大豆	大洋 一分四厘
中	小麦	同 二分
下	油麥、江米	同 九厘
	小米、元米、稗子米、包米、小豆、芸豆、綠豆、綠麻實、大麻實、西天谷	同 六厘
	大麥、紅糧、包米、稗子、莠麥	同 三厘

十二、山海土産税 山海土産税は本省出産又は外來の貨物に課する税金なり生産地に於て自作自用のものには課税せざること斗税に同じ其税率左の如し。

貨名	單位	税率	貨名	單位	税率
藍	百斤	四分五厘	蘇	百斤	二分九厘
線	同	四分三厘	豆	同	二分九厘
麻	同	三分三厘	油	同	二分九厘
		二分八厘			四分三厘

貨名	單位	税率	貨名	單位	税率
牛	斤	四三五	片	斤	二九〇
瓜	斤	二九〇	蛋	斤	二九〇
花	斤	五八〇	肚	斤	八七
榆	斤	二一八	腿	斤	八七
凍	斤	四三五	魚	斤	五八〇
木	斤	二九〇	黃	斤	一〇二
雞	斤	五八〇	鱈	斤	八七
魚	斤	五八〇	鮑	斤	八七
蟹	斤	八七〇			六七
海	斤	一四〇			一四
海	斤	二九〇			二九
海	斤	二九〇			二九
鹿	斤	四四五			四四
鹿	斤	五八〇			二九
芝	斤	五八〇			二九
土	斤	一四五			二九
魚	斤	二九〇			一〇

貂	鹿	核	銀	鮮	冰	蛤	龍	乾	乾	海	狍	野	山	落	栗	紅	鮮
						蝦	蝦	墨	鹿	猪	花						
皮	茸	桃	魚	蟹	蟹	螞	菜	蜆	魚	蜆	肉	肉	鷄	生	子	棗	臺
		百	一	同	同	十	同	同	同	一	同	同	同	同	百	同	一
		斤	斤			斤				斤				斤	斤		
同	從價百分の二十	二九〇	五八	五八	五八	一四五	五	二九	二九	九	四三五	四三五	四三五	二九	二九	二九	一〇
各	犴	鹿	牛	猪	猪	狗	羊	羆	貉	虎	山	狼	狢	狐	水	豹	虎
色	達	狍	馬	鬃	鼠						狸	狗	獾				
雜	犴	狍	驢	馬													
皮	皮	皮	皮	尾	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	皮	骨
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
																從價百分の十五	從價百分の十

附 稅

各色菓品	從價百分の五
------	--------

本縣は邦人の居住せんとするものに對し護照註冊を受けしむ註冊とは登記の意にして護照を縣署に提出し登記を受けしめ縣署より護照註冊證なるものを下附す護照註冊證を所持せざるものには居住を許さず。

又家屋を借入れんとするものには豫め官憲に於て印刷に附し文面を一定し且つ警察署長の檢印を有する租出房契即ち借家契約書に依り契約せしむ。

右の二事項は大正四年日支條約の結果支那政府が我國に對し要求したるものにして我國の未だ承認せざる所なれども本縣の如きは業に已に之を實施す。

## 第二松花江、扶餘、吉林間に於ける 戎克及扶餘市場穀物集散の近況

扶餘縣駐在 囑託 廣 本 光 治

### 第二 松花江扶餘吉林間に於ける戎克

第二松花江扶餘吉林間に於ける戎克水運に關しては曩にも概略報告せしが此間の水運貨物は從來主として吉林附近より扶餘、大賚地方に輸出さるゝ水蘘、線蔴、葉煙草其他雜貨、燐寸、薪炭等にして遼航貨物比較的僅少なりし爲め戎克水運も旺盛ならざりしが歐洲開戦後東清鐵道の輸送力減退せし結果從來大部分哈爾濱市場に輸出されし扶餘、大賚地方に於ける特産物が直接長春若くは大連に輸出さるゝこととなり延て解氷後は此等特産物の水路吉長線九站驛若くは東清線陶賴昭驛に運び是より南送さるゝもの激増し之に加ふるに哈爾濱市場に於ける特産物すら逆に扶餘を経て右の兩地に廻送を見るが如き状態となり爲に扶餘吉林間の水運は頓に殷盛に赴き昨六年度の如き扶餘より九站に發送されたる特産物約五萬

第二松花江、扶餘、吉林間に於ける戎克及扶餘市場穀物集散の近況

石陶頼昭驛に發送されたるもの一萬餘石の多額に達し當時戎克の拂底を告げ運賃は例年其比を見ざる迄に昂騰したる盛況にありき而して右特産物の水運は時に汽船に依ることも元來此間は河幅徒に廣く且つ水量亦豊富ならざる爲減水時は水深僅に二呎内外の淺瀬各所に出現することあり汽船は勿論大なる戎克の航行すら自由ならざる状態にあるを以て汽船は旅客の運輸を主とし特産物は大部分戎克に依りつゝあり故に以下此間に於ける戎克の概要を列記すべし。

一、戎克の種類 此間水運に従事せる戎克は大方下の數種なりとす。

名 稱	積 載 量	乗 組 員 數	吃 水	船 型
改 巧 船	大 十萬斤 小 七萬斤	大 十二人内外 小 八人内外	滿船二尺乃至三尺五寸 空船一尺餘	比較的大形にて船體を有し棧は汽船の如き直立のものなりとす
槽 子 船	三 萬斤内外	六人乃至八人	滿船二尺五寸 空船一尺	船型槽子にて一尺計り板を敷く船の兩側に一尺計り板を敷く
三 板 船	二 萬斤内外	四人乃至七人	滿船一尺七八寸 空船一尺	船型槽子船と彷彿たるも船の兩側に槽子の如き通行板なし
對 子 船	一 萬五千斤内外	四、五人	滿船一尺五六寸 空船五六寸	長き三丈幅約五尺の長形船二隻を聯繫す容積の大なるものを積むに便なり
半 船	三 萬斤内外	四、五人	滿船二尺内外 空船一尺	船型槽子形にて恰も牛腹の如し

微 呼	積 載 量	乗 組 員 數	吃 水	船 型
一	一	二三人	一	本船は戎克と稱すべき程のものにあらざる極めて小形の丸木船に彷彿たるものなり

二、戎克の數及輸送力 戎克數及輸送力に就きては正確なる統計無きを以て扶餘に目下冬籠中の船數を基礎とし更に船夫等に就き調査したる見積概數を列記すべし。

扶餘に冬籠中の各種戎克數

改 巧	大 五十一隻 小 五十九隻	平均一隻積載量約七萬斤	總積載量 五百十萬斤
三 板 子	三十三隻	同	約二萬斤
對 子	百五十五隻	同	約一萬五千斤
半 船	一隻	同	約一萬斤
外に微呼と稱する小船	百二十五隻		約一萬斤

以上微呼を除き合計二百九十九隻の冬籠戎克あり其大部分は扶餘、吉林間を航行す而して扶餘より上流八里營子、五家站、老少溝、五棟樹、花園、朱船口、城子、白氣屯、溪浪河、烏拉街、九站、吉林等に改巧、三板等大約二百隻（平均一隻積載量五萬斤合計積載量一千萬斤）及吉林に約五百隻の對子船（之が平均一隻積載量約一萬五千斤合計積載量七百五十萬

斤)あり故に前記各戎克敷を合算せば扶餘、吉林間に大約一千隻(總積載量二千九百七十二萬五千斤)を有する次第なりとす。

戎克輸送力は江水の多寡に依り甚しき差異あり減水時は積載量半減すること敢て異とせず今假りに一箇年航行期間<sup>自四月間</sup>至十月間各戎克積載量の半數の貨物を積載し扶餘、吉林間を七回航行するものとせば往復總計一億〇四百〇三萬七千五百斤の貨物を輸送し得べく是を以て之を觀れば扶餘、吉林間戎克輸送力は一箇年大約一億萬斤と見れば大差なかるべし。

(扶餘、吉林間週航十五日乃至二十五日下航七日乃至十日を要す)

三、備船狀況及運賃 此間の水運は特に船間屋と稱すべき備船機關なく貨客と船主とに於て臨機協定し船主は協定地に於て保證人を立つるを普通とす而して貨物の豊富なる際は貨客より進んで備船し貨物尠なき場合は船主に於て貨客を求め輸送しつゝあり貨物の積込は貨客に於て負擔するを例とせるも船員に於て積込みたる場合は貨客は船員一同に對し一食分の饗應料を提供するを通例とし荷卸は船主の負擔なりとす。

運賃は貨物の多寡江水の如何等に依り一定せざるも大約下の如し。

扶餘、吉林間 穀物一石 二十五吊乃至三十五吊(吉林官帖と江省帖を各半分に支拂ふ)

扶餘、陶賴昭間 同 十二吊乃至十八吊(全部江省帖を支拂ふ)

吉林、扶餘間 雜貨百斤 四吊乃至八吊(吉林官帖を支拂ふ場合多し)

尙運賃は半額を發送地に於て支拂ひ殘額は到着地に於て支拂を普通とす。

四、戎克に對する税捐

每航一隻に付	吉林官帖	三吊
每航貨物一萬斤に付	吉林官帖	三吊
乗組船員各一名に對し	吉林官帖	一吊

民國五年六月より同六年五月末に至る間に扶餘税捐局に於て徵收したる前記各税金徵收額總計大洋四百五十元にして六年六月より同年結氷期迄の徵收額總計大洋二百四十元(大洋一元は平均吉林官帖十七八吊なり)なりしと云ふ。

扶餘(伯都訥)穀物集散狀況

扶餘市場に於ける集散物資中最も主たるものは穀物にして毎年頗る多額の集散を見つゝあり其内第一位にあるものは大豆にして小麥、高粱、綠豆之に次ぎ此外包米、谷子等も尠か

らす例年の出廻總額二十五萬乃至三十萬石輸出額十二三萬石と稱せらる而して之れが集散狀況に就きては既に扶餘縣事情其他を以て報告せしを以て再報の要なきも近時新現象と見るべきものは歐洲開戦後東清鐵道の輸送力甚だしく減退せし結果之が集散額著しく激増しつゝあることと輸出経路の變化を來したることにして今試みに昨六年收穫期以降同年舊年末に至る間に於ける集散狀況を示せば左表の如し。

種類	出廻額	輸出額	地方消費額	現存額
大豆	一五五、〇〇〇	一一三、五〇〇	二七、〇〇〇	一四五、〇〇〇
小豆	六〇、〇〇〇	一一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一一、〇〇〇
綠豆	二〇、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇
包米	一四、〇〇〇	八、四〇〇	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
高粱	五〇、〇〇〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一四、〇〇〇
谷子	一〇、〇〇〇	五、五〇〇	一、〇〇〇	四、五〇〇
蕎麥	四、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇
小豆	五〇〇	三〇〇	二〇〇	一、〇〇〇
小豆	五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇
蘇子	五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇

糜子	二、〇〇〇	一、六九七、〇〇〇	八二、八〇〇	二、〇〇〇
計	三二六、〇〇〇	一、六九七、〇〇〇	八二、八〇〇	六三五、〇〇〇

即ち前表に示すが如く昨年收穫期より同年舊年末迄の集散額は既に例年集散額を超過し居り之に春季の出廻總額を約五萬石と推算するも三割乃至四割方の増加を示し居れり斯る状態なるを以て之れが出廻範圍も著しく擴大し例年は附近一二百支里位なるも昨年来は遠く北方三四百支里安達肇東方面に及び居れり。

輸出経路は別報に述べしが如く從來主として解氷後水運に依り哈爾濱市場に輸出されつゝありしが歐洲開戦後は長春若くは直接大連に輸出さるゝこととなり結果哈爾濱市場に向ふものは僅かに同地に於て消費さるべき綠豆、粟、糜子等若干の輸出を見るのみとなれり而して之が南送方法は結氷期間は荷馬車により農安を経て長春に出づるも解氷後は水路吉長線九站驛若くは東清南線陶賴昭驛に出し此處より鐵路に依り南送しつゝあり。

前記の如く扶餘市場に於ける穀物の集散は戰時的影響を受け頗る好況にして今後斯る狀況が幾年間持續するやは判断に苦しむも附近蒙古地帯は年々潮の如き移住民により開拓されつゝあり且つ一方松花江航行權の割讓問題の喧傳さるゝあり旁々戦後と雖之が集散甚だし



き減退を見るが如きことなかるべく將來穀物取引市場として吾人の最も注目し値する處なりとす然り外商に於ては夙に此の地の穀物市場として有望なるに著眼し英商ワツナルト、露商徳和洋行、同ニウマン等入込み來り豊富なる資金を擁し之が買付に従事せしが戦後此地を引上げるに至れり然るに邦商に至りては未だ一人の此地に發展せるものなく此の無盡の財源は目下悉く支那商の手に於て左右しつゝあり邦人の發展力の未だ微弱なる寔に嘆すべく此際進んで邦人の此地に發展し此等の財源を開拓すると共に滿蒙開發の基礎を建てんこと切望に堪へざる次第なり此地に於て此等各種の事業經營に關する詳細の狀況は追て報告する處あるべし。

## 支那農商法令表解

前號所載の支那鐵業條例表解は本法令表解の一部なりしも便宜別項として掲げたるものなれば前號所載を第一章とし以下章を分ちて本冊子に連載する所あるべし。

### 第二章 林業

#### 沿革

我國の林政は多年放任の結果滿目童山たり故に外人の森林缺乏を論ずるや中國を引證せざるなし沃壤の土地荒敗し人民生活の困難職として此に起因す、民國元年五月農林部成立し宋教仁總長たるや林政の方針を確定し各省に命じ凡そ國內の山林中已に民有に屬せるものは民間にて經營に委せ尙ほ地方官をして監督保護の任に當らしめ其他は悉く國有と爲し部にて之を直管し各當該地方官をして保護せしめ私伐を嚴禁せり、別に山林局官制草案を國務會議に提出し天壇の地域内に模範林藝試驗場(即現在の第一林業試驗場)を設置し或は員を東三省に派し森林狀況を調査せしめ二年、西山林藝試驗分場を設け造林に従事す、三年十一月森林法を公布し四年四月山東長清縣に林業試驗場(即現在の第二林業試驗所)を添設

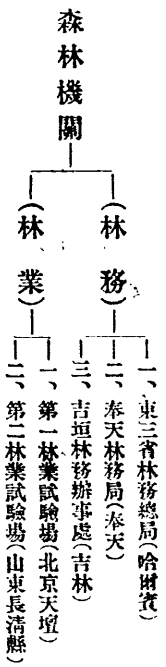


す、七月森林法施行細則造林獎勵條例を公布し凡そ國有林、保安林、公有或は私有林に關する事務及獎勵監督罰則に關して規定を分ちて通ねく遵守せしむ、是に於て國有、民有の界限を明かにして經營管理の方法緒に就くに至れり。

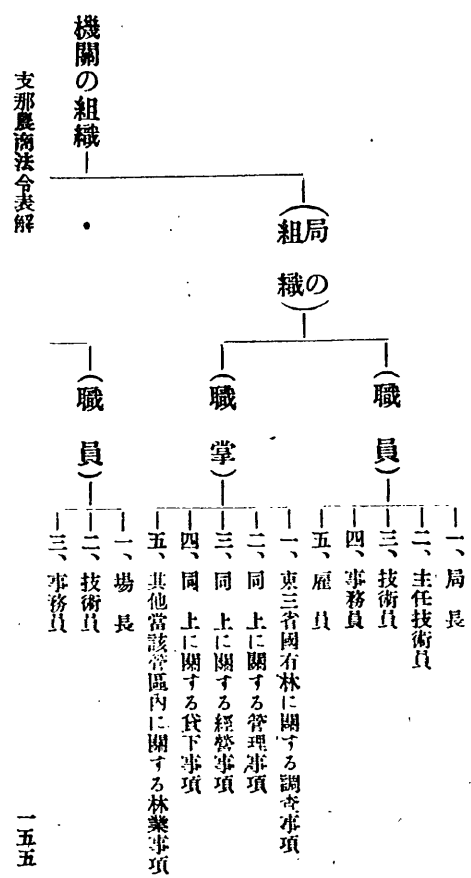
民國元年十一月農商部は吉林に林務局、哈爾濱に林務分局を設立し東三省國有森林發放(貸下)事宜を管理せしめ十二月部令を以て東三省森林發放規則を公布し人民に林場の貸下を認許せり二年十一月吉、哈、兩局を合併し東三省林務局と改め哈爾濱に駐す。

東三省林務局暫行規程及分科規則を公布し三年八月發放森林限制辦法、森林拂下制限規定を制定し個人に於て林場の貸下を出願するものは先づ林務局の測定を經たる上許可することとし貸下面積は二百方里を限度とし貸下期限は最長期限二十年とし毎年一回貸下證を檢査することとし東三省森林發放規則は修正して東三省國有林發放規則となし別に森林警察林業講習所設置の計畫を立て測量養護主義を實行せんとせしも經費缺乏の爲め豫定計畫の遂行を見るに至らず四年五月東三省林務局を改めて東三省林務總局となし又林務局を奉天に設け七月吉林、安東、本溪湖、寧古塔、林務辦事處四所を設立し五年八月安東、本溪湖、寧古塔の林務辦事處を撤廢し現在に於ては吉林省内に一處を留むるのみ。

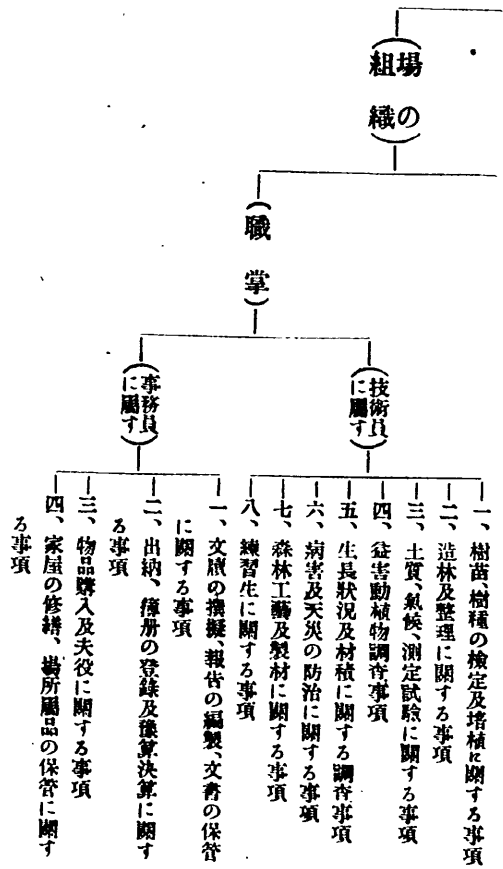
### 第一節 森林行政機關



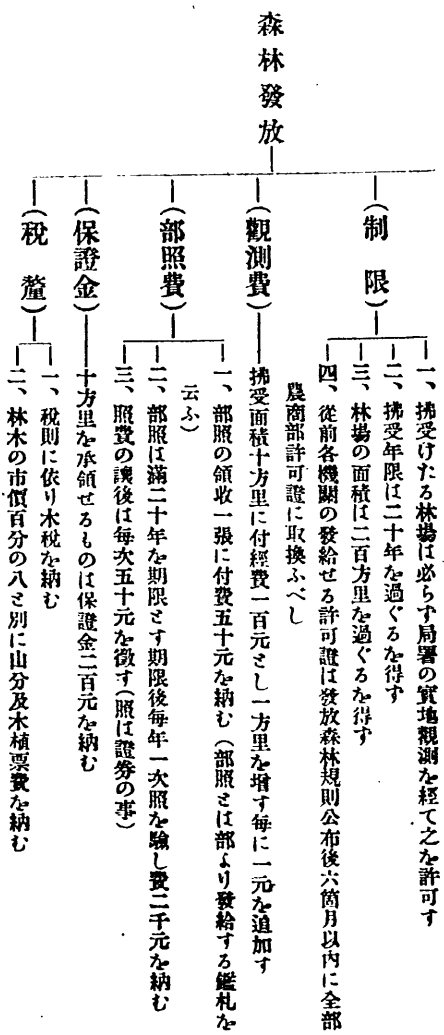
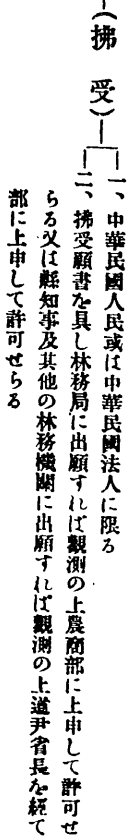
### 第二節 機關の組織



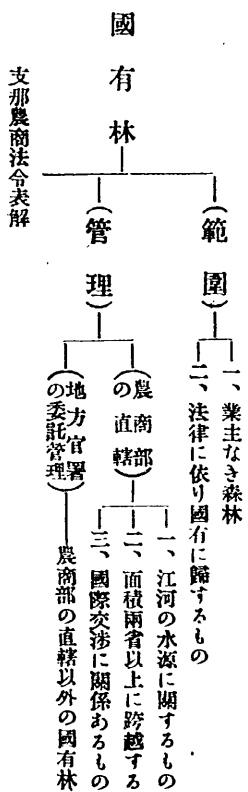
支那農商法令表解



第三節 森林發放(貸下)



第四節 國有林



〔國有に歸するもの〕 農商部が公有或は私有林に對し國有林經營上重大關係ありと認むるものは之を國有に歸す但し相當の對價を支拂ふものとす

### 第五節 保安林

#### 保安林

- (編列)
  - 一、農商務認めて必要と爲すとき
  - 二、地方行政長官が認めて必要と爲すとき
- (性質)
  - 一、水患の豫防に關係あるもの
  - 二、水深の涵養に關係あるもの
  - 三、公衆衛生に關係あるもの
  - 四、航行目標に關係あるもの
  - 五、漁業の利便に關係あるもの
  - 六、風砂の防散に關係あるもの

### 第六節 領地造林

- (領地資格)
  - 一、中華民國國籍を有する個人
  - 二、中華民國國籍を有する團體
- (貸下料及地租の免除)
  - 一、官荒地を承領して造林を願ふものは無償にて給與を得
  - 二、承領の官荒地は承領の日より五年以上三十年以内の租税免除を得

#### 領地造林

- (地面の制限)
  - 一、承領せる官荒地造林は其面積一平方里を超ゆるを得ず
  - 二、承領人が造林を竣成したる時は申請の上更に其面積を百方里限り擴張することを得
- (保證金)
  - 一、承領せる官荒地は十方里毎に二十元以上百元以下の保證金を納む
  - 二、保證金利息は百分の三より百分の五を限り還付の時核給す
  - 三、保證金は承領の日より滿五年後造林の成績顯著なるものに之を還付す
- (取消)
  - 一、承領せる無償給與の官荒地は一年を経過し尙ほ未だ造林に着手せざるものは撤回し其保證金(天災地變及其他不可抗力により當該地方官より延期の許可を得たるものを除く)を沒收す

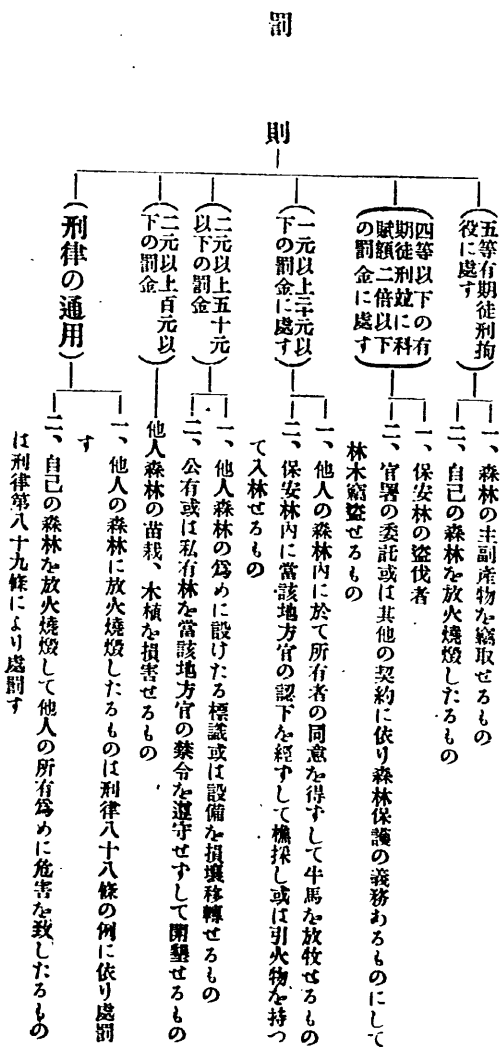
### 第七節 造林獎勵

- (請獎)
  - 一、請獎者の姓名或は商號及其住所
  - 二、林場所在地
  - 三、面積及區域
  - 四、樹種及株數
  - 五、總業計畫の要領
  - 六、經過の年數
  - 七、林相寫眞及林木の標本を添付すべし
- (獎章)
  - 一、造林面積二百畝以上に達し成長滿五年以上のもの四等獎章を給す
  - 二、造林面積四百畝以上に達し成長滿五年以上のもの三等獎章を給す



- (獎 金)
  - 一、造林面積七百畝以上に達し成長滿五年以上のもの二等獎章を給す
  - 二、造林面積千畝以上に達し成長滿五年以上のもの一等獎章を給す
  - 三、特種林業を経営し國際貿易に重大なる關係あるもの
  - 四、特種林業を経営し造船、築路等各種大工程の用に耐ふるもの
- (特別給獎)
  - 造林面積三千畝以上に達し成長滿五年以上のもの

### 第八節 罰 則



## 山西省方面に於ける甘草概況

勸託 三 原 作 一

### 目 次

- 緒言
- 一、産地及産額
- 二、品質及種別
- 三、相場格
- 四、税率
- 五、運賃
- 六、梱法、運搬具及梱包の斤量
- 七、輸送路及日數
- 八、甘草買附狀況
- 九、採掘狀況

右は三月二十二日張家口に於て吉田章氏(原産歸化城に在住)より聞き得たる山西方面甘草の概況にして其儘参考のため報告す。

支那の藥材 支那に於ける藥材は四百餘州至る處之を産せざるなしと云ふも不可なるべし然れども産出地各遠隔の地にあり交通不便なるを以て從來藥材の總取引を年二回(五

山西方面に於ける甘草概況

月、十一月)と定め之を直隸省祁州に於て行ひ此兩期間に至れば各地の藥材商は水運旱路によりて貨物を該地に蒐集して取引をなすを例とせり其總額毎年大約百五十萬元に上ると云ふ。

取引同業者團體 取引商には班と稱する同業團體あり例へば歸化城、綏遠城及西北口外より産出する藥材は山西班の取引商に屬するが如し。

外商の直接購買 山西方面に集散する甘草は祁州に於ける開市を俟たず直接買辦を該方面に派して買附をなす方有利なるを以て近來甘草の外商の手によりて直接天津に向ひ搬出せらるゝもの増加するに至れり

以下項を分ちて記すべし。

### 一、産地及産額

イ、本山(大青山、烏蘭山以南、綏、涼、清、託各縣一帶)

ロ、河西(黄河の西、鄂爾多斯地方)

ハ、後套(五原縣及札薩克地方)

ニ、山後(阿拉善地方、賀蘭山北一帶、寧夏、中衛附近)

内本山の草を以て最佳品とし山後亦草根粗大にして之と併稱せらるゝと雖何れも産額多からず反之河西、後套地方は産額多量あるも品質良好ならず。

此等地方に於ける一箇年産額は確知し難きも支那人の云ふところに據れば五百萬斤と稱す後節説くところの如く英美煙公司在毎年二百餘萬斤を買出しつゝありとせば或は三百萬斤以上に達するやも測り難く東蒙古に於ける産額に略匹敵せる數量ならんか。

### 二、品質及種別

品質は種類により各異れども鐵心草を最良となす、鐵心草は草根透明にして色蜜臘の如く形體練鐵に似たるを以て此稱あり、小草は根莖細小にして品質劣等に屬す一般に草根は粗大なるものを以て佳良品とし細小なるものを劣等品とす。

種別亦數多あれども概ね左の六種に分つすべし

イ、大草 又は大天津と稱す

ロ、二草 又は二天津と稱す

山西省方面に於ける甘草概況

ハ、臺草 箸大の莖徑あるもの  
 ニ、粉草 草皮を剝取りたるもの  
 ホ、河草 又は小草とも稱し莖徑小指大のもの  
 ヘ、夥草 以上五種の屑物を混合したるもの  
 此外紅皮大草、粉頭二草等の名稱あれども以上の六種中に包含せらるるものとす。

備考

大天津、二天津の名稱あるは品質善良にして多く天津方面に輸出せらるるを以てなり。  
 撥路は天津を上位とし祁州を二位とす。  
 草根の需要多きは粉草を以て第一とし河草及臺草之に次ぎ主として祁州に搬出す。

三、相場格

平均相場を種別に記せば左の如し (每百斤)

大草	十五、六兩	二草	十四兩
臺草	八兩	粉草	六兩以下
河草	六兩以下	夥草	五兩上下

秤量は普通十匁一兩、十六兩一斤を以て計量するを標準秤とするも藥材に至りては百五十匁一斤あり三百匁一斤ありて分量一定せず然し甘草は草根乾燥の程度如何に係はらず標準秤百斤に對し約三、四十斤を加増するを常とす。

四、税率

草根買額每庫平銀一兩に對し一分一厘を課税す之を市平と庫平との差額一分五厘を加算すれば二分二厘六毛五の税率となる。  
 銀平は各地によりて多少の差異あれば明記し難し、課税の標準は庫平銀に據るを以て之が差額を算出せざるべからず。

五、運賃

草根每斤每百支里に付制錢四文乃至五文を普通相場とす。  
 由河口至豐鎮 每車(馬車) 二兩(市平)  
 由歸化至祁州 同 二兩七錢(市平)

山西省方面に於ける甘草概況

### 六、梱法、運搬具及梱包の斤量

採掘後集收したる草根は先づ一律之を三尺乃至四尺の長に裁断し繩を以て締括し再び葦席(アンペラ)にて包装す。

運搬具は普通馬車(一頭曳)駱背、騾背の三種とし牛車は稀に之を用ゆ。

梱包の斤量は運搬具により異なる、車包は一包二百斤内外、駱包は百五十斤内外、騾包は百二十斤餘を普通とす。

積載量を示せば

馬車 九百斤乃至一千餘斤(普通馬車一臺には五包を積載す)

駱背 三百斤内外 騾背 二百五十斤餘

牛車は馬車と同一積載量なり。

### 七、輸送路及日數

原産地方にて蒐集したる貨物は概ね冀夏又は河套より民船を以て黄河を下り又鄂爾多斯郡

ち河西地方並に清水、和林兩縣地方よりは定輪牛車(俗に二餅子車と稱し車輪に輻子なきもの)により總集散地たる河口に搬出するを常とす而して取引済の上は更に祁州或は豊鎮に至りて汽車積とし天津各地方遠くは廣東方面に輸送せらる。

所要日數は

由河口至歸化 三日乃至四日(稀)

由河口至豊鎮 普通 七日(多)

### 八、甘草買附狀況

托克托縣河口は甘草の總集散地にして黄河に臨み河舟車馬輻輳し水陸兩路の要衝に當る。該地に於ける主なる甘草取扱店は

公義昌店 慶隆店 裕隆店 榮陸昌店

にして之等は何れも賣買上の一切、購買、運送、課税、厘金等の代理及貨物の保險をも取扱ふ。

毎年集散時期に至れば各地よりの買出商人は此地に雲集し來り前記四商店に於て品質の按

配、集聚貨物の數量等により相場を決定し取引するを常とするも若し相場未だ立たざるに先ち取引ありたる時は各商店は一切を代理し相場確定の上金銭の授受を行ふと云ふ。  
近來英美煙公司是當地方の甘草買出に注目し來り既に豐鎮には甘草搬運公司なるものを特設し一般買出及び河口よりの運搬、天津への汽車積等を取扱ひ一箇年收買額二百萬斤に達す。

歸化城は原産地を距る遠隔の地にあるを以て同地を通過するもの至て稀にして従て甘草専門の店舗なく僅に德隆店、聚勝店の貨物運搬の取次店あるのみ。

### 九、採掘狀況

草根の採掘の狀況は略々東三省に於ける人蔘收穫と同一なり一般に東土默特旗內阜新縣の西北方産出の甘草よりも品質佳良且つ草根粗大にして採掘の規模亦大なり採集人は保德縣のもの多く之等は小資本家合同して毎年清明（四月五日前後）に三百乃至五百人の採掘人夫を雇傭し産出地方に出張し蒙古牧民に等しき天幕を張り毎朝人夫は器具（鐵）を肩にし四出採掘に従事す而して所得の草根を廠主（即ち天幕内の資本主）の許に持參せば廠主は

品質の種類によりて斤量を測り毎斤制錢二十文を支拂ふ、但し秤量には品質の善惡によりて

斤半折一斤 二斤乃至三、四斤 折一斤 又は一斤倍二乃至三斤

等の定率あり蓋し草根細惡なるものは原秤數量一斤半を一斤に、二斤乃至三斤を一斤として取扱ひ、草根粗大にして善良なるものは一斤を二斤乃至三、四斤に取扱ふ規定なり然れども最良品たる鐵心草の如きに至りては此定率に依らず特別價格を以て之を買上ぐと云ふ。  
草根の粗大なるものに至りては一草にして一丈餘の深さに達するものあり又沙地に生へたるものは直下採掘すること得ざるを以て六、七尺の草根にして坑口徑七、八尺を掘鑿せざるべからざるものあり又草根土中に傾斜挿入せるもの如きは採掘最も困難にして人夫は之を折損することなく完全に採掘せんとするの結果坑口墜落して負傷するものありと云ふ以て甘草採掘の容易ならざるを知るべきなり。

採掘期は大概夏季に至りて終了し廠主は集聚せる草根を品質によりて數種に分別し搬出に著手す（河口に向け）

備考 尙黨蒙經濟事情五、六號甘草の項参照あり度し。

山西省方面に於ける甘草概況



## 長春附近に於ける農事經營の實驗

別冊は長春より石碑嶺に通ずる輕便線沿線の鐵道附屬地を借入れ農業に従事しつゝある長春東間屋敷酒井親輔氏の寄贈に係り滿蒙農業従事者の參考とも可相成に付不取敢紹介することとせり。

三月二十五日

旭 囑 託

書面寫し

前略

時に先年御面會の折り御約束致しました當農場の情況早く御知らせ申上ぐべき筈の處當時未決の問題甚だ多く筆を採れば唯希望と豫定とを記すに止まり未だ實績を報告する能はざるを遺憾とし暫く研究成績の現はれたる後にせんと差し控へて居りました然るに滿鐵からも此間現状を報告せよと申付けられ要項を記して提出しました又業務の方も辛ふじて目鼻が附きましたから過去及將來の豫定等をも加へて御參考迄御知らせ致します何卒何事によらず御教導を仰ぎ度又御引立に預り度御願申上げ

長春附近に於ける農事經營の實驗

一七一

ます再拜。

三月二十四日

酒井親輔

旭藤市郎様

大正元年長春附近の經濟情況を取調べ同年六月石碑嶺、陶家屯炭坑用地及輕鐵沿線に附屬地ありて支那人の任意使用に放置しあるを聞き之を整理すれば少なからぬ地積ある事も確め不取敢經理係所屬の分を借り受けて農業を營むべく決せり。

其目的は當時世上に種々論議せられたる如く滿洲に於ける日本人の農業は果して見込無きや支那人との競争は絶對に不可能なるや内陸居住の安全策は兵力、警察力の保護なくしては叶はざるや等の諸問題に對して我等は未だ絶對に不可能と斷定する能はず如何にも困難なる事業に相違無しと雖何等か不明なる道筋を探究せずして遺棄せらるゝに弄らざるかの感ありたり而して若し此困難を避けて研究する者無くんば滿洲の農業は永久に日本人の手に歸する能はず即ち眞の殖民地たる能はずして日露戰爭の效果は著しく高價のものとなり終はるべし。

土地あれば農業あり如何なる土地と雖其土地相當の農業無かる可らず都督府滿鐵等は勿論

研究さるゝならんも公費を以てする研究は經濟に重きを置かず故に之を實際に適用するに當りて更に一段の研究を要するを通例とす、故に我等は初めより獨立經濟を根本主義として有らゆる技能を應用し營業として殖民策として日本農民を滿洲に移殖すべき手段を研究するを目的としたるものなり従つて成效を急かず初めより利益を豫期する能はずと雖終局の利益を確信して著手したり。

其當時此沿線には石碑嶺、陶家屯、三間房の三箇所に分遣兵ありて警戒し石碑嶺、陶家屯には撫順炭坑より監視員を派遣して留守番せしめ三間房には長春保線係より線路工夫を置きて線路の保存を勉めたり。

當初借り受けたるは石碑嶺、陶家屯の兩炭坑礦區を除きたる殘餘の沿線附屬地全部と中間線路用地の草を利用することを許可されたり此等の附屬地は圖上には明示しあれども現地には何等の標示物もなく附近の支那人は勝手に耕作し牛馬を放ち勿論境界も明かならず中には永く耕作して支那人すら土地の所有者を知らずして自分等の土地と信じ居る者もありて此土地を支那人の手より穩かに取り上ぐるは最初の困難の一問題たりし。

先づ三間房に本據を定め支那人の耕作したる高粱畑の中に農舎を建築し井戸を掘れり此れ

が爲めにも此等の支那人は將來我等の善隣關係を保つべく務めて正當に穩便に交渉して彼等の承諾を受けて高粱の收穫を待つて工事に着手し大正元年十月末に家族と共に移住せり農業の方法は兎に角最初は支那式其儘を練習し漸次缺點を發見するに従つて隨時改め傍ら諸種の試験を行ひて漸次增收の方法を研究する事とし日本人農夫としては除隊兵を採用し勿論支那農夫と馬とを動力とし附近の支那人とは進んで親密を求め大正二年第一回の作付を行ひたり此年は年雇は幸にして好苦力を得たれども日雇は賃銀の如何に拘はらず全く稼らす雨多く草は盛に伸びたれども苦力不足して困難を極め百方勸誘して少數の日雇を集め辛うじて間に合はしたり是れ從來彼等の接したる日本人は兵に非ずんば線路工夫にして常に鶏豚を奪はれ畑を荒さるゝ等の事ありて敵視すること久しかりしを以て今急に招くことも肯せざるは當然の事なりし又夏雨激しく河川溢濫する際故意に堤防を破壊したる者ありて爲に畑は水害を受け折角の研究試作は腐敗し農舎は破壊し豚は溺死し苦力小舎は潰れ屠るに處なく馬を曳いて苦力は石碑嶺に避難せしめ我等は線路工夫の家に收容されたり秋に及んで漸く復舊して更に豫定を續行したり時に此沿線の分遣兵は全部引上げられて月八回巡察する事となれり。

此年の收穫は總て豫期に反して頗る不成績に終はり千餘圓の缺損を來たし唯地方の農法を會得し農民の習慣を知り氣候の變化、地力の程度を試み得たるに過ぎざりし大正三年には滿鐵より全線路及炭坑等の監視補修の委任を受ける事となり其費用として毎年二千五百圓を受けて保管の責を負ひ同時に石碑嶺の土地の半部と陶家屯の全部と長春の線路の終端の用地とを併せて藉り受け線路の使用を許されて急に人員を増し農業の傍ら滿鐵の財産監視を兼ねる事となりたり。

從來此線路は石炭運搬の爲に布設されたるものなれども滿鐵は炭坑閉鎖の方針を採りたるを以て可惜線路は何等の用途無く枕木は腐朽しても顧みられず軌條其他の整難類々として其保存には厄介視せられたるものなりし由て先づ沿線一帯の住民の人心收斂に努め彼等の便宜を圖るを主とし附近の支那人は味方迄に到らざるも尠くも敵たらざる様にし各區に所要の人馬を配置して耕作したり然るに新來の除隊兵は何れも未だ當地の農法に熟せざるは勿論農閑を利用すべき副業無きと凶作に遭ひ又穀價の低落に遇ひ又は他の誘惑に陥りて業務に熱心ならざるもの等種々の障害起り收支償はず殊に當地は貨幣の變動、物價の高低極端にして農場として苦力賃の準備必要品の購入產物の賣却法等は耕作生産の技能以上に

緊要なる事を経験して是非市街との交通聯絡を敏捷にせざるべからざるを覺り又監視上にも甚だ不便を感じたるを以て遂に長春の終端に家屋を建て本據を移したり。

大正四年には漸次經驗を積み從來の各區毎の耕作を止め全部を耕作するに要する準備は悉く纏めて長春に具へ播種の季に到らば耕作隊を組織して陶家屯より播き初め漸次小河臺、石碑嶺、三間房等巡廻して了り次に除草、中耕、收穫、脱穀等總て一手に作業する事とし人馬不足すれば日雇、月雇を以て補ひたるに勞力の節約作業の功程等頗る好結果を得たり又肥料の必要を感じる事切なるを以て市街の人糞利用を努め粟の如き殊に増收を得たり。然るに此れにても農業のみにては除草後收穫迄の間及冬季間は人馬の仕事無くして徒食に苦しみ切に副業の必要を感じたるを以て農夫の一名を大連に遣し都督府の許可を得て柳行李製造を傳習せしめ又高野豆腐の製造等を研究せしめたれども此等は皆家内手工に屬して苦力及馬を利用する能はず由て輕便線を利用する運送業を試みたり。

此年の營業成績は従前に比して餘程見込ある事を覺らしめたり然れども前年より缺損の越高大なると研究費の多額なる等遂に二千餘圓の損失を繰越せり。

大正五年には一同大部熟練して巧みに人馬を運用し附近の支那人とも益々親密となり諸事

容易に進行し收穫も凶年ながら肥料を惜まざる爲め相當の作となり又運搬業も多少の收入を助けて決算の結果は千圓以内の損失に進みたり。

然るに茲に憂ふべき一事は我等の當地に来る前に白石房次なるもの石碑嶺の附屬地を耕して蔬菜を作り居たれども年々の成績面白からざる爲め遂に賣藥を初めたり其結果從來衣食にも窮し居たる彼は急に美衣を纏ひ頼みに料理店等に出入するに至りたるを見て我が農場の者も遂に此れを真似て最早救ふ可からず折角是迄仕込たれども禁則を犯して改むるを知らず止むなく是等の者を悉く解約したり。

大正六年度は新來の者多く熟練したる者は唯一家族あるのみにて大に事業を妨げたれども從來蓄積力の發したる爲めか見習も會得すること早く耕作も略豫定通りに進行し運送業も前年よりは更に良好に進みたり而して此運送なるものは春より夏中即ち農家の最も繁忙なる季節には何等の貨物もなく八月節前即ち除草後收穫前の間には若干の雜貨は田舎に運ばれ冬季は總ての貨物の活動期なるを以て農業の餘暇を利用するに最も適合し殊に人馬共に仕事を得て實に好副業たり然れども現在の輕便線に於ける運送業としては延長十里支那馬車の僅に半日行程に過ぎざるを以て馬車との競争は容易ならず故に貨物の託送は極めて

不實にして未だ閑人馬の全部を利用するに足らず唯だ幾分農業の収益を補助するに止まる。由て更に第二の副業を求むべく附近を探究して石山あるを發見せり蓋し當地附近は石材の缺乏せる處にして建築家は皆困難し支那煉瓦の耐久力無く永久建物に用ふべからざるを實驗して益々石材の必要を感じ又滿鐵にて經營する大屯の石山は漸次採掘困難となり遠からずして放捨せざるべからざる情況なるを以て例令良石材に非らずとも何等か使用の途ある石ならば此を採掘し運搬する事は決して徒勞に終る事なかるべく閑人馬を利用すべき好副業たるべき見込を以て著手せり而して此れが爲には稍々多くの資金を要したれども需要も相當にありて秋期に至りては遂に供給不足を來せり。

斯くして六年度は農業を基本として託送貨物あれば閑人馬は悉く此れを運び手不足のときは附近農家の人馬をして手傳はしめ猶餘暇あれば總ての人馬は何時にても石材運搬に従ひ斯く三業を組み合せて初めて年中止みなく平均に勞力を分配して増收を圖る事を得たり而して此六年度は收穫僅に七分作に達せざりしも穀價の騰貴甚しく昨年當時の八割高乃至二倍以上に達せしを以て缺損を來さざるのみならず餘業收入を加へて創業以來初めての利益を見たり。

大正六年度決算表 (七年一月末締切)

資 産		資 産	
土地	一五〇〇〇	建物	五二八五二
器具	七二一八四	研究具	一五四〇〇
年工	一五二五	馬	六四〇〇〇
牛	一六〇〇〇	豚	四〇〇〇
鶏	一一四〇	卵	七〇〇
大豆	三五四一八一	高粱	一、二七九、九八
粟	一四〇六六	稗	四二三七八
雜穀	八六〇〇	三間房殘穀	一一一三二
石碑嶺殘穀	九七六五	小河臺同	一一八〇
陶家屯殘穀	九五九	稗稿	八五〇〇
肥料	八五六一	石油	一七七〇〇
鹽	八七五	圖書	三五五〇

長春附近に於ける農事經營の實驗

一七九

長春附近に於ける農事經營の實驗

一八〇

古木材	二一六六	假拂金	七三八・五五
石	六五二八・〇〇	砂	一四四〇・〇〇
貸金	五〇五六・九一	現金	四七五・四三
前年度損金	九〇八・三〇	合計	二九六九八・九七
借越資金	二五三四七・六九	未拂金	七七四五・〇
監視費殘	一六二・三〇	本年度益金	三、四一四・四八
合計	二九六九八・九七		

監視狀況 滿鐵との契約に従ひ三間房、石碑嶺、陶家屯の三箇所に各日本人一名支那人二名づつの監視者を置き三間房の受持は長春、三間房間とし石碑嶺は三間房、石碑嶺間とし陶家屯は三間房、陶家屯間として各受持區域内の土地、鐵道、電線、建物備付品等一切の監視保存に任じたり而して其中間線路、電線等の見廻りは日本人又は支那人交代して少くとも毎日一回以上受持區間を巡視して枕木交換、踏切掃除其他必要なる手入をなさしめ其結果は每晚電話を以て報告を徴し次日の業務を通知せり然るに單に此れだけでは春の融氷

期及び夏の降雨期等には線路の補修間に合はず築堤の土工、橋梁の修繕、草刈等は其時々別に修繕隊を組織して必要なる器具と材料とを携行して補修せしめたり。  
 總て補修の程度は原形を基準として其れより幾分にも良好に進むるやう努めたり然れども築堤の如きは所々甚だしく土量の不足せるあり又橋梁の如きも兩岸の崩壊漸次擴大して自然長大なる架橋を要するあり又枕木の交換は際限なく毎年二千五百本見當にて入れ換へたり若し此等を完全なるものとするには經費の許さざるあり依つて現在の使用に充分なるを程度として補修せり從來の見當より推算すれば凡そ毎年三千五百圓を投ずれば可なり頻繁なる使用に堪ゆるに至るべし現在年々の平均豫算次の如し。

收入	二五〇〇・〇〇
支出	一一五〇〇・〇〇

内譯

日本人	三名	給料	月三〇日	一〇八〇・〇〇
支那人	六名	同	六	四三二・〇〇
臨時雇工賃				三〇〇・〇〇

長春附近に於ける農事經營の實驗

一八一

長春附近に於ける農事經營の實驗

一八二

材料費

六〇〇〇〇

器具及修繕費

六〇〇〇〇

豫備費

二八〇〇

以上の如くして監視保管を勉むる内賊其他の害を受けし主なるものは大正四年五月九日日  
支交渉事件の爲め臨時に日本人監視者のみを長春に引揚げたる際陶家屯北方にて軌條五本  
盗まれたると(後に至り其犯人は分明せり)石碑嶺附屬地内にて同じく農業を営みし白石房  
次氏の賣藥を初めてより嘗て平穩なりし同地附近は次第に小盜頻々として大に不安を感ず  
るに至り遂に大正四年十二月二日の夜石碑嶺附屬地居住支那人の家屋の壁を破つて押入り  
衣類其他を盗み去り同五年一月二十六日には同地に八名の馬賊襲來して百餘圓の金品の損  
害と監視者日本人二名の頭部に入院約二箇月を要せし負傷を受けたると鐵價騰貴に従つて  
橋梁の金具、挾接板等を屢々盗まれたると昨冬嚴寒の候となり小河臺の巡察兵休憩小舎を  
漸次盗み去られたると昨年十二月二十七日には二名の支那兵石碑嶺に來りて監視者の頭部  
に三週間の治療を要せし負傷をせしめたる等にして其他附近村落に屢々襲來する賊は時々  
不安を想はしむる事あり巡察兵の巡察は初め契約當時は毎月八回なりしもの六回となり次

第に減じて四回となり二回となり昨年以來は一回となり又は二箇月に一回となりたり最も  
事故のなき時は差支なきも高粱の繁茂季其他附近に近く馬賊の接近して暫らく去らざる時  
は巡察兵の巡遣を乞へども多くは希望を容れられたる事なし。

支那人との折れ合は豫定の如く年と共に益々親密を加へたり近年彼等の最も苦心するは資  
金の缺乏にして之に對して比較的低位に資金を貸與し或は饑飢の際糧穀を貸與し便利なる  
農具、人造肥料等を試用せしめ農産物の運搬其他に輕鐵を使用せしめ土地、雜穀、鶏、豚等  
を買取り賊襲を受けたる者をば附屬地内に保護する等の事は彼等の最も徳とするものと如  
し支那官憲の農民に對するや積極的保護策を採るべしとは見えず一種の財源位に見做し居  
るに非ざるか彼等は各箇に自衛し眞の味方なる者なきが如く殊に居住の安全と云ふ點に至  
りては到底日本内地の農民に比すべくも非らず又官憲の所置に對しては唯不可抗力として  
威服する慣習なるを以て例外國人たりとも彼等に便宜を與へ好意を表するものあらば所  
謂地獄に佛と迄は行かずとも尠くも我等を目して好同伴とし相談相手とし沿線に起る巨細  
の事業にも相談を持ち込み又農場にて計畫する事業に就ても差支へなき限りなるべく多く  
の利を彼等に分つ方針を以て協議を進むれば彼等は決して反抗し妨害する等の事なく却て

長春附近に於ける農事經營の實驗

一八三

彼等より進んで事業を保護し注意を與へ考案を提供し若し附近に賊襲來すれば直に急報する等自然彼等の便宜を保護する爲に我等をも顧慮するものと如し。

土地買収の件は地方の習慣ありて急進容易ならず從來は附近人民の希望に任せて彼等の便宜を圖る主意にて買収せり此れは何等官憲の承認を経ず唯だ附近住民の承認を経たるのみなれども耕作其他事業上には何等の障害も起らず唯一度支那官憲に密告したる者ありしとかにて賣主の内に投獄されたる者ありし而して附近住民の意向を探るに敢て我等を恨む者なく其密告者を憤る事甚だしく而して賣主も間もなく出獄したるを以て何時となく驚怖の念を去りたり但し我等は既に買収したる土地の權利を更に確實にすると同時に金融上の關係より東洋拓殖會社の活動と相俟つて今後の買収を容易ならしむる爲に特に土地商租手續完成の一日も速かならん事の希望に堪へず。

田舎居住の安全策としては兵力、警察力の直接保護を第一とするは勿論なれども現状の如く土地散在して密集居住も出來ざる場合には先づ支那式を學んで賊の目標となるべき財産を所持せざる事、賣藥賭博其他支那人の見て惡業とする仕事を弄せざる事、常に公明の態度を探り附近の住民より尊敬を受くる様努むる事等は武力自衛不可能の際に探るべき唯一

の有効手段なるを認めたり而して既に危険を覺悟して著手したる以上は多少農場財産の損害等に就ては深く意とするに足らざれども監視物件の保管を完ふする爲には是非巡察兵の多大なる援助を乞はざる可らず。

日本人農夫も目下五家族ありて古きは三年以上經驗して略要領を會得し又最初獨身にて來りしものも漸次妻を迎へ弟を呼び寄せる状況迄進みたり斯くして第一期の獨立經濟試驗に成功すれば次期には各農夫の半獨立より獨立經濟に進むべき試驗を計畫せり斯くして豫定の如く日本農民の滿洲移植試驗に成功すれば次には將來起るべき各地の農場に要する日人農夫の養成に従事せんとす。

農業及監視の現状右の如く當初の目的に達する前途猶遠しと雖隱忍漸く六年目の今日に至り初めて曙光を認め稍輪廓を具ふるに至り本農場員一同大に張合ひを得て益々奮勵し以て當初の目的を貫かん事を期す。(終)



## 林西の近況(一)

囑託 大神直節

### 一、一般の市況

客秋農作物の收穫甚だ不結果なりしたため農産品の現在市價昨年當時に比し總て倍價以上を稱へ其の出廻多からず特産の獸毛は其の時期にあらざるの故を以て殆ど入市を見ず獸皮に至りては山羊皮、綿羊皮を主とし狼皮、狐皮、草狐皮、牛皮、汗類、爾皮等若干の入市取引行はれ馬市亦日々二、三十の駿馬朔風に嘶き居れるが客秋に比し價格二、三割安なりと而して一般經濟界極て好況なりとは云ひ難しと雖も各種雜貨の輸入は陰曆年末を以て暫時打切りの商慣習なれば昨今掉尾の輸入に活況を呈し就中新炭市場は近郷より輸入する枯草、樹枝、樹根、木炭が當市場總てに使用さるゝ燃料となり居れるを以て日々北門内なる同市場は之れが取引に従事せる支蒙人により喧々囂々を極め大に賑ひ居れり亦烏兔勿々として陰曆も歳末残り幾くもなければ各商舖千種萬類の越年用品を店頭に陳列せるが近郷の支、

林西の近況

蒙、農徒或は市の内外に駐屯せる多数の兵士等之に媚集し賣去り賣來り頗る般盛なれば爲に中大街三道街、の如き目抜き場所は流石の大道も肩摩殺撃の状態なり。

一、商務會の移轉

林西商務會は是迄東生泉燒鍋内に事務所を設置し居りしが市場の發達と共に自然事務の繁忙を來し事務所の狹隘を感ずるに至りしを以て去る一月十八日二道街なる米鎮守使所有家屋に移轉せり新事務所は六間房家賃年三百六十元因て會商務會正會長は客秋以來の難症も漸くにして昨今全治に近きたれば陰曆正月を當地に濟し三月上旬を期し當地出發靜養旁々郷里遼陽に歸省すと云ふ會は誠實熱心なる親日主義者たり。

一、日本婦人の來林

去る一月十二日邦人板垣菊一と稱する賣藥業者其妻と共に來り目下開業準備中なり余は昨年春期に至る迄唯一名の邦人をすら數へ能はざりし余の調査區域内に現在次記邦人の居住者を見るに至り而かも此中に婦人を加ふるに至りしことを思ふて邦人發展の著しきに歡喜

を禁する能はず左に余の調査區域内に於る現住邦人を示さん(大正七年一月二十日調査)

地別	職業	原籍	姓名
林西	賣藥商	兵庫縣	山崎茂
同	同	熊本縣	川上荒次
同	同	岐阜縣	板垣菊一
同	同	柘木縣	板垣妻
同	同	山形縣	小笠原常吉
同	同	愛媛縣	小笠原常吉
同	同	鹿兒島縣	阿多石造
同	同	同	同
同	同	同	同
同	同	同	同
土城子	同	同	同

一、大來泉の賣却

客年晩夏五道街二新開以來非常の人氣を博せし洗湯大來泉經營者王明軒は今般都合により土地家屋什器一式を山東人顏學發に讓渡す事となりたるが新經營者は在來の設備を以て尙足らずとし大に改善増設を施す積りなりと云ふ。

### 一、軍界の嬉悦

哈爾濱附近に於る支那軍の活動と露國過激派の失敗即ち武器引渡問題等の當地に傳はるや話は次より次と漸次針小棒大となり居れるが兎も角支那としては近來未曾有の功名手柄なるを以て軍人界の得意は恐らく沸騰點に達し居るものゝ如く特に高級連に此の兆候あるを以て余は近來の訪問に際しては必ず先づ哈爾濱事件を述べ挨拶に換へ之を利用しつゝあり

### 一、菸酒公賣支局長の任免

熱河第二區林西菸酒公賣支局長任啓元は今般家事の都合により辭職せしが其の後任として本月十五日熱河本局より天津人朱聘郷著任せり。

### 一、東烏珠穆沁旗避難民自旗に歸らんことす

最近西烏珠穆沁旗より來林せし者の語る處によれば大正五年蒙匪騷擾の際東烏珠穆沁旗より東、西浩洛特王府を繼なげる道路の中間即ち西烏珠穆沁王府より西北に距る二百五十支

里の地點に避難なし居りたる王府及び同旗民等は騷亂も既に平定せしが如きを以て近々故山の自旗に引上を行ふ由而して本年同地方面の氣温は昨年比し大に温かなりと云ふ。

### 一、防穀令の解除

昨年十一月二十九日發布せられたる林、經、防穀令は烏丹城に居住せる蒙農劉慶臣等の嘆願と運動により去る一月十三日附を以て之が解除を行ふ旨布告せられたり。

### 一、開魯駐屯軍の白麵購入

東蒙古各地昨年凶作の結果農産品及同加工品の價格騰貴せる驚くべきものあるが就中開魯方面は最も痛切に之を感じ居るものゝ如く夫れがあらぬか開魯に駐在せる統領展慶齋は當林西に人を派し配下軍隊用食料品として麥粉十五萬斤の購入に従事せしめ居りしが既に買入豫定量に近付きしを以て近々同地に運搬し去る可しと而して之れが運輸は蒙古牛車を雇用し各牛車五百斤宛を積載し其の運賃百斤當り銀八錢(五百斤にて銀四兩、馭者には給食、積荷を見するに各車二百斤入袋二箇百斤入袋一箇宛を積み居れり)にして麥粉の時價

毎百斤開魯市場七兩上下、林西市場三兩六―七たり。  
余が調査によれば開魯と林西に於る白麵の價格は常に林西市場の方低廉にして普通三割以上の差あれば我が商人の此處に著目する事敢て無益ならざるべし。

一、熱河興業銀行林西支店の營業情態

當市場唯一の金融機關たる熱河興業銀行(舊官銀號改名)林西支店は去る大正五年正月開業以來徐々に發展を期し經營しつゝあり一月三十一日余の往訪に際し同店支配人の語れる同店の狀況左の如し。

現在貸出高 大洋一萬五千元餘

客年年末迄は貸出高常に三萬元前後を示し居りしも昨今陰曆正月迫り來り市場金融逼迫を感じ居れるを以て細心の注意を之に拂ひ貸出を手控へ多く回収に勉めたる結果既述の如く貸出高減少せりと而して貸金に對する利息は毎月一分八厘乃至二分止りにして借入申込人は極めて多數なるも危険分子少なからざるため約束の成立するは甚だ多からず借用人には必ず二名の連帶保證者を要すと。

爲替

當支店が取扱ふ普通爲替取組先は赤峰、熱河、錐子山の三箇所のみにして昨年上半年迄北京天津、の兩地とも取組をなせしが現今都合により之れを中止せり。

電報爲替の取扱を行はず亦た大洋現錢の爲替取組をなさず。

爲替取組手数料次の如し。

赤 峰	大洋票千元に對し	手数料	大洋票	十元
熱 河	同 前	同	同	十五元乃至二十元
錐 子 山	同 前	同	同	十五元乃至二十元

爲替取組先は赤峰最も多い殆ど其の九割を占め其の取扱額毎月約大洋票二萬元位に當り居れりと云ふ。

一、林西及經棚兩地に新開業の邦人經營小質店

元來林西市場には李忠元、王貴祥、李新太、杜永海、蘇玉堂、李紅遠六名の各自經營せる外尙ほ五、六の小質商(押)あり經棚市場に於ても約十戸の同業者あるも共に屋號だに有せ



ざる極て小規模のものに属し其の資本金の如き數ふるに足らずと雖も亦若干下層社會の金融に貢獻せる處ありき然るに最近林、經兩市場に邦人賣藥業者が其の副業として之れを開業し支那同業者に比し利息の低率なると貸出しに勉強せる結果華客娯集し大に繁榮を來し豫想外の好果を收めつゝあり今參考として日、支當業者の營業概況を次に示せば

イ、利息

林西 日商信義當(小笠原常吉經營)貸出交通票(百四十四箇子兒)に對し利息毎日二箇子兒。

支那人側の經營せるもの貸出交通票一元に對し利息毎日二―三箇子兒(利息は華客及びし入質品の如何により既述の如く必ずしも一定せず)

經棚 日商信義當、林西と同様なり。

支那側小押、貸出交通票一元に對し三箇子兒乃至六箇子兒(利息の一定せざる理由林西と同様なり)

ロ、入質品の流期

日商信義當 林西、經棚兩店共に流期六十日。

支那側小押 林、經共に流期一箇月乃至六箇月間。

ハ、雜件

余の調査する處によれば林西に於る日商信義當は開業以來未だ旬日を出でざるの故を以て其の成績充分なりとは云ひ難けれども經棚の同店は既に二箇月以前の開業に屬せるが毎日貸出額平均大洋票十五元以上にして受け質は約其の五割に相當せりと經棚信義當は前記邦人支配の下に使用支那人をして實務に當らしめ林西支店は其の總てを支那人張秀生に委かせをれり因に林、經支那側小押の貸出は各舖毎月二―三十元位の見當なり然して支那商は質札として唯單に木片の表面に符號あるものを渡し日商は次の如き質札を發行せり日商は軍服の入質に應せず。

字第	號
原當蟲咬破舊	
當本	
每元毎日銅元二枚行息	
六十元爲滿過期不得回贖	
大正	年 月 日
民國	年 月 日 票

林西の近況



一、降伏蒙匪の林西入城

吳第二十九師團長に降伏せし蒙匪の一部約三百名は當林西城を東北に距る百八十餘支里小巴林オルゲン廟に來り其れが頭目たる、ロンタン、マントホー兩名は配下兵十六名を伴ひ一昨二十三日林西城に入り中大街福源店に滞在し目下今後の方針に就き前敵司令部と交渉中なり司令部は其の所置に就きて直ちに熱河都統公署に電照せしが如くなるも其の返電に關しては余未だ之れを聞知するを得ず然して福源店門前には晝夜を通じ武装せる五名の兵士を配し嚴重護衛せしめをれるが到林翌日司令部李參謀は頭目を公館に招宴せしと聞く。余は彼等投降者を福源店に訪ひしが彼等は各自一、二挺の自動式亦是舊式拳銃を携帯し服裝も粗末ならず健康状態極めて佳良なるが如く乘馬亦た總て肥大なりと雖も硝煙彈雨の中に奔走せし勇氣滿身の兵の果てなりとは微塵も之れを信する事能はず。嗚呼回顧すれば彼等事を舉てより既に六星霜此の間之れが討伐に従事せし支那兵及び彼等自身により東蒙各地の支蒙居戸は交々焼拂はれ或は家畜家財の掠奪を蒙りたるの外直接に間接に種々の迫害を受け之れを目撃せし吾人をして内蒙全滅の期敢て遠き將來にあらざる

可きを叫ばしめたるが如く頗る慘澹たる情態なりしも幸ひにして今蒙匪全部の投降實現するに至りしを以て之れ迄蒙匪の爲め企業家躊躇し資本家亦逡巡せし市況一進一退せし林西開魯等の市場が今後急足の發達をなす可きは何等疑ふの餘地なきが如し要之蒙匪の降伏は即ち關係地帯の支蒙民を塗炭の苦境より救ひ之迄之れが討伐に従事せし或は之れが來襲に備へし支那兵をして近來特に跳梁を極むる馬賊の討伐に従はしむるを得從て東蒙古各市場の繁盛を自然に誘致するは既述の如き次第なれば之れを何の方面より觀察するも漢、滿、蒙民のため中華民國のため將た大滿蒙に發展しつゝある邦人の爲め大に祝福すべし。

一、林西に於ける一月上、中旬天候風位氣温表

年月日	最高(華氏)	最低(華氏)	天候風位
大正七年一月一日	二十四度	十九度	曇天降雪 午前十一時より快晴
一月二日	三十度	二十一度	晴天
一月三日	三十二度	十七度	晴天 東北風
一月四日	三十度	十九度	晴天 強西風

林西の近況



五月五日	五月六日	五月七日	五月八日	五月九日	五月十日	五月十一日	五月十二日	五月十三日	五月十四日	五月十五日	五月十六日	五月十七日	五月十八日	五月十九日
三十三度	三十二度	三十一度	三十度	二十九度	二十八度	二十七度	二十六度	二十五度	二十四度	二十三度	二十二度	二十一度	二十度	十九度
二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度	二十六度
晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天
西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風	西北風

林西の近況

一九八

一、熱河各軍事機關主要人員表

熱河各軍事機關		機關名稱	職別	姓名	別號	籍貫	通信地點
熱河都統公署	參謀長兼統軍營務處 參謀處	都統兼統軍軍統	參謀官	姜桂題 舒和鈞 夏東曉 蔣尚林 李增堯 寶連寶 楊燦 王開誠 李沐霖	翰卿 祇帖 旭初 鐘阜 勵丞 少卿 子彩 蔚中 恩波	安徽毫縣 湖南淑浦 安徽毫縣 同 直隸天津 河南開封 四川成都 安徽懷寧 熱河凌源	本署 同 同 同 同 同 同 同 同
林西鎮官使署	鎮守使 參謀官	鎮守使	參謀官	米振標 姚致遠 于學忠	錦堂 敬之 孝侯	陝西綏德 浙江山陰 山東蓬萊	林西縣 同 同
朝陽鎮官使署	副參謀官	副參謀官	參謀官	殷貴 孟彥倫 馬鎮藩	錦波 仲廉 介忱	直隸天津 湖南南縣 直隸涿縣	朝陽縣 同 同

林西の近況

一九九

表 員 人 要 主 關

軍醫院	軍機局	緝捕遊擊馬隊	北路巡防隊	東路巡防隊	中路巡防隊	陸軍步兵第二團本部	陸軍步兵第一團本部	毅軍馬隊右翼	毅軍馬隊左翼	毅軍步兵隊第三路	毅軍步兵隊第二路	毅軍步兵隊第一路
院	局	同	同	同	統	同	團	同	同	同	同	統
長	長				帶		長					領
孫洞環	魯維翰	張連同	展慶齊	李占元	袁廣据	王治國	程文沅	常德盛	張殿如	姜占元	馬廉溥	米振標
鄧瞻	沛霖	協堂	心安	級三	佐臣	利用	香浦	子新	敬亭	乾一	子青	錦堂
浙江奉化	湖南寧鄉	河南宜陽	同 遼城	山東鉅野	同 鳳臺	同	安徽阜陽	熱河朝陽	山東濟寧	同 毫縣	安徽渦陽	陝西綏德
同	承德縣	建平縣	開魯縣	平泉縣	豐寧縣	赤峰縣	圍場縣	林西縣	經棚縣	承德縣	同	林西縣

### 林西の近況 (二) (二月末發信)

囑託 大神正節

#### 一、一般市況

一般の商戸は陰曆正月中の事とて未だ開舗せるもの殆ど無之候も毎年の例により明二十七日(陰曆正月十七日)頃よりは其の過半以上商取引を開始する様に相成る可と察せられ候民國元年蒙匪騷動以來當市場に於ては爆竹を禁せられ本年も之れを續行仕り候結果正月中は實に平靜無事を極め別段之れと取立て言上仕る件なかりしも唯各官衙及び中流以上の商店正門の兩側に興安嶺より産出せし松の若木を門松として使用せしは吾人をして所謂冥土の旅の一里塚なる門松も元祖は支那にあらずやと疑はしめ申候。

#### 一、陸軍始

去る二月十六日即ち陰曆正月六日南門外練兵場に於て開操と稱し陸軍始の式舉行せられ林



西城内外に駐屯せる歩、騎、砲の各隊悉く之れに参加し前敵司令官米上將街も臨場致され先づ武神を祭るの式済み各將校、兵士對司令の間に最敬禮の交換あり愈幼稚なる練兵行はれ候が其の指揮に統一を缺ぎ各兵士が動作の極て不活潑なる等寧ろ滑稽に感せられ遂に余をして維新當時の陣羽織時代を追想せしめ候次第に御座候。

### 一、毛票の偽物

當地商務會の發行に係る毛票の偽造品一月下旬頃より市場に現はれるもの少なからざりしが最近に至りては之れが發行當事者すら其が眞偽の識別に迷ふ程巧に造られたる偽票の出現益々加はり殊に三角票に於て甚だしこの噂有之候。

### 一、最近の天候

携帶せし寒暖計の破損以來正確なる温度は之れを知るによしなく候も最近の温度は一月下旬より二月上旬迄の格外的暖かさなりしに比し大に寒冷を覺候も亦昨年之如く格別の寒威と云ふにも御座無く要之時節及び地位相當の温度と思はれ申候但し客年十一月一、二回

頗る僅少の降雪ありし以來本日に至る迄全くの降雪なく爲之氣早の百姓連は既に本年の收穫を心配し潜に眉を蹙め居り候。

十數日前より毎日北或は東北亦は西北の烈風大に其の威を逞しく吹き捲り居り候余の経験によれば之れ聽て解氷と天神よりの御知らせに候。

### 一、交通票の暴落

支那南北の政争は遂に交通票の暴落となり當地電報局の如きは交通票一元を大洋五角半として受取るが如き情態と相成り交通票本位たる當市場は唯々物價を騰貴せしむるの外別に良策もなければ直ちに之が實施をなしたるを以てさなきだに歐洲大亂の餘波を受け一般物價の暴騰せるに搗て加へて此始末客年の當今に比し各物價約二倍以上の高値を示し居り候

### 一、粟粥の施し

林西知縣衙門に於ては貧民の窮況に鑑み去る陰曆十二月二十日より本年三月十五日迄を期し一般貧民に對し一日一回(時刻正午十二時)粟粥の施與を實行なしをれるが身には襤褸を

纏ひ髻髪蓬々たる者或は氣息奄々たる莫比患者等日々三十名前後飢餓より免かれんと來集し大に慘狀を呈し居り候余は之れを目撃し人生に勉勵と努力の如何に必要なかを熟々感じ候半碗の粟粥を口にし僅に一日の飢餓を凌ぐ彼等の前半生多く不熱心、不忍耐の歴史のみならんと肯つき申候。

一、芝居

陰曆年末より年頭にかけて大官連又は中産以上の商戸に招かれ稼ぎをりたる座長胡學海が率ゐる馬脚連の一座は城内北隅の地を選み粗末なる舞臺を作り昨二十四日より向ふ十日間の豫定にて開演致し居り候が近郷より態々見物に來る者も澤山にあり仲々の賑ひに候殊に此の項に申添へ度きは凛冽たる寒風に面を晒し鼻汁を吸り或は垂れ放しながら連日觀劇に消光せる觀演し同様の支那兵多數なることに御座候。

一、經濟界に關係ある官公署の收入

見方によりては當林西市況の一端を窺ふに足る可しと信じ經濟界と最も關係深き諸官公署の收入を次に表示し御參考に供し度候。

A. 林西税捐徴收總局 (元以下切り捨て)

月別	大正五年度總收入	大正六年度總收入
一月	大洋 六百七十六元	大洋 七百五十三元
二月	同 三百七十一元	同 九百二十五元
三月	同 八百五十五元	同 九百〇二元
四月	同 七百七十七元	同 九百十八元
五月	同 七百六十三元	同 九百五十六元
六月	同 七百四十六元	同 七百一十一元
七月	同 六百五十五元	同 八百四十四元
八月	同 六百五十五元	同 九百十七元
九月	同 八百七十八元	同 九百四十八元
十月	同 千〇二十七元	同 千百三十三元
十一月	同 千五百九十六元	同 千三百七十七元
十二月	同 千〇九十一元	同 千百六十二元
合計	同 一萬〇〇二十五元	同 一萬千五百三十九元

依之觀察すれば當市場輸入期は十、十一、十二月の三箇月間最も旺盛の時期に候。

B. 車計捐局 (大正六年度収入月は陰曆を示す)

月	別	金額	月	別	金額
一	大洋	五元	七	大洋	百五十元
二	同	七元	八	同	百六十六元
三	同	四十八元	九	同	百八十七元
四	同	七十六元	十	同	百五十七元
五	同	九十四元	十一	同	百八十九元
六	同	八十四元	十二	同	百二十三元
總計大洋		一千二百八十六元なり			

C. 口北蒙鹽林西支局

大正六年度收入總額大洋五萬二千六百〇八元鹽百斤毎に大洋二元の税金に候條都合二百六十三萬〇四百斤のタムス鹽が輸入或は通過したる次第に御座候無論當市場及近郷の住民が日常使用する量は高の知れたものに付殆ど其の全部は烏丹城、赤峰方面に南下したる筈に候然して林西を通過せしは右記金額の約十分之六英上十分之二東河十分之二に相當し大正六年タムス鹽產出額總計二千七百三十萬斤之れよりの收稅總額大洋五十四萬六千元也とは

林西支局長の直話に御座候。

尙從來の支局長は其の部下がなせし不正事件の責を負ひ部下全員と共に客月辭任致し候其の後任として多倫より來林せしは浙江杭縣の產鄭箒と稱する文明的青年紳士に候。

終りに御參考として林西市場に於る官許鹽販賣店を示せば次の通りに候。

甲等鹽坊(年稅大洋五十元)

福盛和、道生永、德源遠、廣發成、福元長、萬太恒、同竹店、義元長、福興厚

丁等鹽坊(年稅大洋六元)

蔚大魁、慶德亭、德潤成、巨慶永、永發合、元亨號、劑成文

D. 菸酒公賣支局

公賣支局に於ては收入を根柢とせる大正六年度輸入額を調査仕り候處

燒酒 赤峰より輸入十二萬餘斤

同 林西土產額二十萬斤位 (大正七年度より)

葉煙草 開魯方面より輸入五、六千斤

同 林西土產額一萬餘斤

林西の近況



右之通りに御座候實は葉煙草も從來は毎年赤峰、烏丹城方面より輸入を計り居り候處客年の早魃は遂に同地方面に於て之れを他市場に迄輸出するだけの收穫なかりし結果止むを得ず之れが供給を開魯方面に求めし次第に候由

E. 林西牲畜局收入 (大正六年度)

月別	金額	月別	金額
一月	大洋 十五元	七月	大洋 五十元
二月	同 二十二元	八月	同 五十五元
三月	同 三十五元	九月	同 四十元
四月	同 三十五元	十月	同 六十元
五月	同 四十二元	十一月	同 五十八元
六月	同 二十五元	十二月	同 三十五元
合計	大洋四百七十二元		

林西税捐徴收總局より劉仕如なる者月大洋十五元にて請負ひ代理經營致しをるものに係り候。

實際の收入は恐らく既述の金額より五、六割以上多額ならんと余は推定仕り居候。

一、多倫諾爾の排日

林西以外の事に屬し候も御參考迄にもと是非御報告仕り度候は多倫の排日然かも官憲の排日に候。

邊般當地を經由し多倫諾爾に赴きたる余の知人滿鐵調査課星君が同地に於て同人携帯の護照に調査云々と記入なきため調査出來不申と縣衙門より不合理の威壓を受けたる由は既に當時聞知し不都合な奴原なりと思ひ居り候時も時同方面を最近旅行中なる友人蕭本東亞通商協會派遣員井上權藏君が多倫より二月十六日附小生に宛て出だせし信書を見るに同地官憲の排日所置に就て記述せしもの有之候間原文の儘次に記載仕候。

前略當地に(多倫)來てからも大分「コナサレ」ました知事に面會すると星氏と同様の事を繰り返しました然し私共は電報は打ちませんでした宿屋には晝夜四名の巡警が付き切りて私共を監視して居ります全で罪人扱ひの様です度々役所にも行き談判もしましたが駄目ですだから是非兄が一度當地に來て一つやつて貰はなければ將來日本人の發展上頗る不都合だと思ひます。後略

此の外余は赤峰在住の日本人にして多倫に旅行せし一二人の人よりも同地官憲が極めて排日的なる事を聞き及び居り候兎も角多倫官憲は決して決して親日主義にあらざる事だけは動かす可からざる事實と存せられ候。

### 一、口北蒙鹽林西分局の佈告

二月二十三日附を以て口北蒙鹽林分局は次の如き佈告をなせり。

口北蒙鹽林西分局局長鄒、爲、

出示佈告事照得鹽稅收入業已抵歸外債運販私鹽律有專條本局長下車伊始以巡緝私鹽增多稅收爲著手辦法茲訪聞林西境內商民等噸積私鹽甚多販運私鹽者亦不少爲此示仰該商民等務將噸積私鹽從速開明數目來局或各支局呈報納稅俾便運銷倘有不肖之徒隱匿不報者查出定行從重罰辦決不寬貸莫謂言之不預也毋違切切此示  
右仰咸知

中華民國七年二月二十三日

依之案するに經棚、赤峰、圍子山、張家口、獨石、龍化等の分局に於ても恐らく大同小異

此の調子なる可ければ先に報告第二十九號を以て報告済なる大正六年度タムス鹽産出總高及林西分局取扱數は實際の八、九割に相當せりとするを以て真に近きものとするを得べし。

### 一、投降蒙匪の解散

先に報告なし置きたる投降蒙匪中其の隊長株三十四名は依願鎮間使署に一半を毅軍馬隊右翼に(統領常德盛)一半を使用し殘員三百餘名は悉く之れを解散歸郷せしむる事に決し彼等の携帶せし武器は普通銃一挺八元乃至十元拳銃一挺三十元乃至四十元の割にて買取り去る二月三日を期し各其の郷里に向て去らしめたり因に鎮間使署に買取りたる銃器數量は普通銃百十五挺、拳銃二十三挺にして彈丸極めて僅少數ふるに足らず。

### 一、前敵司令部の警戒

南北政争の餘波を受け何時如何なる不祥事件出態するやも計られずとて前敵司令部に於ては去る二月二十五日各隊兵士の銃彈を悉く取上げ且つ甲營の兵乙營の者を訪ふに當りても必ず自己所屬營官の證明書を要する事を規定し大に警戒に勉めをれり。

### 一、狼免進

林西城内各所に於て宅地を圍める土壁に石灰水を以て大々的網形模様の畫がかれたるを見受け其の意を得ず不可思議の事に思ひ居り候處土人の解譯によれば網に見せ狼の亂入を防ぐものゝ由に候流石は興安嶺中の市場に候はず哉。

### 最近の土城子便り

囑託 大神正節

土城子に定住商業に従事し余と親交ある支那人某本日來林せしを以て同地の近況を聞くが儘に報告す。

### 一、稅務支局長の革職

多倫關經棚土城子稅務支局長朱炎の去りし跡を襲ひ昨秋同局局長として任官せし乳某は常に酷稅を課し其の他にも不都合の點多しと風評頗る宜しからざりしが今般遂に商務會及び

管帶官楊學懷の彈劾に因り革職せられ順天府人傳福榮の就任を見るに至れり。

### 一、馬賊の跳梁

馬賊の横行は一時中絶せしが如かりしも之れ動に就く靜の一態なりしか近來年末に迫ると共に再び跳梁を極め廣徳公より赤峰に至る路上三岔口を北に距る五支里哈來海窪に於ては連日出沒をなし往來の旅客及び運送業者にして此の難に遇ふもの少なからず爲めに土城子駐在の毅軍左翼馬隊第四營よりは楊管帶自ら一哨の兵を率ゐ之が討伐に赴きしも何等得る所なく本月十五日空しく歸營せりと尙哈々氣雙井子間の沿道にも約七、八名よりなる馬賊常に出沒し既に三十餘輛の馬車を襲ひ現に約一千七、八百元を掠奪せる由。

### 一、一般市況

市況は頗る不振にして陰曆一、六の日に開催せらるる市日に於ての取引商等算するに足らず各雜貨舖に於ける當日賣上額洋一元乃至六、七元位の程度なりと穀類及同加工品は追日價格騰貴するのみにして現今の相場次の如し。

小	米	每斗	小洋廿乃至廿一毛	苦	蒜	每斗	小洋	八毛
小	麥	同	八毛	白	油	百斤	同	二百毛
小	麥	同	二十毛	麵	每斤	同	小洋	八個子兒
黃	豆	同	十五毛	燒	酒	同	小洋	三毛

一、羊毛及羔子皮に就て

春羊毛(細羊毛)は約二十萬斤を集收し得可く品質は烏丹城方面に産する砂毛(毛に砂の混交となせるもの)と異なり最も上等品なりと。

追日寒威加はると共に兎羊の斃死するもの多く舊十二月一日の市日に十數枚の羔子皮を見たり昨年例によれば羔子皮は舊十二月、一月、二月中旬迄に互りて約七八百枚位を集收し得る見込みなり最も七棵樹、八分地を併せなば既記二倍以上に達するを得可し然して昨年の平均價格は一枚當り小洋八、九毛なりしと云ふ。

一、交通票暴落の影響

過般來交通票の暴落は林西、經棚、劉家營子の諸市場と共に當地經濟界にも大恐慌を來た

し大小の各舗一つとして之れが打撃を蒙らざるものなしと雖も時恰も舊冬決算後なりしを以て比較的損害多からざりしは不幸中の幸なり然して林、經、劉と共に交通票本位の市場たれば諸物價の騰貴實に甚だしく其の一例を示せば(時價)

燒酒 一斤四毛 麻油 一斤四毛  
 洋油 一斤四毛二個子兒 白麵 一斤一毛(但し賣手なし)

其他洋雜貨類一切約六割方の騰貴にして雜穀は舊正月中に付一、六の市日に於ても一人の取引者すらなく従て行市立たざるも地方人の豫想によれば小米子は一斗四十毛位に暴騰し他の雜穀又た之れに準ず可しと云ふ尙收稅局に於ては交通票一元を大洋五十五分五として受付け(林西も同様)居れりと。

## 南滿洲に於ける邦人經營 鑛山一覽 (大正七年四月)

鑛山名	位置	鑛區	鑛業權者又は經營者	現況
撫順炭坑	奉天省撫順縣	五千八百二十九萬	滿鐵會社	出炭高最近一日七千噸以上外に礦安十七八噸、該炭二十餘噸、目下尙擴張中
煙臺炭坑	奉天省遼陽縣	二百十二萬一千六百七十二坪	同上	出炭高一日約三百噸
石碑嶺陶家屯炭坑	吉林省長春縣		同上	休止
炸子窰炭坑	奉天省蓋平縣		滿鐵會社(森田彦三郎借受)	土法採炭、冬期稼行一箇年三百噸内外
本溪湖炭坑	奉天省本溪縣	萬坪	日支合辦本溪湖煤鐵公司	出炭一日一千餘噸、該炭一日三百餘噸、目下尙擴張中
西安炭坑	奉天省西安縣	約一百萬坪	日支合辦西安煤鐵公司(東洋炭坑株式會社支配人淺田龜吉探掘販賣契約)	試掘中
田師付溝炭坑	奉天省本溪縣	約一萬四千畝	富華公司(本溪湖煤鐵公司一手賣炭契約)	目下休止 貯炭約一萬噸
同	同	約五千畝	日支合辦本溪湖煤鐵公司	未着手
搭連炭坑	奉天省撫順縣	三千百七十六畝	日支合辦大興煤鐵公司(東洋炭坑株式會社探掘販賣契約)	出炭一日約三百噸、土法探炭
牛心臺炭坑	奉天省本溪縣		彰合公司(石本領太郎)	出炭高冬期一日二百噸乃至三百噸

南滿洲に於ける邦人經營鑛山一覽



南滿洲に於ける邦人經營礦山一覽

下牛心臺炭坑	奉天省本溪縣	三萬二千四十七畝	附信公司(深川某代表田中重太郎探採販賣契約)	土法探採出炭高冬期一日百噸内外新坑開鑿中
寨馬集炭坑	同		雙合裕煤礦公司(東洋炭礦株式會社探採販賣契約)	試掘中
大窰溝炭坑	奉天省錦縣		通裕路鐵礦公司(安川敬一郎借款)	出炭高一日三百噸内外
小瓢屯炭坑	奉天省撫順縣		調興公司(南昌洋行今岡義一郎借款)	出炭一日二十噸内外新坑開鑿計畫中
缸窰炭坑	吉林省舒蘭縣		峰旗其蓋、伊隆鄉合辦出願	
天和屯炭坑	吉林省磐石縣		峰旗其蓋、李尊賢合辦出願	
老頭兒溝炭坑	吉林省延吉縣		日支合辦南滿洲大興合名會社出願中	
杉松崗炭坑	吉林省輝縣		日支合辦同興煤礦公司(本庄渡衛)	今冬より開始
沙河子炭坑	吉林省伊州縣		受商公司加藤清吉合辦	依止
懿路炭坑	奉天省奉天縣		華盛公司(東洋炭礦株式會社探採販賣契約)	試掘中
大臺山炭坑	奉天省鐵嶺縣		和興公司(石本領太郎買炭契約)	依止
石門寨炭坑	奉天省撫順縣		小寺洋行	試掘中
暖地塘炭坑	直隸省錦西縣		泰記煤礦公司(日支鐵業株式會社三谷末次郎)	準備中
石門寨炭坑	直隸省臨榆縣		大新公司、大興公司(大倉組、瀧敷會社)	一日續石約一千噸を處理せり
新邱炭坑	直隸省阜新縣		明德公司(小寺洋行探採製煉)	
夾山金礦	奉天省興城縣	五百三十七畝		

天寶山銀銅鑛	吉林省延吉縣		日支合辦南滿洲大興合名會社	一日平均八十貫の鑛石及鑛滓を處理せり
馬鹿溝銅鑛	奉天省本溪縣	二百五十五畝	葆真、大倉組	試掘中
小邊溝銅鑛	奉天省鳳城縣		日支合辦中日鐵業公司(森峯一)	同
旋嶺鉛鑛	奉天省本溪縣		日支合辦中日鐵業公司出願	
磐嶺銅鑛	同		同	
鞍山鐵鑛	奉天省遼陽縣		日支合辦振興公司(窪田彌助、于沖漢)	西鞍山、櫻桃園兩礦區探掘中(露天掘)
廟兒溝鐵山	奉天省本溪縣		日支合辦本溪湖煤鐵公司	一日二百噸乃至三百噸(坑道掘)食礦探採準備中
八盤嶺鐵山	同		同	試掘中
通遠堡鐵山	奉天省鳳城縣		同	同
吉祥嶺鉛鑛	奉天省本溪縣		孫世榮(東洋炭礦株式會社探採販賣契約)	昨年來試掘中の處目下依止
康莊子鉛鑛	奉天省撫順縣		篠崎、軍吉	試掘中(?)
臥龍村小河銅鑛	奉天省本溪縣	千二百十六畝	張錫藩、石本權四郎	試掘中
弟兄山鐵鑛	同		本溪湖煤鐵公司(東洋炭礦株式會社各探採員買炭契約)	未着手
新莊炭坑	奉天省錦西縣		受商公司(加藤清吉)	依止
董家溝炭坑	奉天省錦西縣	百八十萬坪	君塚茂太郎	冬期百十七、八噸
老鐵山金鑛	奉天省興城縣	百八十七萬九千五百十五坪	關東都督府	試掘中

南滿洲に於ける邦人經營礦山一覽

南滿洲に於ける邦人經營礦山一覽

一一〇

海城滑石產地	奉天省海城縣	海城全額公益公司(一手販賣) 日本貿易商會大羽豐治(滿鐵)	作業中、多量の貯蔵あり
大嶺滑石產地	同	天興公司(三和公司關甲子即出資)	作業中
菱苦土礦產地	奉天省蓋平縣	日支合辦振興公司	多量の貯蔵あり本礦を目的とする工業會社設立計畫中
復州耐火粘土產地	奉天省復縣	大業公司(一手販賣佐志雅男滿鐵)	
重晶石產地	關東州	松崎林兵衛 外十數名	

右の外滿鐵會社に於て生産物の一手販賣を契約せるもの尾明山炭坑等あり。

### 白音太來通信 (大正七年四月一日)

左記は白音太來在任醫師大田勤氏よりの通信なるが同地の近況を知るに便なりと認め茲に掲載す。

當白音太來即ち通遼鎮に設治委員富明哲三月二十七日著任したり彼の聲明する處によれば彼の來任は當市に近く縣治施政を開始するの準備行為の爲なりと從來當市が全く間接的施政の下にありて萬事至極簡略に決濟せられ特に日支商民間に於ける交渉事件の如きは當日本人會は商務會及警察側と圓滿なる妥協に依りて常に穩便に處理せられつゝありて日支人間の交情は殆ど他地方に見る事能はざる程の親昵を保ちつゝありしも今や事大的權威を濫用する吏僚に依りて縣治を布かるゝと云ふに至つては總ての施政は集約且つ複雑となるべきは勿論にして而かも彼吏僚等が排外思想を有するものならんか我居住民今後の行為態度は須く警戒を要し亦營業上の改善に意を用ゐざるべからざるの時節到來せるものと云はざる可からず隨て當日本人會に於ても交渉問題の發生頻繁となるべきを期するものなり。

果然彼設治委員富明哲は來任未だ旬日を出でざるに支那人民に對し次の如き訓諭を布告せり。

白音太來通信

一一一

一、當地商民及び一般に對し低利の資金融通をすべく新金銀號及び公益錢莊をして其の衝に當らしむべし

二、開放地内土地賣收者は速に地券書換及び登録手續をなすべし

三、外人に對し土地家屋を抵當として貸借をなすべからず

四、外人に土地家屋を質若しくは擔保となせるものは速かに義務履行の上該抵當物を引取るべし

如斯令達は所謂る利權の保持を意味するものにして即ち邦人の質業、金貸業者に對し反抗的行爲を隱に敢行するの方針に出でたるものなるが如し果して然らば彼富明哲は奉天將軍より内蒙に於て如何なる施政方針を受けて此の地に蒞みたるか吾人は今後に於ける彼の行爲に意を注がざるべからず抑も富明哲は前きに蒙古土地局の次長の席にありて蒙古の事情と地利、言語等に精通せる人物なるを以て特に選任せられたるものならん或は奉天督軍の内蒙殖民政策否其の蒙古跳梁の便宜上或種の意味を佩びたる特命官吏にあらざるなきか既に二十七師の所領地と稱する錢家店に於ける二千方地餘の土地經營の實施せられんとするあり又當白音太來及び開魯方面の土地獨占の畫策せられつゝあるの際縣治政治委員の名

によりて彼が如き人物を此の地に特派したる真意の存する處敢て忖度するに難からざるなり夫れ如斯して内蒙の肥饒地は奉天督軍の思ひの儘に調理せらるべく而かして邦人の内蒙土地經營に對し隠然其の防衛策は周到に廻らされつゝあるものと見做す事を得べし。

次に最も注意すべき一事は、或る有力なる一支那人の直話なるが、張督軍は曩の頃より達賴罕王に對して次の如き交渉を強求しつゝありと云ふことなり。即ち同王が奉天將軍に負へる債務の返済方法として、同王旗下地帯内に於ける甘草を採集して甘草公司を組織し、其の利益の一部を同王の收得とし、其の一部を守備兵費用とし、其の一部を以て舊債の返却に當つべしと、同公司の組織未だ同王の承引を見る迄に至らざるも、具體的に實現するの期あるべし。

四月十四日滿洲里方面よりソロン山を越え來たり當地西南六十支里の餘糧堡を通過したる大馬賊團ありて其の圍隊中に露人三名ありて南方賓圖王旗下の沙漠地帯に入込みりと果して主將が露人なるか或は獨人なるか不分明なるも時局柄大に注意を要するものとして一般に評し合へり當地馬隊四十騎斥候として二十八日同方面に向向したり。

## 氣候と浸水

三月初旬頃より氣温高き爲めに地層の水結も逐次解け三月十七、八日頃より蔬園地は起耕に着手しつゝあり而して本月に入りて數回の降雪ありしも西北の暴風の爲めに地上には殆んど積らず風留りに吹寄せられて數尺に達せるもの漸次溶けつゝあり爲めに道路泥濘歩行不能なる箇所多し本月十五日頃よりは當市外壁外の平地は西遼河の解水の爲め濁水氾濫して低地一面に漲り漸々増水して外壁は約二尺の水嵩に浸され西ウインドホアーより東北オルバコより東鐵家店に互り恰も白音太來を中心として半圓形の濁水面に圍繞せられ當市は大海中の一小島嶼の如き觀あり従つて東方鄭家屯通路は或る部分に於ては馬腹を浸し處々濁水の下層をなせる薄き水結を踏破するの危険を侵して渡渉するか遠く東西方の砂丘を迂迴して僅かに入市するを得べく又西方開魯とは全然通行杜絶にて旅人の滞在者多かりき今後の減水は恐らく十日間を俟たざれば行通不可能なるべしと懸念し居たるが昨秋に於ける大洪水の儘結水せる上流區域が遠く且つ廣汎なるを以て遽に水量の増減を豫想し難きものありき二十三日正午頃遽に警鐘鳴り響き當市西方の外壁の一部の浸水面暴風に煽られて浪高

く打ちて崩壊せんとすと報せられ同時に市民陸續現場に雲集し直に防禦工事に勉めたり其の間警吏騎馬の軍民馳せ違ひて人心恟々として不安の状を示したり本醫院の如きは位置最低窪にあるを以て昨秋の浸水に鑑みて日支の市民は寄り集ひて好意的に急遽前門二、三尺の防水堤を築き呉れたりしも幸にして外壁の防禦工事完成の速かなりしより浸水の難を見ざりしも日は既に没して風力倍々加りて危険尙ほ去らず外壁警衛の市民は壁上に夜を徹したり翌二十四日は依然烈風吹き暴れて波高く風位は正北と變じたるを以て北壁又危しとて殆んど前日と同一の混雑を呈し二十五日は南壁の崩壊の急を告ぐるなど市民は殆んど寢食を忘れて防禦工事に忙殺せられたりしも二十六日午後一時頃より漸々減水の兆ありて一同稍々安堵せり當市が如斯年々歳々水難に悩まざるゝは地形上免れ難き大缺點にして元來建設當時其の位置選定を誤りたるに基くものなり在任蒙古人等の云ふ處によれば當市の現場は附近中の低窪地にして西遼河及清河の氾濫により容易に浸水せらるゝ區域なりと彼等蒙古人は呪詛的に揚言して曰く滿漢人が我等の所領地を奪略せる應報により天神の苛責を享け毎歲斯如き困憊の憂き目を見るは痛快事なりと要するに當市の永久の策としては現場に隣接せる南方の砂丘を中心とせる高地に漸次轉位するを最良とす何づれ近き將來に於て其

時期到來すべきを信ず。

達賴罕王所領地帯より採集する甘草根を專賣となすの説あるも如何なる法によるか確聞するを得ざるも目下當地地方官側に於て主唱せられ居れるを以て或は近く何等かの形式によりて彼等の收利方法は講せらるべし隨て邦人の甘草收集業に多少の影響を及ぼすべきか。四月一日より二等格式の郵便局開始せられたるを以て通信上多少の進歩を告げたるものと云ふべし。

大正七年五月八日印刷  
大正七年五月十日發行

### 關東都督府民政部殖産課

大連市東公園町十七號地  
印刷人 嶺 田 嘉 三

大連市東公園町十七號地  
印刷所 株式會社 滿洲日日新聞社